内陸地域における古代の堅塩生産と流通
—山梨県南アルプス市鋳物師屋遺跡群出土資料を中心とした考古学的検討から—

平　野　　修

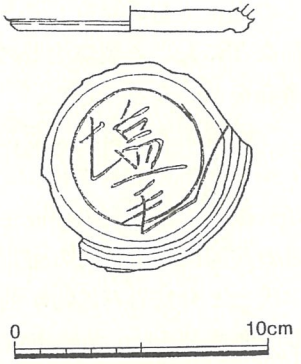
はじめに
Ⅰ．製塩土器資料調査の経緯と経過
Ⅱ．出土資料の概要
Ⅲ．出土遺跡の概要と歴史的環境
Ⅳ．製塩土器の出土状況からみた鋳物師屋遺跡群の性格について
Ⅴ．今後の課題
おわりに

はじめに

今回取り扱う製塩土器資料群は、山梨県南アルプス市に所在する鋳物師屋遺跡、〆木遺跡を含む鋳物師屋遺跡群の出土資料である。両遺跡は、別々の年次にわたり発掘調査が実施されており、行政区画の関係で別々の遺跡名が付されているが、もともとは川上道下遺跡も含み同一面に立地する一つの遺跡である。いずれの遺跡もすでに発掘調査報告書が刊行されており、今回は、出土土器資料の再調査が可能であった鋳物師屋遺跡と〆木遺跡で製塩土器の抽出をおこなった。

なお、本稿では「製塩土器」という用語を使用しているが、その定義については、鹹水を煮詰め、結晶化させる工程（煎熬）を土器でおこなう「土器製塩」に用いられた土器ではなく、別の容器で作製した粗塩状態の塩を二次的に焼き締め、固形塩にするための小さな土器、もしくはこうした塩を運搬するための容器（土器）と捉えている。これは岩本正二氏の概念に依拠するものである（岩本1983）。古代の固形塩は、苦汁（にがり）分が残ることから、苦汁分がまったくない「やきしお（焼塩）」ではなく、「かたしお（堅塩）」であるという渡辺誠氏の指摘があり（渡辺1987）、ここでは「焼塩土器」なのか「堅塩土器」なのかという混乱をさけるため、敢えて「製塩土器」という名称を用いることとする。

さて、この製塩土器は、どの遺跡でもあまねくみられるものではなく、たとえ出土していたとしても、一つの遺跡における全出土土器の割合からすれば、1%にも満たない極めて低い出土率の土器である。こうした製塩土器は希少性が高い土器であり、それ故にこの土器に入った塩も希少性が高い「特別」な塩、あるいは「高級」な塩であったと言うこともできよう。このことは以前拙稿で紹介したように（平野2010・2013、平野・閏間2014、平野・御山2015）、山梨県山梨市所在の三ヶ所遺跡で、出土した製塩土器片の量は1個体分にも及ばないが、土師器坏の底部外面に「塩毛」（「毛」は「笥」の意か）と明記された刻書土器が出土した（第1図）発掘調査事例からもうかがえる。今回は山梨県南アルプス市鋳物師屋遺跡群出土資料を中心にその製作技法や、これらが出土した遺跡・遺構の再検討をおこない、消費地である内陸の古代地域社会における特別な塩の生産と流通をめぐる問題を考えてみたい。



第1図　三ヶ所遺跡第3次3号竪穴出土「塩毛」刻書土器実測図（山梨市教委2014報告書より）

Ⅰ．製塩土器資料調査の経緯と経過

本資料群は、平成20年（2008）段階まで山梨県内では出土報告事例がなかった古代の製塩土器が、同年2月に開催された山梨県考古学協会主催の「塩の考古学—ゆく塩、くる塩、古代の塩とその流通を考える—」シンポジウムの開催（以下、「2008年シンポ」とする）を契機に、山梨県内研究者の間で製塩

土器が意識され、認識され始めたことによって報告が相次いでされるようになった資料である。その後平成24年（2012）５月段階までには、未報告資料を含めて９遺跡から破片数にして750点ほどの製塩土器資料が確認されるまでに至っている（平野 2010・2013）。

そして平成24年に入り筆者が、「中部地方内陸地域における古代・中世の堅塩・焼塩の生産と流通に関する研究」と題して申請した、平成24年度（2012）基盤研究Ｃ科学研究費補助金申請が幸いにも採択されたことから（課題番号：24520864）、平成24年度～26年度にかけて、山梨県内の韮崎市域および南アルプス市域における報告書刊行済みの遺跡についての出土土器の見直しと、隣接する神奈川県や東京都などにおける製塩土器の可能性がある資料の実見調査をおこなってきた。

今回の調査によって新たに抽出できた韮崎市・南アルプス市の資料群については、実測・トレース・写真撮影・観察表の作成までおこない、さらに本課題の共同研究者である帝京大学文化財研究所の河西学氏とともに岩石鉱物学的胎土分析もおこなっている（河西 2014）。韮崎市域の資料については、先に紹介した2008年シンポを機に韮崎市教育委員会の閏間俊明氏が事前に、韮崎市内の奈良・平安時代の主要遺跡で、古代巨麻郡家の一画と推定される宮ノ前遺跡群の未報告土器資料の中から、総点数177点、総重量にして1,098gに及ぶ製塩土器資料を抽出されており、それら資料を平野が平成24年度（2012）に入り引き継ぎ、実測・トレース作業、写真撮影、資料観察表の作成および分析をおこなった。その成果は、2014年５月刊行の山梨県考古学協会発行の『山梨考古学論集』Ⅶの紙面上に、閏間俊明氏と連名で「山梨県韮崎市域の新発見古代製塩土器」と題して発表している（平野・閏間 2014、以下平野 2014 拙稿と略称する）。

南アルプス市域については、本課題の研究協力者である南アルプス市教育委員会の斎藤秀樹氏と協議した結果、資料の再調査がおこない易く、同市内における奈良・平安時代の主要遺跡である鋳物師屋遺跡と〆木遺跡に対象を絞ることとした。平成24年（2012）の秋頃に斎藤秀樹氏とともに数十箱に及ぶプラスチックコンテナに収納された未報告出土破片資料の中から、製塩土器と思われる土器片を多数抽出することができた。その量は、鋳物師屋遺跡からは総点数495点、総重量にして2,2923g。〆木遺跡からは総点数44点、総重にして量202.3g、両遺跡合わせて総点数539点、総重量2,494.6gとなり、韮崎市域を上回る量の新資料を抽出することができた。抽出できた資料数が予想以上であったため、課題の予算や期間との関係から、資料化するものは、口縁部を有する破片、大型の破片、成形に特徴をもつ破片などを中心におこなうこととし、その資料化作業および分析作業については整理体制が整う平成25年度（2013）と平成26年度（2014）に実施することとなった。

Ⅱ．出土資料の概要

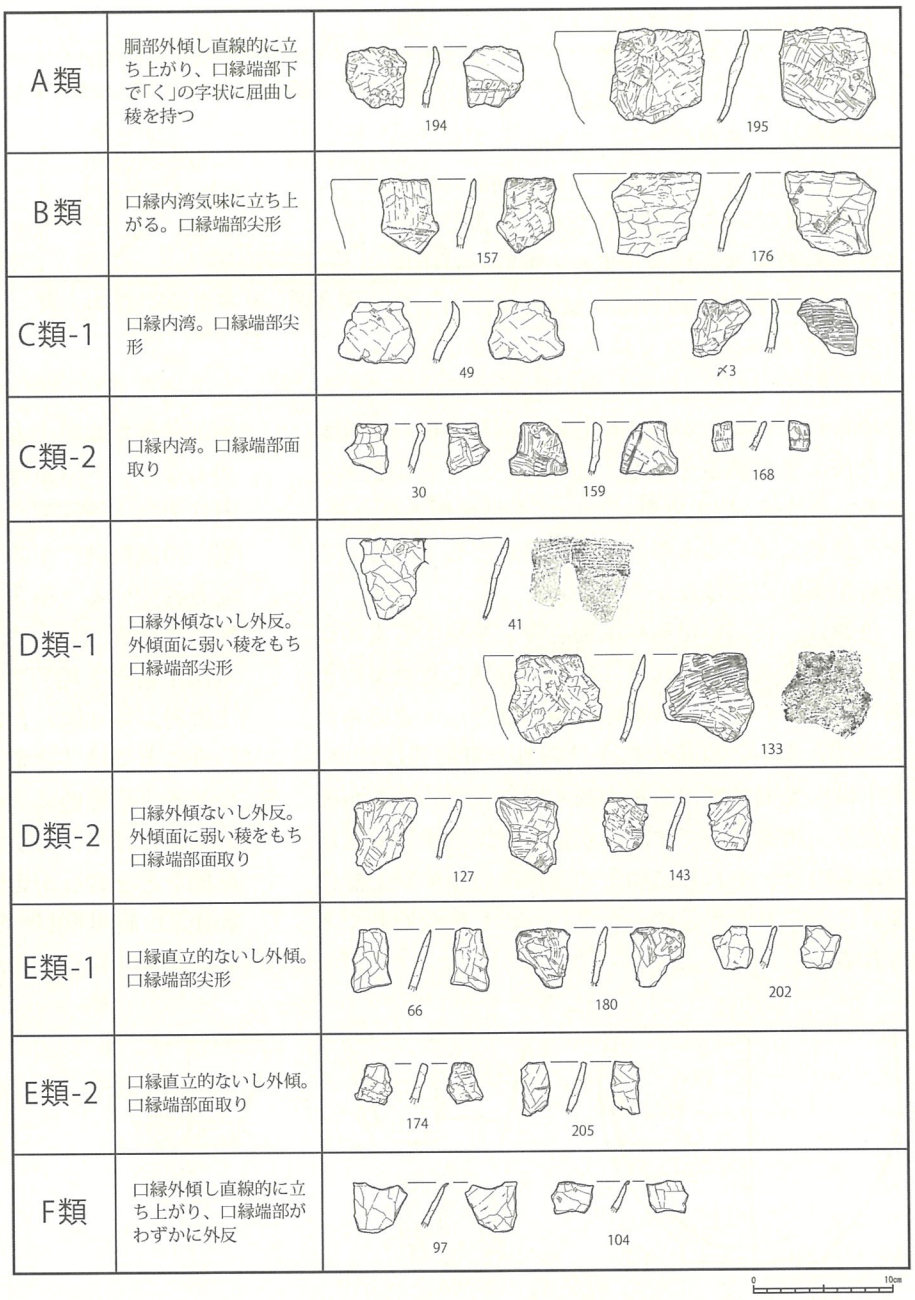
鋳物師屋遺跡および〆木遺跡の製塩土器資料は、先述したように鋳物師屋遺跡からは総点数495点、総重量2,2923g、〆木遺跡からは総点数44点、総重量202.3g、両遺跡合わせて総点数539点、総重量にして2,494.6g抽出できたが、予算的および日程的なことを考慮して口縁部破片や大型破片を中心に再選別をおこない、鋳物師屋遺跡抽出資料については、208点、総重量1,349g、〆木遺跡抽出資料については、15点、総重量44gを資料化することとなった（第16・17図参照、平野 2015）。

鋳物師屋遺跡および〆木遺跡の製塩土器資料は、韮崎市出土資料と同じく底部破片の存在はは皆無に等しく、〆木遺跡21住出土資料（第３図）の１点のみである。口縁部から胴部までのいずれかの破片資料が大半で、しかも図上復元さえも不可能なほどの小片資料が大半を占めている。推定口径を導くことができた資料は数点であり、いずれも10cm前後を測る。基本的には円錐形を上下でカットしたようなコップ形であり、口縁部が直線的に立ち上がるか、内湾するか、外反するか、胴部にくびれがあるかないかという程度しか基準が見いだせない。都城や他地域で出土している尖底・丸底の砲弾形や筒形、平底の平鉢形などといった形態は、現在のところ確認されていない。ただ底部形状については、まだごくわずかしか確認されていないので、尖底・丸底の資料が存在する可能性はある。

器壁の厚さの違いや、口縁部の形態や端部の仕上げなどにバリエーションがみられる。器壁の厚さは指頭調整のため一定はしていないが概して薄手である。破片資料であるため局所的な厚みかもしれない

が、敢えて分類すれば①４㎜以下の薄手のもの。②５～９㎜の中厚手のもの。③10㎜以上の厚手のものの三つのタイプが認められる。口縁部形態では、その端部が内湾するもの、あるいは直線的なもの、やや外反するものの三つのタイプが認められ、さらに口縁端部を面取りしているものとしていないものがみられ、面取りしているものがやや多い。

韮崎市出土資料では口縁部から胴部上部の形態的特徴から、Ａ類からＥ類の５つに区分し、それに口縁端部に面取りを施すか施さないかという基準を加え計７類型に分類してみた。しかし今回の南アルプス市出土資料の観察で、Ｄ類にも口縁端部を面取りするものが存在することや、Ｄ類のイレギュラーかもしれないが、新たに口縁が外傾して直線的に立ち上がり、口縁端部のみがわずかに外反するタイプ（鋳物師屋 94・107）がみられ、これをＦ類とした。まとめると以下のようになる（第２図）。



第２図　鋳物師屋・〆木遺跡遺跡製塩土器分類図

Ａ類：胴部外傾し直線的に立ち上がり、口縁部が「〉」状に屈曲し稜をもつ。

Ｂ類：口縁内湾気味に立ち上がる。口縁端部尖形。

Ｃ類-1：口縁内湾。口縁尖形。

Ｃ類-2：口縁内湾。口縁端部面取り。

Ｄ類-1：口縁外傾ないし外反。外傾面に弱い稜をもち口縁端部尖形（胴部にくびれ）。

Ｄ類-2：口縁外傾ないし外反。外傾面に弱い稜をもち口縁端部面取り（胴部にくびれ）。

Ｅ類-1：口縁直立的ないし外傾。口縁端部尖形。

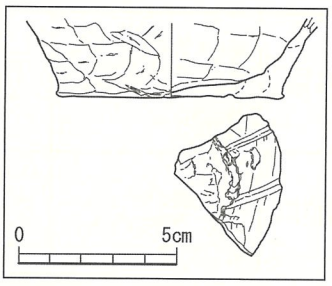
Ｅ類-2：口縁直立的ないし外傾。口縁端部面取り。

Ｆ類：口縁外傾し直線的に立ち上がり、口縁端部がわずかに外反。

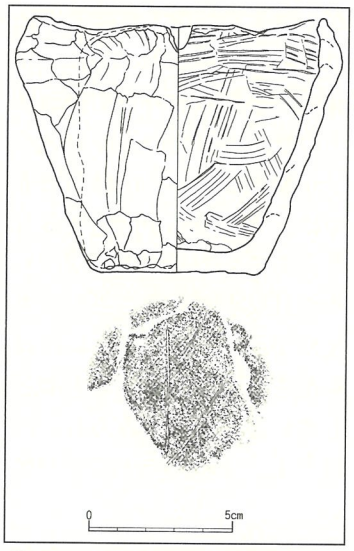
以上のように、口縁部およびその付近の形態から分類をおこなったが、類型別の出土割合は、Ａ類が２％、Ｂ類が32％、Ｃ類-1が17％、Ｃ類-2が８％、Ｄ類-1が14％、Ｄ類-2が１％、Ｅ類-1が14％、Ｅ類-2が10％、Ｆ類が１％となっており多種多様であり、形態的および法量的な規格性は乏しいようである。

製作技法は粘土紐巻き上げが基本で、指頭痕跡は残るもののナデ調整によって消され粘土紐痕は残っているものはなく、特に内面のナデ調整は、各資料ともに外面より丁寧におこなわれている。ナデ調整の他、内面には甕形土器によくみられるようなハケメ調整も施されるものもみられる。また内面に布目圧痕を留める資料が、鋳物師屋遺跡105住出土資料の中でわずか１点ではあるが確認できた（第16図-9、141）。しかし布目圧痕は部分的にしか認められないことから、模骨状の内型を用いて成形した後、ナデ調整を丁寧に加えていたことが想定されることから、他の資料についても型成形された後、ナデ調整によってその痕跡が消されてしまっている資料が多いのではなかろうか。

色調は、にぶい橙色や灰褐色などを呈するものがほとんどである。これは二次的に被熱した結果の色調であろう。しかしススの付着はほとんど認められないことから、直接火にかけられた可能性は低い。胎土は、量の多寡はあるが基本的に全て砂粒や小礫を含み、肉眼観察ではあるが白色や黒色粒子と雲母のみものと、それらに加えて在地産の甲斐型土器に顕著にみられる赤色粒子を含むものも比較的多くみられる。



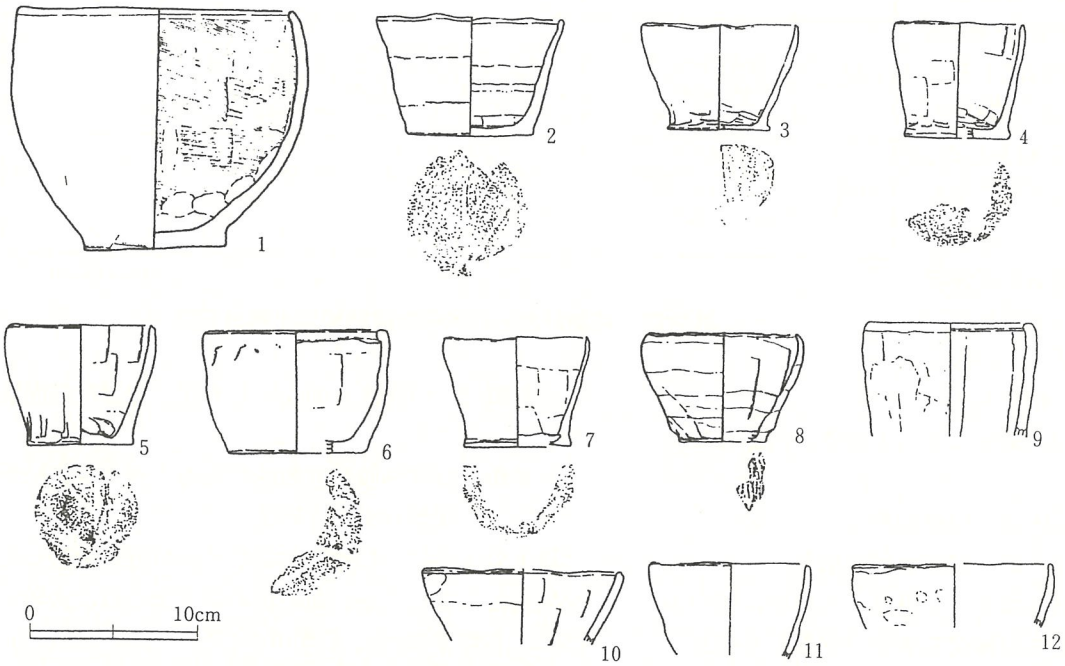
第３図　〆木遺跡21住出土資料（縮尺任意）



第４図　宮ノ前第５遺跡出土製塩土器（縮尺任意）

こうした口縁部・胴部破片が大半を占めるなか、〆木遺跡21住では本遺跡群で唯一の底部破片が確認されている（第３図、第17図-21、〆木出土資料と略称する）。韮崎市宮ノ前第５遺跡出土資料（第４図）とは、胎土や整形・調整、平底ということでは共通するものの、底部端部が張り出すなど若干形態的に異なっている。色調は黄褐色ないし橙色を呈し、胎土は白色・赤色・黒色粒子、雲母、小礫などを含むが比較的精選されている。復元推定底径7.2cm。底部端部が弱く張り出し、底部からやや外傾気味に立ち上がっている。胴部外面は指頭調整痕と横位・斜位のナデ調整、底部外面はヘラケズリ後ナデ調整を施している。底部内外面は比較的強く被熱し器面の赤褐色化がやや著しい。

以上のような〆木出土資料に近似したつくりをした土器が、神奈川県小田原市の永塚下り畑遺跡第Ⅳ地点で出土してい



1.下曽我・2号井戸址　2、永塚・H3号住居址　3、永塚・H5号住居跡　4、5、11、12、永塚・H6号住居跡
6、7、永塚・H7号住居址　8、下曽我・包含層　9、永塚・H1号溝址　10、永塚・H1号道路状遺構

第５図　下曽我遺跡・永塚下り畑遺跡出土の鉢形土器（川又 2002）

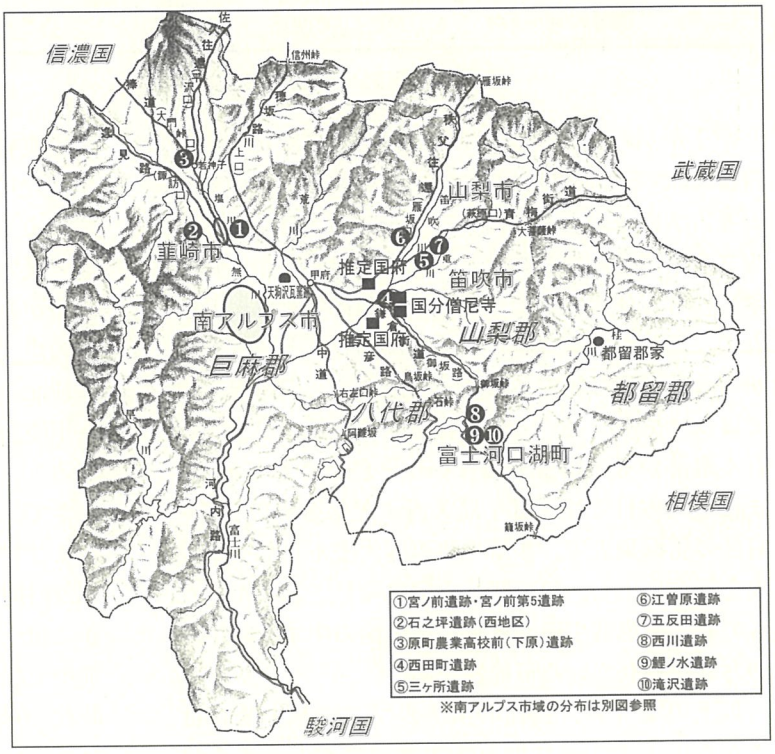
るとの情報を、当該遺跡の調査者でもありかつ本課題の研究者協力者でもある東海大学の田尾誠敏氏からいただいた。それら資料については、小田原市文化部文化財課のご配慮をいただき、田尾氏とともに当該土器群（以下、永塚出土資料と略称する）の実見をおこなうことができた（第５図参照）。永塚出土資料の土器の胎土は、他の坏・甕類の一般的な相模型土器と同じで、ヘラケズリおよびナデ調整がされる小型の鉢形を呈する土器であること。底部端部が弱く張り出し、底部から内湾気味に立ち上がるものや、底部端部が弱く張り出し、底部から垂直気味に立ち上がり、口縁部付近で弱く内湾するものなどがみられ、口縁端部は尖形を呈していること。底部は張り出し、粘土板の継ぎ足し部分で破損しているものが多く、底部内外面は比較的強く熱を受けたためか、器面の赤褐色化がやや著しいことが観察でき、製作技法的にも相模型土器のバリエーションの一つとして捉えることができる。山梨県内の他の製塩土器資料群とは、土器の仕上がり感が明らかに異なっている印象を受けたが、実見した限りでは、〆木出土資料とは近似したつくりであるという状況が確認できた。田尾氏によれば、永塚出土資料は神奈川県内ではいわゆる堅塩もしくは固形塩づくり用の「製塩土器」であるとはまだ認知されていないとのことだが、永塚出土資料タイプの土器が、山梨県内では客体的ながら他の製塩土器資料とともに出土していることから、永塚出土資料も堅塩もしくは固形塩づくり用の「製塩土器」と認定しても良いのではなかろうか。今後とも検討していきたい。

Ⅲ．出土遺跡の概要と歴史的環境

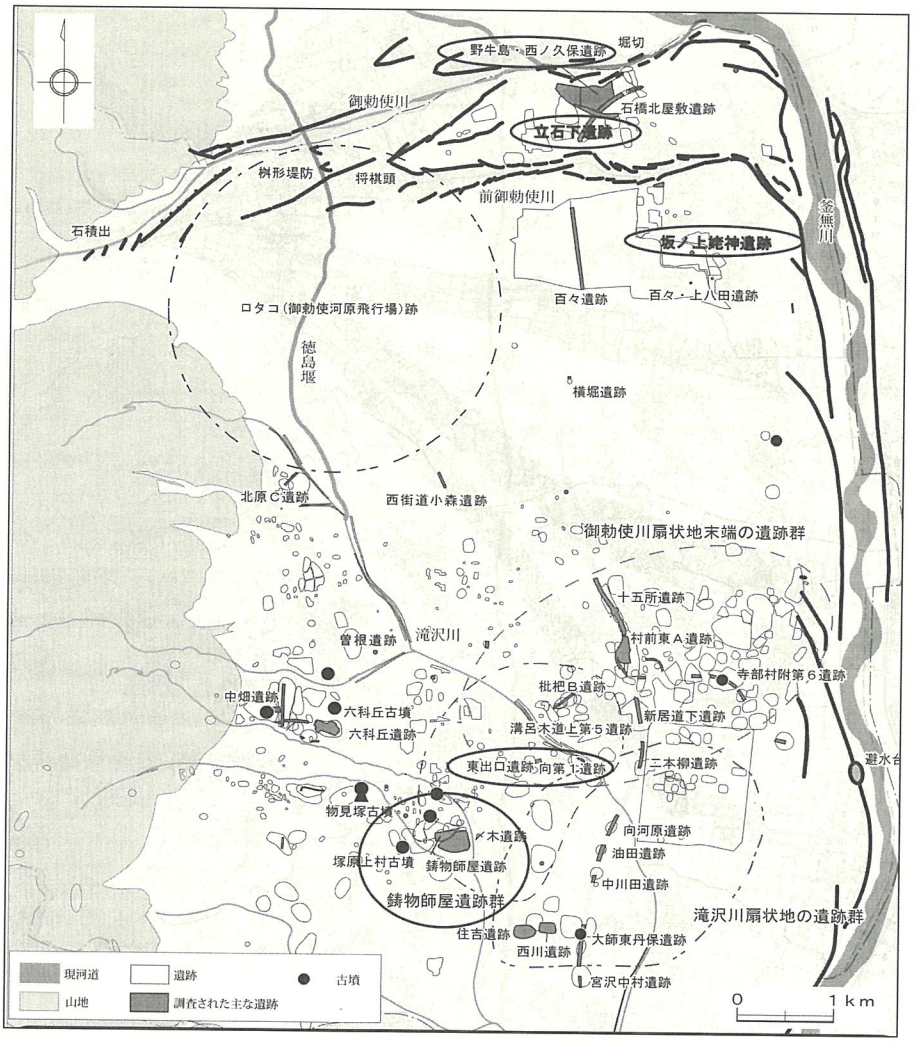
鋳物師屋遺跡群は、先述したようにその中心をなす鋳物師屋遺跡と、それに隣接する〆木遺跡や川上道下遺跡などから構成されている。富士川の上流河川である釜無川の左岸地帯で、甲府盆地西部、御勅使川複合扇状地の南西端部にあたる山梨県南アルプス市下市之瀬（旧中巨摩郡櫛形町下市ノ瀬字川上道下）に位置する（第６・７図参照）。南アルプスの赤石山系の櫛形山から流下する漆川と市之瀬川に挟された地域で、自然堤防の後背地にあたる。標高は280～290mを測り、北西から南西の傾斜する中州状の微高地上に立地する縄文時代中期と平安時代前期を中心とする複合遺跡である。

1986年（昭和61年）の第一期工業団地造成事業に際して、隣接し同じく縄文時代と奈良・平安時代の遺構が複合する〆木遺跡の発掘調査が旧櫛形町教育委員会によっておこなわれ、奈良・平安時代の竪穴建物は32棟、掘立柱建物４棟、焼土遺構２基などが検出された。続く1990年（平成２年）には町道工事に伴い川上道下遺跡の発掘調査が実施され、平安時代の竪穴建物跡16棟などが検出された。そして1992年（平成４年）に第二期工業団地造成事業が開始し、遺跡の中心をなす鋳物師屋遺跡の発掘調査が1993年（平成５年）までおこなわれ、縄文時代中期中葉の竪穴建物27棟、奈良・平安時代の竪穴建物跡114棟、掘立柱建物２棟などが検出された。発掘調査面積は、〆木遺跡が6,600㎡、鋳物師屋遺跡が12,650㎡に及んでいる（第８図参照）。

南アルプス市下市之瀬周辺は、『和名類聚抄』にみえる甲斐国巨麻郡大井郷の一画と比定され、鋳物師屋遺跡群の周辺には５世紀前半頃とされる前方後円墳の物見塚古墳や、鋳物師屋古墳群、狐塚古墳、塚原上村古墳などの後期古墳も存在し、当該地域が古墳時代以来、在地豪族層の拠点的地域であったこ



第６図　山梨県内製塩土器出土遺跡分布図
（『図説 山梨県の歴史』河出書房新社 1990 に加筆）



第７図　南アルプス市域遺跡分布図

とがうかがわれる。近年では旧櫛形町に隣接する旧白根町、さらに旧八田村域で、大規模開発に伴い数々の考古学成果があがっている。当該両地域は、南アルプス市高尾山穂見神社に伝来する天福元年（1233年）の御正体の銘文で「甲斐国八田御牧北鷹尾」とみえ、これから鎌倉時代に「八田御牧」という私牧が当該地周辺に比定されている地域で、旧白根町域ではウマやウシといった動物遺体が多量に出土した百々遺跡がその前身ではないかと注目されている。また旧八田村では、野牛島・西ノ久保遺跡Ⅲ・Ⅴ・Ⅵ区の発掘調査で、多量の須恵器大甕不良品や未焼成土器が出土し、須恵器焼成窯は発見されなかったものの、須恵器生産が低調な甲斐国の中でその生産がおこなわれていた可能性が高い。

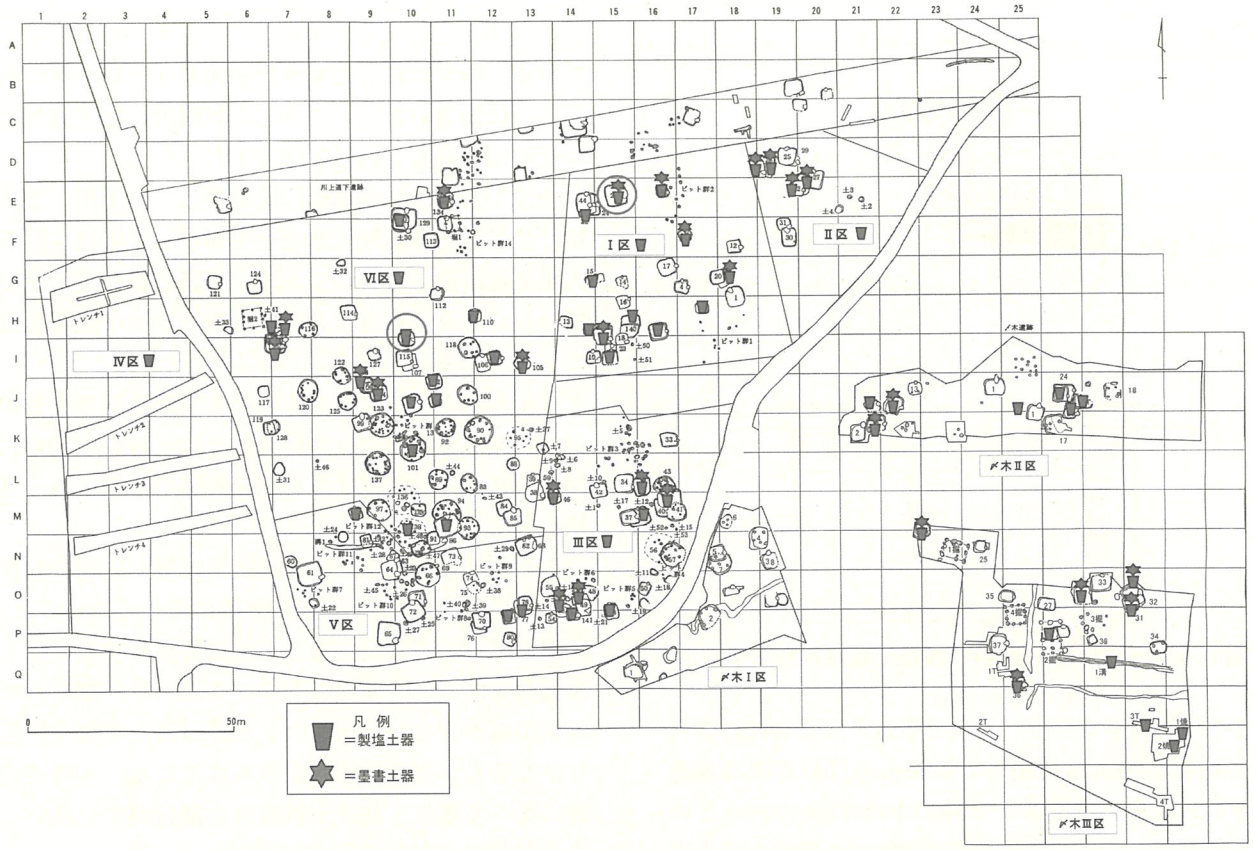
以上のように、古代の南アルプス市域一帯には様々な手工業生産に関わる遺跡が散在し、さらに八ヶ岳・茅ヶ岳・甲斐駒ヶ岳山麓地域には勅旨牧とそれらを支える関連遺跡が展開していることから、南アルプス市地域を含む古代の巨麻郡は、甲斐国の基幹的な手工業生産をおこなう役割を担った郡であったことがわかる。

Ⅳ．製塩土器の出土状況からみた鋳物師屋遺跡群の性格について

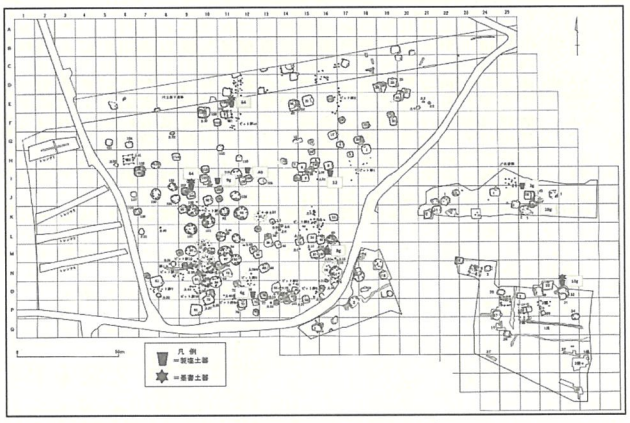
本遺跡は竪穴建物と掘立柱建物もしくは竪穴建物のみから構成される集団が十数個程度認められる。集団によっては同一箇所で数度にわたり竪穴建物の造り直しや、カマドの造り直しがおこなわれている状況が認められるため、各集団に対する居住規制などが働いていたのではないかと推測される。

鋳物師屋遺跡群の製塩土器は、竪穴建物、溝状遺構、焼土遺構、土坑、遺構外から出土している。小片資料が大半を占め、そのほとんどが他の出土資料とともに遺構覆土中からの出土であるが、土器片に記された注記事項に「カマド」と記載されているものもわずかにみられる。また報告書には、竪穴竪穴の埋土に土石流堆積物が含まれているとの記載があり、他所からの流れ込みの可能性があるものの出土状況を検証する術がないため、今回は土器に注記された遺構名をそのまま帰属先とし、共伴する甲斐型土器の編年観をそのまま製塩土器に与えている。

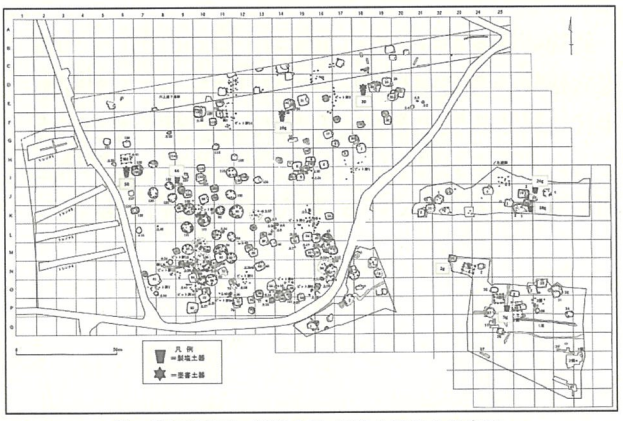
さて、鋳物師屋遺跡群では、竪穴建物は縄文時代および奈良・平安時代にわたって両遺跡合わせて計162棟検出されている。製塩土器はそのうちの57棟から出土している。その全体の出土分布状況と時期別出土状況を示したものが第８・９図である。縄文時代の竪穴建物１棟からも出土しているため正確には56棟となるが、全体棟数に対する出土率は約35％という極めて高い割合を示し、同じ製塩土器資



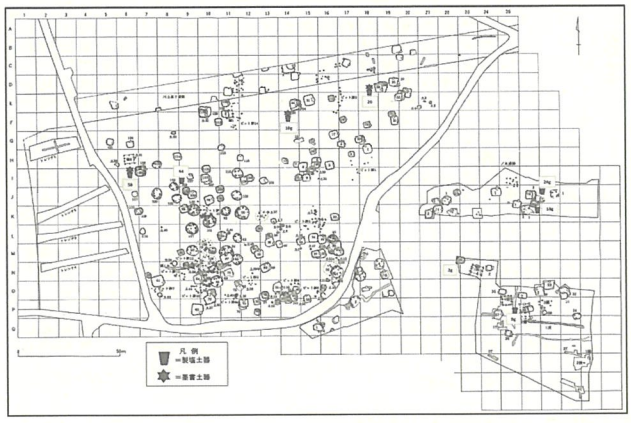
第８図　鋳物師屋遺跡・メ木遺跡製塩土器出土地点全体図（報告書より作成）



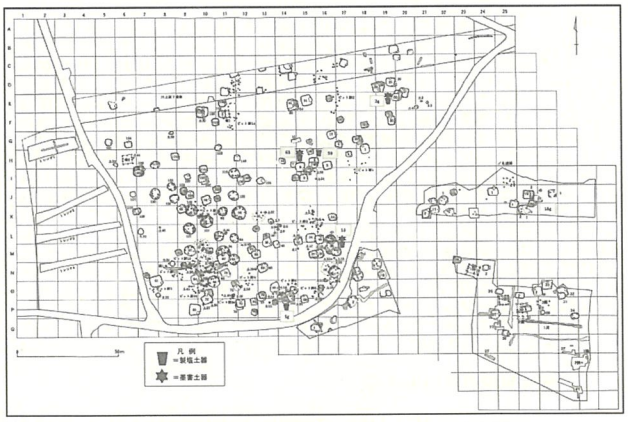
① 8世紀代　製塩土器・墨書土器出土分布図



② 9世紀前半代　製塩土器・墨書土器出土分布図

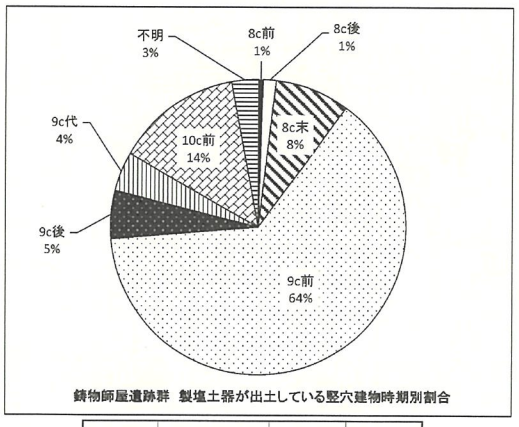


③ 9世紀後半代　製塩土器・墨書土器出土分布図



④ 10世紀前半代　製塩土器・墨書土器出土分布図

第９図　製塩土器時期別分布図（報告書より作成）



時　期	鋳物師屋遺跡	〆木遺跡	合計
8c前	1	0	1
8c後	3	0	3
8c末	14	3	17
9c前	130	3	133
9c後	4	7	11
9c代	9	0	9
10c前	29	0	29
不明	4	2	6

第10図　鋳物師屋遺跡群の製塩土器時期別出土割合

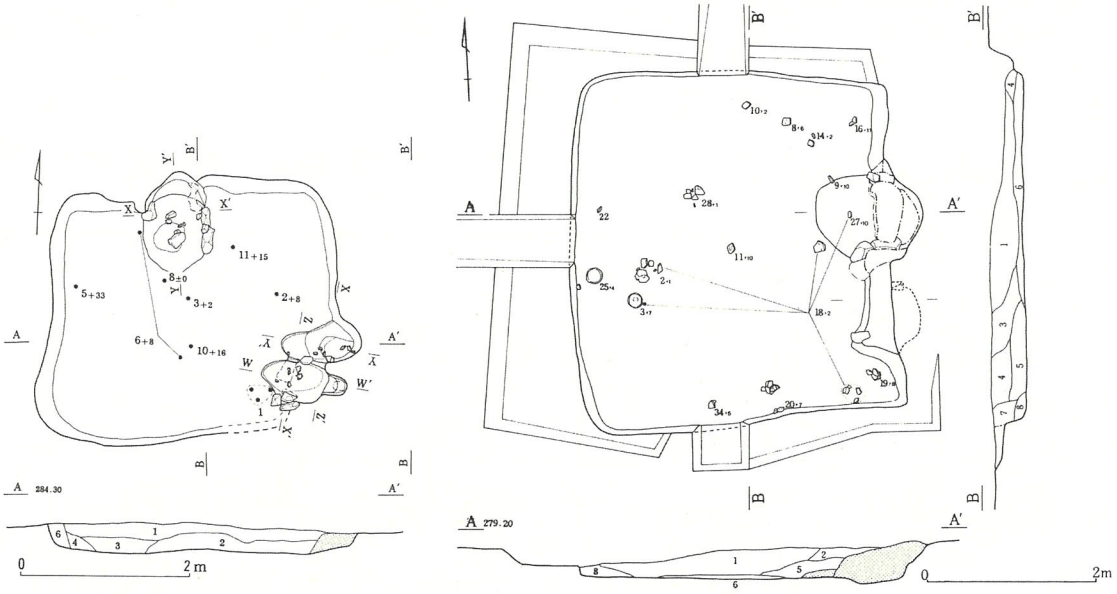
料を比較的多く出土していた奈良・平安時代の竪穴建物棟数が400棟を超える韮崎市の巨麻郡家関連遺跡である宮ノ前遺跡が全体の10％程度の割合という状況からすれば、鋳物師屋遺跡群の製塩土器の出土率は極めて高いといえる。

鋳物師屋遺跡群における製塩土器が出土している竪穴建物の時期別割合を第10図に示した。９世紀前半代に属する竪穴建物からの出土が全体の６割以上を占め、９世紀代全体から出土割合をみれば７割を超える状況となっている。前代の８世紀代でも１割、後代の10世紀前代でも１割以上を占める割合となっている。いずれにしても９世紀前半代にピークにあることは間違いなく、こうした状況は、宮ノ前遺跡やその他の遺跡と同じ状況を示している。

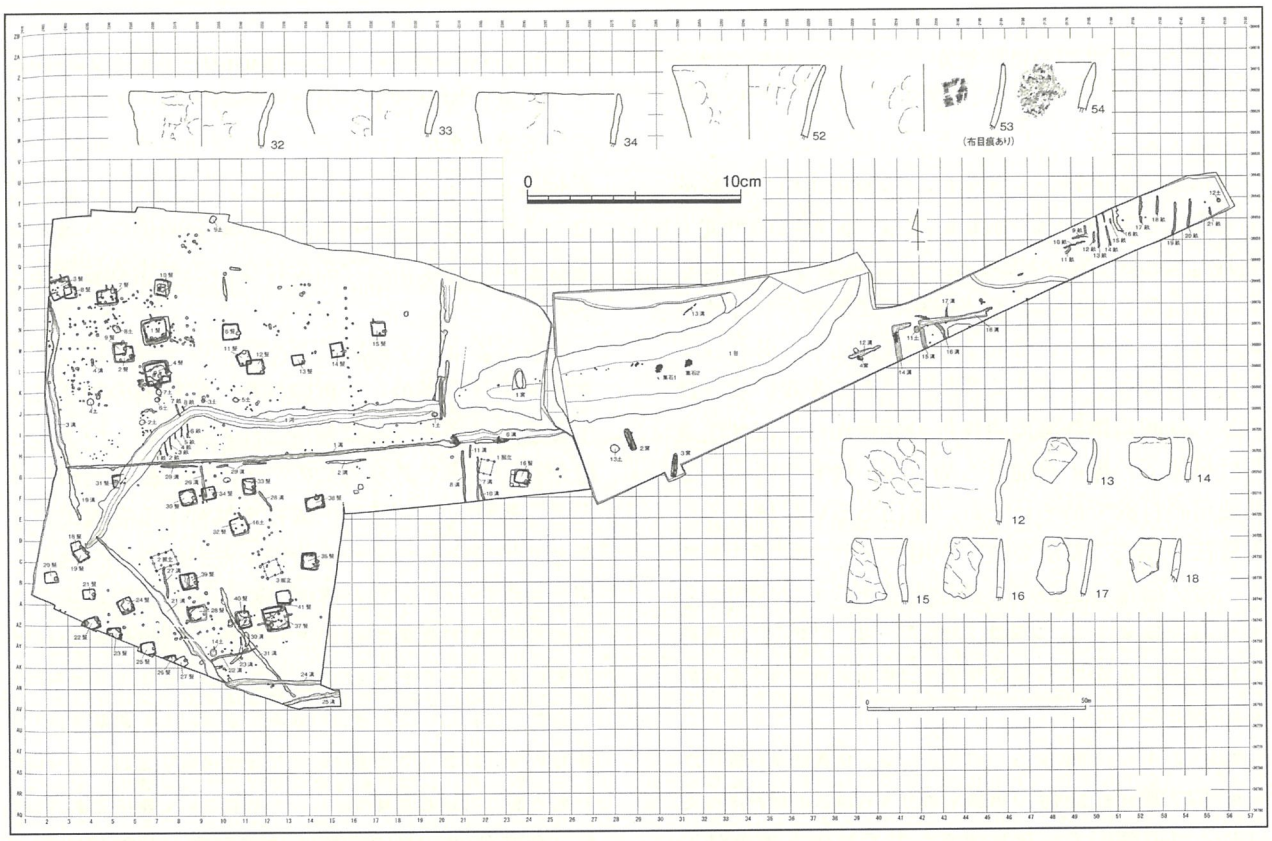
先述したように鋳物師屋遺跡群は、富士川（釜無川）西岸における竪穴建物を主体として構成される大規模集落遺跡の一つである。本遺跡群は『和名類聚抄』にもみえる当該地域の伝統的かつ中核的な郷である「大井郷」想定エリアに位置することから、８世紀当初からの渡来系集団を含む耕地開発を目的とした集落であり、９世紀以降では土地の安定化に伴い牧などの設置に伴う再開発集団の集落という性格も考えられている。

本遺跡群の特徴は、①本遺跡群は竪穴建物の総件数の割には、遺構の重複が総体的に著しくないこと。②カマドの造り替え、もしくは同時存在するカマドを複数有する竪穴が比較的多いこと。③山梨県内では検出例が少ない「溝もち」と呼ばれた布掘り柱掘りかたをもつ掘立柱建物がみられること。④周辺遺跡に比べて墨書・刻書土器の出土割合がやや高いことなどが挙げられよう。

①の竪穴建物同士の重複については、甲斐国内でも弥生時代から連綿と続く遺跡が多く存在する甲府盆地東部地域の国府関連、国分僧尼寺関連遺跡では、竪穴建物の重複は著しく、かつ重層的に存在する。一方、甲府盆地西部地域でも、韮崎市宮ノ前遺跡のような巨麻郡家関連遺跡のように、８世紀初頭段階から11世紀にわたって連綿と続くような遺跡でも重複は著しい。鋳物師屋遺跡群は当該地域にあっては重複が激しいとされるものの（斎藤2014）、宮ノ前遺跡ほどの重複はみられず、



第11図　鋳物師屋遺跡群のカマド造り替え事例（報告書より作成）



第12図　野牛島・西ノ久保遺跡Ⅲ・Ⅴ・Ⅵ区と出土製塩土器（報告書より作成）

宮ノ前遺跡ほど人の出入りは頻繁ではなかったものと思われる。

次に、②の竪穴建物のカマドの造り替え、もしくは２基以上のカマドを有する竪穴建物が多い状況については、造り替えはa.竪穴建物自体の建て替えによるもの。b.何らかの事情でカマドが破損したため造り直しがおこなわれた状況などが想定される。造り替える場所は、概して当初造り付けられた異なる壁に造られることが多いが、すぐ脇に造り直した事例もみられる。

同時存在する複数カマドを有する竪穴建物については、鋳物師屋遺跡では、10・17・19・22・28・53・87・129号住で、〆木遺跡では37号住などで認められる（第11図）。同一の壁および異なる壁に２基以上付設するもので、同一の壁の場合、袖部を共用しており同時併存が判明するものがあるが、カマドの解体がおこなわれていることが多いため、新旧や同時性を捉えることは難しいが、鋳物師屋遺跡群では、竪穴建物自体の建て替え痕跡が認められないことから、同一竪穴内で同時存在したと推測している。

鋳物師屋遺跡群と同様に複数カマドをもつ竪穴建物がみられるのが、同じく製塩土器が多出している野牛島・西ノ久保遺跡Ⅲ・Ⅴ・Ⅵ区である（第12図）。本遺跡では６棟の竪穴建物で複数基のカマドがみられ、うち１棟は建て直し拡張に伴って造り直されているが、残る５棟には建て替え痕跡が認められないため、複数のカマドがほぼ同時的に存在したと思われる。こうした竪穴建物内に複数基のカマドをもつ事例として想起できるのは、茨城県の鹿の子Ｃ遺跡の連房状竪穴遺構とよばれるカマドを数ヵ所に兼ね備えた長大な竪穴建物である。同遺構は周知のとおり、武器・武具類を製作する鍛冶工房関連遺構だとされ、近年では相模国府域内の坪ノ内遺跡でも同様な遺構が検出されている。その製作に際して鍛冶炉の他にカマドの使用も想定されている。一般の竪穴建物でもカマドは、単なる煮炊に伴うコンロ的な機能のみならず、高熱を用いるオーブン的な機能を持ち合わせた手工業製品生産には不可欠な火処施設であったといえよう。

以上のことから、鋳物師屋遺跡群や野牛島・西ノ久保遺跡Ⅲ・Ⅴ・Ⅵ区における複数基のカマドをもつ竪穴建物は、カマドを使用した固形塩の焼きしめ作業や再加工をおこなう場であったと考えたい。通

常のカマドに比べて使用頻度が高く破損しやすく、そのためにカマドの再構築がおこなわれたのではないか。もしくは一つの竪穴建物で、複数人が焼きしめ作業をおこなっていたことも推測される。

これまで筆者は、カマド内から製塩土器が比較的多く出土していた宮ノ前遺跡でも、固形塩の再加工をおこなっていたのではないかと想定していたが、宮ノ前遺跡の場合は、竪穴建物の建て替えに伴う重複は著しいものの、カマドの造り替えや同時存在する複数のカマドを有する事例は極めて少ない状況にある。今回の鋳物師屋遺跡群の分析から、宮ノ前遺跡は再加工の場の可能性もあるが、饗宴や祭祀・儀礼使用の目的で持ち込まれ、集団あるいは個人の祭祀儀礼の際に“特別な塩”が用いられた可能性もある。宮ノ前第５遺跡の第12号住居址のカマド内から出土した線刻をもつ製塩土器も（第４図）、おそらくカマドにかかわる祭祀儀礼に伴う可能性が高いのではなかろうか。

続いて③の「溝もち」と呼ばれる布掘り柱掘りかたをもつ掘立柱建物の事例については、山梨県内では宮ノ前遺跡のような官衙もしはく官衙関連遺跡で検出される傾向が強い。かつて東日本での掘立柱建物の検出事例少ない段階にあって、神奈川県の鳶尾遺跡の検出事例を主体に分析検討した中田英氏が、柱掘りかた間の部分的な間のみ浅い溝でつなぐタイプで、通常の一定の深さで布掘されるタイプのものとは異なる構造をもつものとして、あえて「溝もち」掘立柱建物と呼称したものである（中田 1981）。その後、官衙遺跡などの調査事例が増加し、当該遺構に対する研究が進展し、現在では地覆もしくは壁材の据付痕跡ないしは抜取痕跡の可能性が高いとみられている。ちなみに布掘り掘りかたの中には、柱掘りかたと地覆・壁材据付掘りかたとを一体として掘削したものや、柱と地覆・壁材を同時に抜き取った痕跡が含まれる可能性があるとしている（山中 2003）。いずれにしても当該遺構は、官衙的な性格をもつ遺跡から検出される傾向があることから、鋳物師屋遺跡群は竪穴建物が主体となって構成される遺跡であるが、巨麻郡家の出先機関的な性格をもっていた可能性がある。

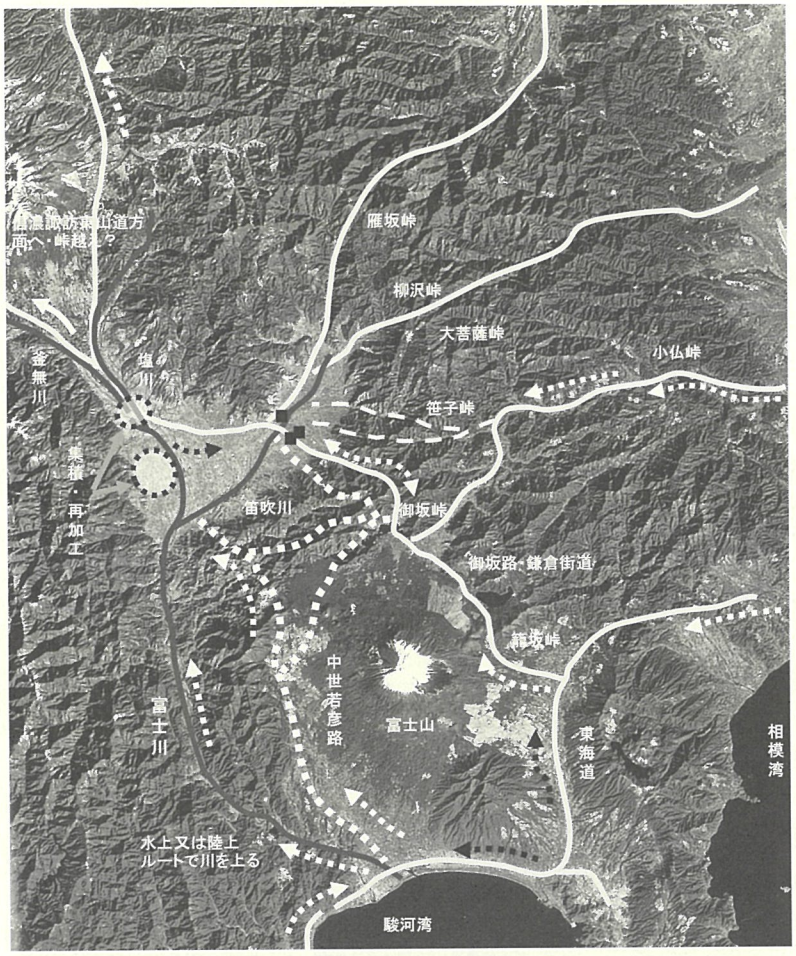
最後の④については、筆者はかつて鋳物師屋遺跡群内における墨書土器のあり方から集団動向の検討を試みたことがある（平野 2000）。墨書土器などの出土分布状況は第６図に示しているが、各集団を代表するような時間的連続性や拡散性をもつ文字内容は特にみられず、小グループ単位で墨書土器を保有している状況が認められる。このことから、墨書土器は各竪穴単位ごに保有し、現世利益的な儀礼や祭祀行為をおこなっていた状況がうかがわれるとした。こうした状況から集団間の結合関係はさほど強固なものではなかったのではないかとする見解を述べた。

墨書土器は、土器の所有や集団の記号（家号）を文字や記号で表示した可能性や、集落内の神仏に対する祭祀・儀礼行為に使用された祭具の一つとの性格が強い遺物である。このことから、墨書土器が多出する集落には、祭祀・儀礼を執行する在地郡領層などの出自をもつような僧尼などが出入り、地域信仰をおこなっていたと推測される。９世紀前後の郡司層などの在地領主層にとっては、仏教信仰は地域支配の有力なイデオロギーの一つであり、欠かせないものであり、こうした視点でみれば、鋳物師屋遺跡群の集落は、土器生産などを専業的におこなう野牛島・西ノ久保遺跡Ⅲ・Ⅴ・Ⅵ区工人集落とは異なり、在地社会において農業経営や手工業生産面などのさまざまな労役の労働力となり得る一般調庸民集団の集落であったと推測される。

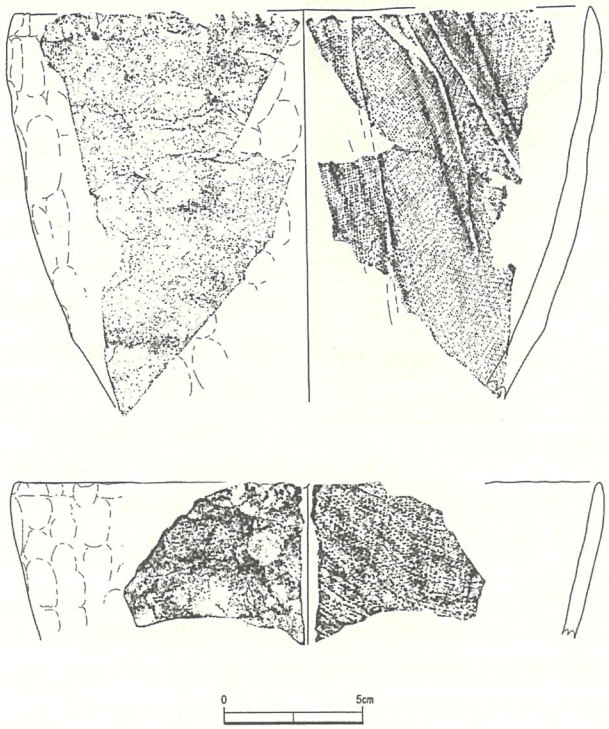
Ⅴ．今後の課題

今回の再調査で鋳物師屋遺跡群は、山梨県内最大の製塩土器の出土量を誇る遺跡であることが判明した。この３年間で再調査が実施できた遺跡は、韮崎市の宮ノ前遺跡、宮ノ前第５遺跡、石之坪遺跡、富士河口湖町の滝沢遺跡、そして南アルプス市の鋳物師屋遺跡、〆木遺跡、立石下遺跡、原町農業高校前（下原）遺跡など８遺跡で、資料化した総点数は431点となった。未資料化のものや既存資料点数をあわせれば1000点を超す資料数となり、山梨県内でもようやく市民権を得られるまでの資料となってきた。

今回までの成果を踏まえれば、甲斐国内で手工業生産やそれら生産品の調達を担った巨麻郡家が、固形塩の主要な搬入路の一つとして富士川の水上交通路および同河川沿いの陸上交通路を介して調達していたことはほぼ間違なかろう（第13図参照）。そして南アルプス市域の鋳物師屋遺跡群や野牛島・西ノ久保遺跡Ⅲ・Ⅴ・Ⅵ区などが固形塩生産ないしその集積場的な集落遺跡であり、またそれら遺跡は国府



第13図　製塩土器搬入ルート概念図（山梨県 1998 文献に加筆）

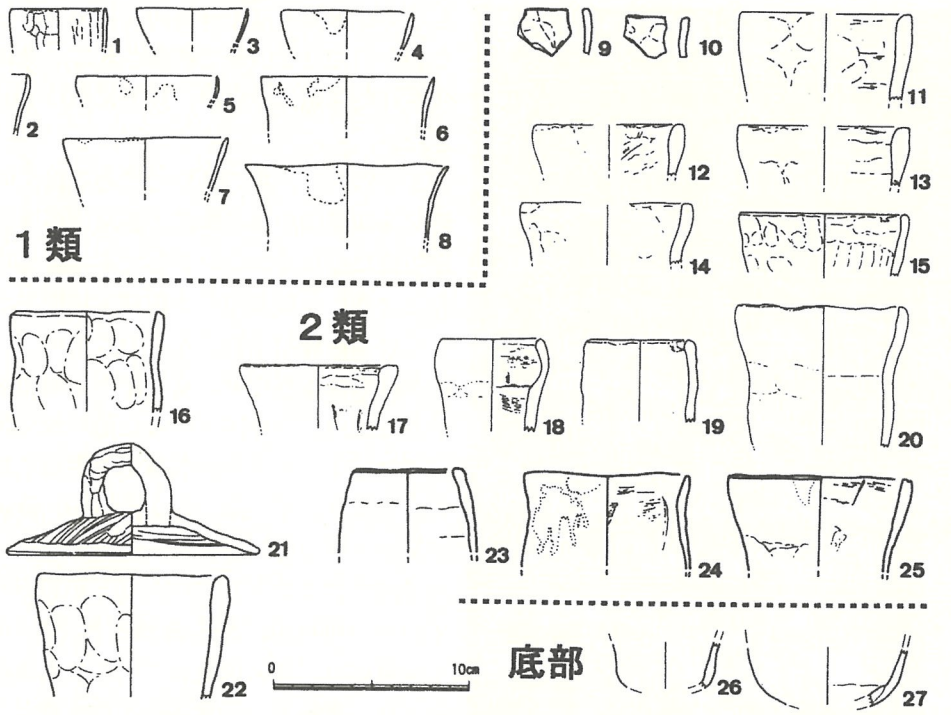


第14図　小里前遺跡の製塩土器（縮尺任意、報告書より転載）

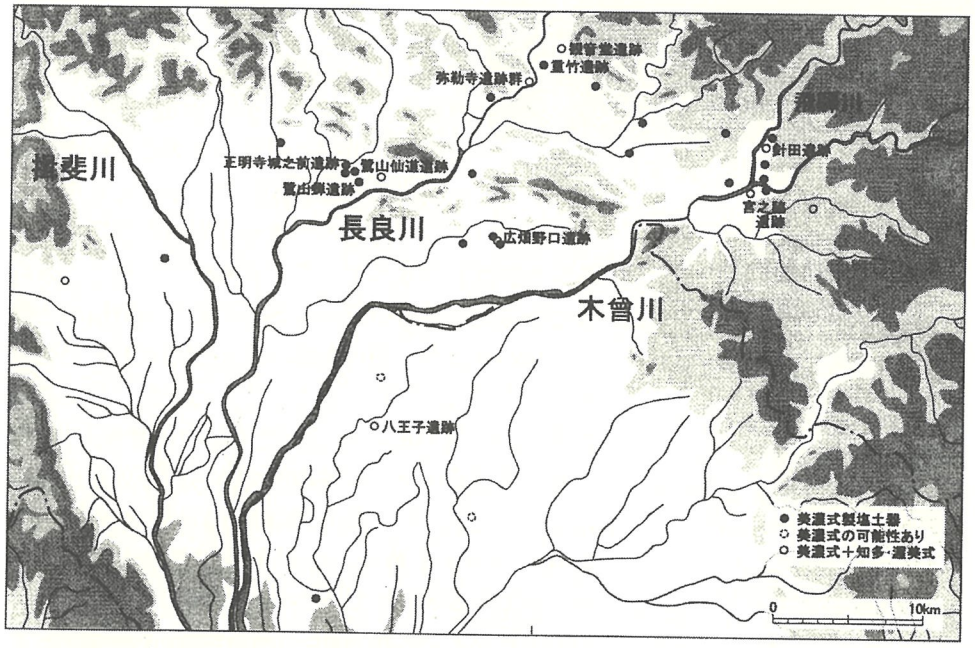
もしくは郡家の出先機関的な性格をもっていたのではないかと推測される。今後残された課題は多いが、以下に挙げておきたい。

まず第一に、塩の供給元であるはずの沿岸地域諸国の固形塩用の製塩土器資料が明確になっていないことである。先述したように、神奈川県小田原市域で出土している永塚出土資料が有力資料の一つに挙げられる程度で、富士川下流河口域である駿河・伊豆国といった沿岸地域諸国で対応するような固形塩用の製塩土器の存在は皆無である。しかし近年、静岡市清水区庵原町に所在する小里前遺跡から製塩土器が出土していたことが判明している（第14図、2015 静岡市教委）。小里前遺跡は、駿河国庵原郡家の関連遺跡とされる遺跡で、帯金具や墨書土器なども出土している。静岡市埋蔵文化財センターのご厚意により同資料の実見調査をおこなったところ、資料は破片でで数個体分あり、そのうちの２点は口縁部の大型破片で、いずれも推定口径が20cmを測る比較的大ぶりのものである。いずれも内面に布目痕を残していることから型抜き成形されたものである。外面は指頭痕を残しながらもナデ調整がされている。底部破片はやはりみられなかった。土器の大きさからすると煎熬用の土器かと思われるが、使用痕跡ほとんど見られず白色付着物等もみられなかったため、この土器では結晶化作業はおこなわていない未使用品の可能性がある。そして土器胎土は、甲斐国内でみられる製塩土器とはまったく異なっており、駿河在地産と想定される。煎熬用の製塩土器は、これまで関東地方においては、三浦半島の走水貝塚や伊豆島嶼部の八丈島の火の潟遺跡などで、製塩炉と思われる焼土遺構とともに、甕形土器や深鉢形の土器片が出土しており（田尾 2009・2015）、山梨県内で確認されているような小型の鉢形の製塩土器は出土していない。

では、なぜ沿岸諸国では固形塩用の製塩土器がみえづらいのか。このような状況を考えるうえで、本課題の共同研究者である河西学氏がおこなった岩石鉱物学的胎土分析の結果内容が一つのヒントを与えている（河西 2014・2015）。河西氏の分析結果では、



1:城之内遺跡　2:弥勒寺跡　3-8:宮之脇遺跡B地点　9・10:曾根城跡　11-14:御望遺跡　15:芥見長山遺跡　16:前洞遺跡　17-20・26・27:重竹遺跡　21・22:今遺跡　23-25:宮之脇遺跡A地点（1-15・17-21・23-25:各報告書より転載）



第15図　美濃式製塩土器とその分布（森 2010 文献より作成）

宮ノ前遺跡出土の製塩土器の胎土は、(1)泥質ブロックが多いものと、(2)安山岩の多い土器、(3)火山ガラス・デイサイトが多い土器に区分されるとした。宮ノ前遺跡の資料は、概して野牛島・西ノ久保遺跡Ⅲ・Ⅴ・Ⅵ区などの南アルプス市域の鉱物組成と類似するものが多く、当該地域が製塩土器の原料産地の有力候補地の一つと推定されている。他に静岡県内の富士川河口域の鉱物組成と類似する可能性もあるとしながも、その組成は山梨県内の貢川・塩川河川砂と類似しており、宮ノ前遺跡周辺も原料産地の候補地の一つであるとし、神奈川県西部地域の鉱物組成を示す資料は皆無に等しいとされている。この分析結果を解釈すれば、山梨県内で製塩土器としている資料のほとんどは、沿岸地域の相模国や駿河国などの他国産ではなく、南アルプス市域や韮崎市域を原料産地とする巨麻郡産が中心であるということになる。非常に興味深い分析結果である。

こうした塩の供給先が固形塩を作製する製塩土器を用意するという状況は、甲斐国と同じ内陸国である美濃国でもみられる。美濃国内で生産された堅塩用の製塩土器である「美濃式製塩土器」を提唱している森泰通氏によれば（森 2010・2015）、７世紀後半から９世紀にかけて、愛知県知多・渥美式に特徴的な棒状脚をもたない、おそらく丸底の美濃式製塩土器が木曽川の上流域の岐阜県可児市宮之脇遺跡、長良川上流域の岐阜県関市重竹遺跡といった、川船がさかのぼり得る終港付近に集中して出土しているという（第15図）。これら遺跡では、１棟の竪穴建物跡から20個体を超える美濃式製塩土器が出土することも珍しくないため、「村落内の自家消費ではなく、尾張などから運び込まれた粗塩を再加工して、固形塩を製作し供給する拠点

として機能していた」と想定している。さらに宮之脇遺跡で再加工され美濃式製塩土器に入れられた固形塩が、今度は木曽川を下って愛知県一宮市の八王子遺跡まで運ばれているという不自然な状況がみられるとしている。これは両地域を支配するそれぞれの豪族層が瓦生産や美濃須衛須恵器の供給に伴い木曽川を介してつながっていたからではないかと想定している。また重竹遺跡の場合でも、長良川の対岸に位置する武儀郡家である岐阜県関市の弥勒寺東遺跡でも美濃式製塩土器が多数出土しているが、これは歴史的にも都と結びつきが強く、祭祀や食風面においても中央指向の強かった郡司層のムゲツ氏が、重竹遺跡に固形塩生産を担わせたのではないかと想定されているのである。

以上のように、胎土分析の結果から、甲斐国の場合も沿岸部諸国から俵などで梱包された状態の粗塩が富士川の水上交通路や陸上交通路を介して甲斐国内に運び込まれ、鋳物師屋遺跡群や野牛島・西ノ久保遺跡Ⅲ・Ⅴ・Ⅵ区といった場で、甲斐国内で用意した製塩土器を使用し甲斐国内で固形塩の生産をおこなっていた可能性、もしくは甲斐国産製塩土器を塩生産国にあらかじめ送り込んでおき、再度それを甲斐国内に運び込んでいた可能性が想定できる。

また、鋳物師屋遺跡群が塩の集積施設や固形塩の生産施設として機能していたとすれば、〆木遺跡で検出されている「溝もち」掘立柱建物をはじめとする掘立柱建物群は、粗塩や固形塩などを保管する「屋」的な建物であったことも推測される。さらに製塩土器が破片として大量に発見されるということは、容器を破壊して固形塩を取り出しているということになる。その取り出した固形塩は、固形の状態のままや、あるいは砕いて散状にして巨麻郡内外の消費地へ運ばれたと思われる。このような状況は、近世段階の焼塩壷にみる「壷屋」と「壷塩屋」の関係を想起させ興味深い（小川 2008）。

馬場基氏は正倉院文書には、「籠・袋・壷・固・粉」といった塩の梱包形態を表す単位があることを指摘している（馬場 2013）。籠や袋は有機質の俵などが想起され、壷は製塩土器そのままか、散状となった塩をおさめるための別の容器。固・粉は、固形か散状かといった塩の状態を表しているとされる。いずれにしても固形塩がすべて製塩土器に入ったまま流通していたのではないということが、製塩土器片の出土状況や文献史料からうかがえよう。

第二に挙げられるのは、これも平野 2014 拙稿の中でも指摘しているが、大半の資料は口縁部から胴部までの破片ばかりで、底部破片がほとんどみられないことである。小片であっても特徴的な破片のため、抽出する際に見逃しているとも考えられない。しかし底部破片が少ないという状況は、他地域の製塩土器や都城出土の製塩土器も同じであり、偶然ではなさそうである。都城出土の製塩土器を分析した神野恵氏もこの点を指摘しており（神野 2013）、神野氏は、土器の底部は苦汁分である塩化マグネシウムが溜まりやすいことから「破片が残らない部分が、とくに塩類風化と被熱により、風化分解が進んだため」と自然科学的な作用による想定をされる一方で、土器の底に溜まった苦汁成分を、「さまざまな局面で『苦汁』として可能性はないだろうか」という想定もされており、現段階では今後の検討課題としたい。

第三に挙げられるのは、国家機関である国府や国分寺が、塩の調達をどのようにおこなっていたのかという問題である。塩は官人へ支給され、国府近辺に置かれた軍団兵士へも支給されていたことは史料でみられ、『駿河国正税帳』には「塩倉鑰」という記載がみえ、国府がもつ倉に塩が収納されていたこともうかがわれる。しかし甲斐国府は未だ発掘調査で確認されておらず、発掘調査が実施されている国分寺僧尼寺跡やその関連遺跡については、今回の科研期間内では出土土器の検証作業がおこなえなかったためその状況は不明のままである。特に国分僧尼寺では仏教神事のみならず、僧尼への食事や醤や味噌、漬け菜などの保存食生産において塩の需要は高かったであろうことは想像に難くない。平城京の西大寺では、塩を用いた加工食品が生産されており、平城宮の塩とは異なる独自のルートで固形塩を入手していたことが判明している（神野 2013）。古代の寺院は信仰の場のみならず、人・物資・情報が集積する場でもある。各国における国家機関の塩の調達方法の解明については、これら施設想定地の発掘調査の際しては、製塩土器の存在にも十分注意を払う必要があるだろう。

関東地方沿岸地域の塩生産の規模は、これまでの発掘調査成果からも調塩国である若狭国や周防国などのように大規模でなく、一つの経営体は小規模で塩生産を専業的におこなっていたとは考えにくい。このことから供給先である鋳物師屋遺跡群でも、固

形塩の再加工などを一年中おこなっていたとは考えられない。これまで巨麻郡以外で大量に製塩土器が検出された事例はなく、出土しても破片資料が数点出土する程度で、大量に巨麻郡内から供給を受けていた状況も認められない。果たして巨麻郡が、国府や国分僧尼寺の塩の調達にどの程度関与していたのかといった問題も残された大きな課題である。

最後の課題は、山梨では郡内地域と呼ばれる上野原市や大月市を中心とした古代甲斐国の都留郡内の状況である。これまで一点も製塩土器資料は確認されていない地域である。都留郡は甲斐国内では地勢的に甲府盆地と隔絶し、７世紀後半代から８世紀前半代の出土土器の様相は、相模色が色濃く残っており、郡郷制段階の上野原市域は古郡郷と比定され、都留郡の成立状況の特質を物語っている。

平成26年６月に、上野原市教育委員会の小西直樹氏のご協力を得て、同市内の発掘調査報告書刊行済みの奈良・平安時代遺跡について再調査をさせていただいたが、製塩土器と思われるような資料は確認することができなかった。当初は、相模川でつながる相模国から、永塚出土資料のような製塩土器資料が確認できるのではないかと想定していたが、不明のままとなってしまった。都留郡家が所在する大月市域の遺跡群の再調査はをおこなっていないが、先述のように、山中湖を水源とする桂川（相模川）により海浜国である相模国と直結する郡であり、都留郡の郡司層が、都留郡内の豊富な森林資源をもとに、塩をはじめとするさまざまな海産物を交易の対象としていたことは想像に難くない。今後の課題としておきたい。

おわりに

はじめにでも述べたように、本研究課題に対して科学研究費補助金を受けることができ、平成24年度から26年度までの３年間にわたり、内陸地域である山梨県内の富士川流域を中心に製塩土器資料の抽出とその資料化を実施してきた。発掘調査報告書中に掲載された資料の実見は比較的容易であるものの、報告されずコンテナ収蔵された一括資料群の再調査は、個人レベルでは非常に難しいことを改めて痛感させられた。

今回提示した資料群は、報告書刊行時には製塩土器に関しての知見もなかったため、細片・小片資料として何も評価されずコンテナに収納されてしまっていたが、2008年シンポをきっかけに製塩土器に関しての新たな知見を得て、埃にまみれとなった数多くのコンテナを探り、決して多くとは言えないながらも数々の細片・小片土器を製塩土器として、再び研究の俎上にあげることができた。これら資料群が、今後の内陸古代地域社会における塩の生産と流通研究の進展にわずかでも貢献できたら望外の喜びである。史・資料の評価は、新たな発見や研究の進展によって変化していくことは言うまでもない。今後とも資料に対する既成概念や評価にとらわれず、さまざまな視点から考古資料と向き合っていきたい。

最後に、胎土分析において有益な情報をご提供いただいた共同研究者である河西学氏はじめ、今回の製塩土器資料の抽出・実見にあたっては、南アルプス市教育委員会の斎藤秀樹氏、東海大学の田尾誠敏氏、上野原市教育委員会の小西直樹氏、小田原市文化部文化財課の渡辺千尋氏、静岡市埋蔵文化財センターの鈴木悦之氏、富士河口湖町教育委員会の杉本悠樹氏、山梨県埋蔵文化財センターの御山亮済氏、帝京大学文化財研究所の望月秀和氏の各氏、また実測、トレース、写真撮影、図版作成にあたっては、南アルプス市教育委員会文化財整理室および公益財団法人山梨文化財研究所考古整理室のスタッフである小林素子、桜井理恵、斎藤真美、菅原由美子、中山響、岩崎満佐子の各氏の多大なるご協力を得ることができた。ここに記して改めて感謝の意を表する次第である。

なお、本稿の研究成果は、前項目でもふれたように、平成24年度科学研究費補助金基盤研究（C）「中部地方内陸地域における古代・中世の堅塩・焼塩の生産と流通に関する研究」研究代表平野修（課題番号 24520864）の成果を用いている。

引用・参考文献

岩本正二　1983「７～９世紀の土器製塩」『文化財論叢』,pp.401-418, 奈良国立文化財研究所創立30周年記念論文集刊行会編 , 同朋舎出版

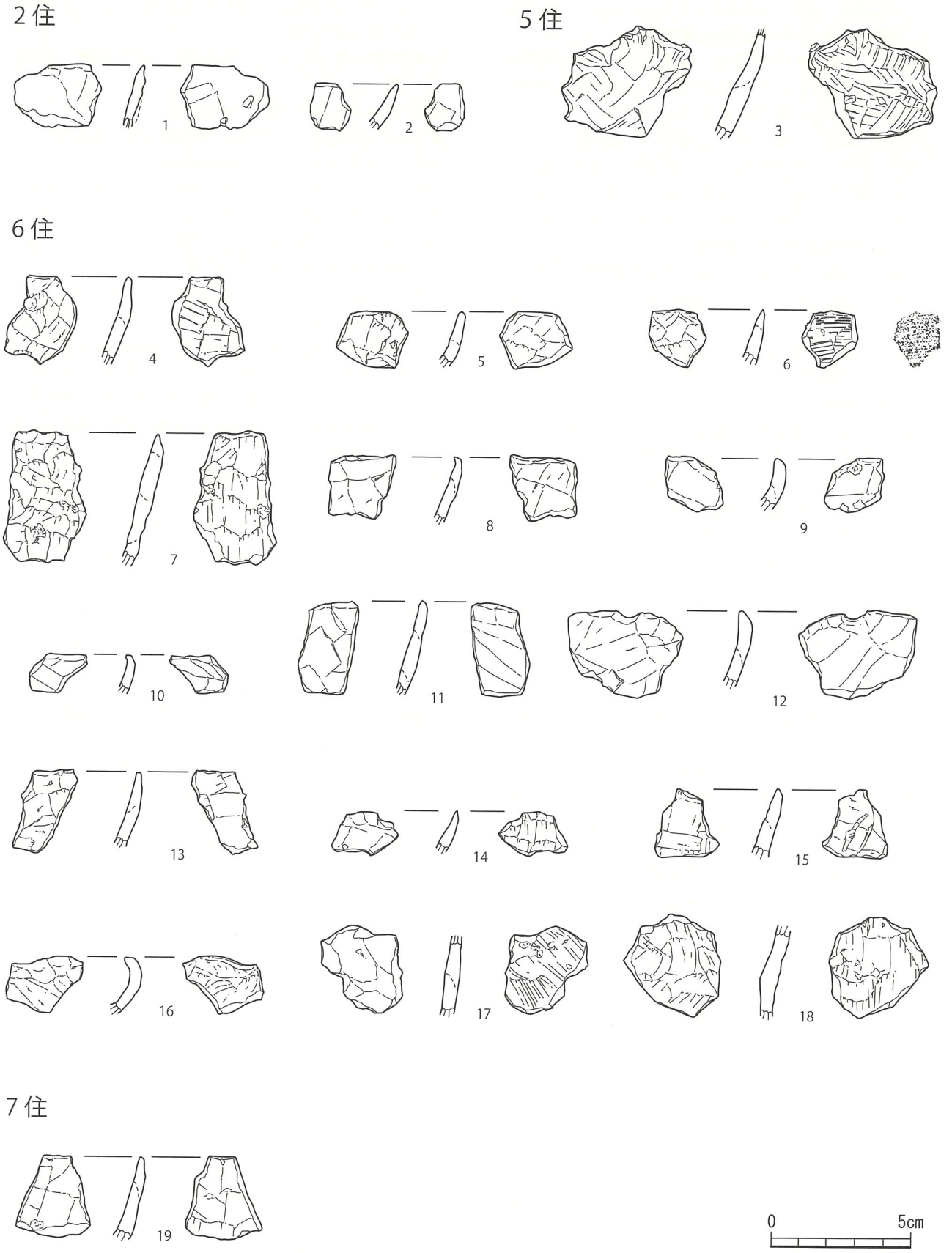
小川望　2008「第一部第５章 焼塩壷の生産者とその相互関係」『焼塩壷と近世の考古学』,pp.62-68, 同成社

河西学　2014「宮ノ前遺跡出土製塩土器の胎土分析」『山梨考古学論集Ⅶ』,pp.313-323, 山梨県考古学協会

河西学　2015「岩石学的手法による胎土分析からみた山梨県産古代製塩土器の産地推定（予察）」『塩の考古学Ⅱ』,pp.81-87, 山梨県考古学協会・帝京大学文化財研究所

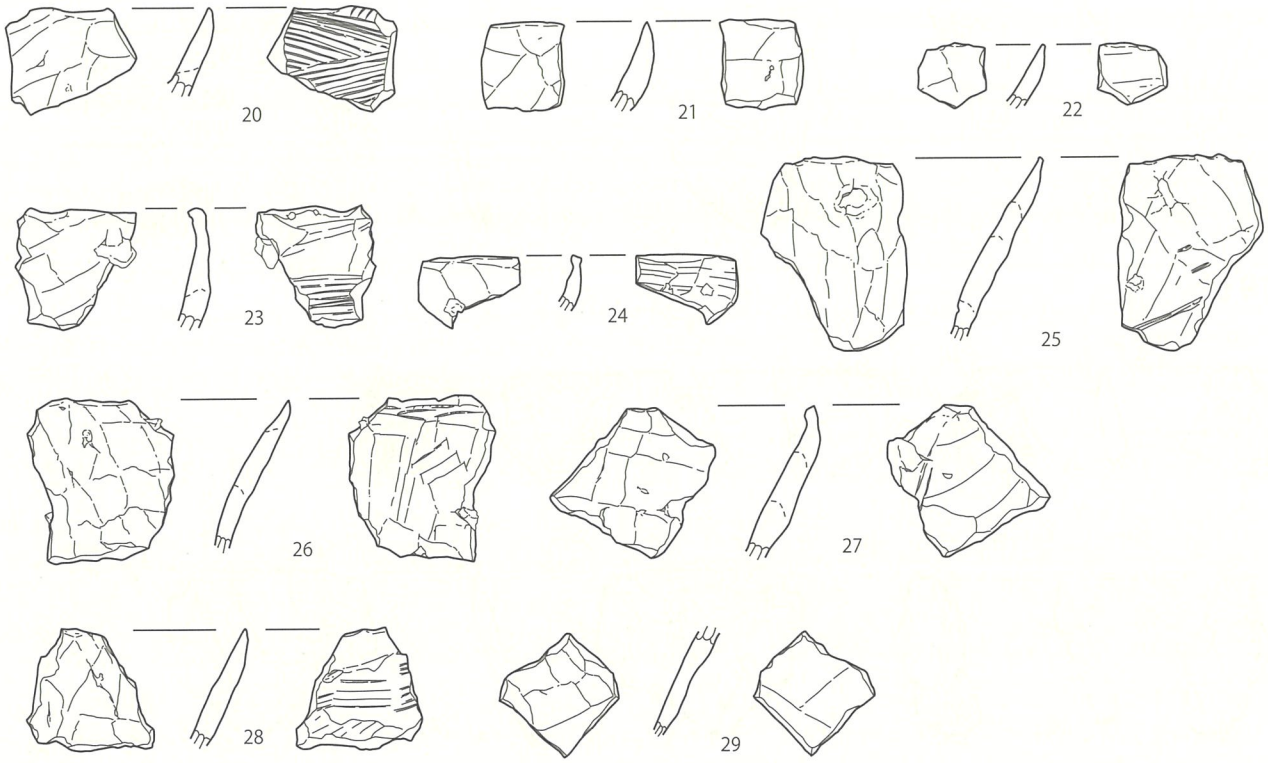
川又隆央　2002「鉢形土器について」『神奈川県小田原市 下曽我遺跡　永塚下り畑遺跡第Ⅳ地点』,pp.375-386, 鎌倉遺跡調査会・下曽我遺跡発掘調査団
斎藤秀樹　2014「扇状地の開発と集落の展開―甲斐国御勅使川扇状地を中心に―」『古代の開発と地域の力』天野努・田中広明編 ,pp.205-228, 高志書院
静岡市教育委員会　2015『小里前遺跡・庵原館跡』
神野恵　2013「都城の製塩土器」『第16回古代官衙・集落研究会報告書 塩の生産・流通と官衙・集落』奈良文化財研究所研究報告第12集,pp.145-180, 独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所編
田尾誠敏　2009「関東地方における古代製塩土器」『日々の考古学２』東海大学文学部考古学研究室編 ,pp.299-318, 六一書房
田尾誠敏　2015「関東地方沿岸部における製塩土器と流通」『塩の考古学Ⅱ』,pp.35-44, 山梨県考古学協会・帝京大学文化財研究所
中田英　1981「古代東国集落における掘立柱建物の一考察―『溝もち』掘立柱建物遺構の壁構造の復元について―」『神奈川考古』第12号,pp.115-134, 神奈川考古同人会
馬場基　2013「文献資料からみた古代の塩」『第16回古代官衙・集落研究会報告書 塩の生産・流通と官衙集落』奈良文化財研究所研究報告第12集,pp.11-35, 独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所編
平野修　2000「墨書土器にみる集落内の集団動向―鋳物師屋遺跡群の出土文字資料の検討から―」『山梨県考古学協会誌』第11号,pp.137-152, 山梨県考古学協会
平野修　2010「考古学からみた古代内陸地域における塩の流通―８世紀代から９世紀代における甲斐国の事例を中心に―」『帝京大学山梨文化財研究所研究報告』第14集 ,pp.101-113, 帝京大学山梨文化財研究所
平野修　2013「川を上り峠を越える製塩土器」『古代山国の交通と社会』,pp.141-160, 鈴木靖民・吉村武彦・加藤友康編 , 八木書店
平野修　2014「山梨県韮崎市域の新発見古代製塩土器」『山梨考古学論集Ⅶ』,pp.133-154, 山梨県考古学協会
平野修　2015「古代甲斐国出土の製塩土器資料をめぐる諸問題」『塩の考古学Ⅱ』,pp.1-34, 山梨県考古学協会・帝京大学文化財研究所
韮崎市教育委員会他　1986『金山遺跡・下木戸遺跡・中道遺跡』
韮崎市教育委員会他　1987『後田遺跡』
韮崎市教育委員会他　1987『中本田遺跡・堂の前遺跡』
韮崎市教育委員会他　1990『北後田遺跡』
韮崎市教育委員会他　1991『宮ノ前第２遺跡・北堂地遺跡』
韮崎市遺跡調査会他　1992『宮ノ前遺跡』
韮崎市教育委員会他　1993『宮ノ前第３遺跡』
韮崎市教育委員会　1997『宮ノ前第５遺跡』
韮崎市教育委員会他　2001『石之坪遺跡（西地区）』
森泰通　2010「東海地方における古代土器製塩覚え書き2009―内陸部から出土する製塩土器の意味を考えるために―」『東海土器製塩研究』,pp.54-73, 考古学フォーラム
森泰通　2015「古代東海地方における堅塩づくりの製塩土器」『塩の考古学Ⅱ』,pp.59-80, 山梨県考古学協会・帝京大学文化財研究所
南アルプス市教育委員会他　2009『野牛島・西ノ久保遺跡Ⅲ・Ⅴ・Ⅵ区』南アルプス市埋蔵文化財調査報告書第20集
山梨県考古学協会　2008『山梨県考古学協会2007年度研究集会 塩の考古学―ゆく塩、くる塩、古代の塩とその流通を考える―資料集』
山中敏史 2003「Ⅲ-2 柱掘りかたの形状」『古代の官衙遺跡』Ⅰ遺構編 ,pp.48-53, 独立行政法人文化財研究所奈良文化財研究所
山梨県　1998『山梨県史』資料編１原始・古代１ 考古（遺跡）
山梨県考古学協会　2014「南アルプス市の歴史を変えた発見の物語」『山梨考古』第 134 号 ,pp.1-12
山梨市教育委員会他　2014『三ヶ所遺跡（第三次調査地点）―市道小原東東後屋敷線改良に伴う発掘調査報告書―』山梨市文化財調査報告書第15集
渡辺誠　1987「粗塩・堅塩と焼塩のこと」『考古学ジャーナル』284,pp.3-3, ニュー・サイエンス社

鋳物師屋遺跡

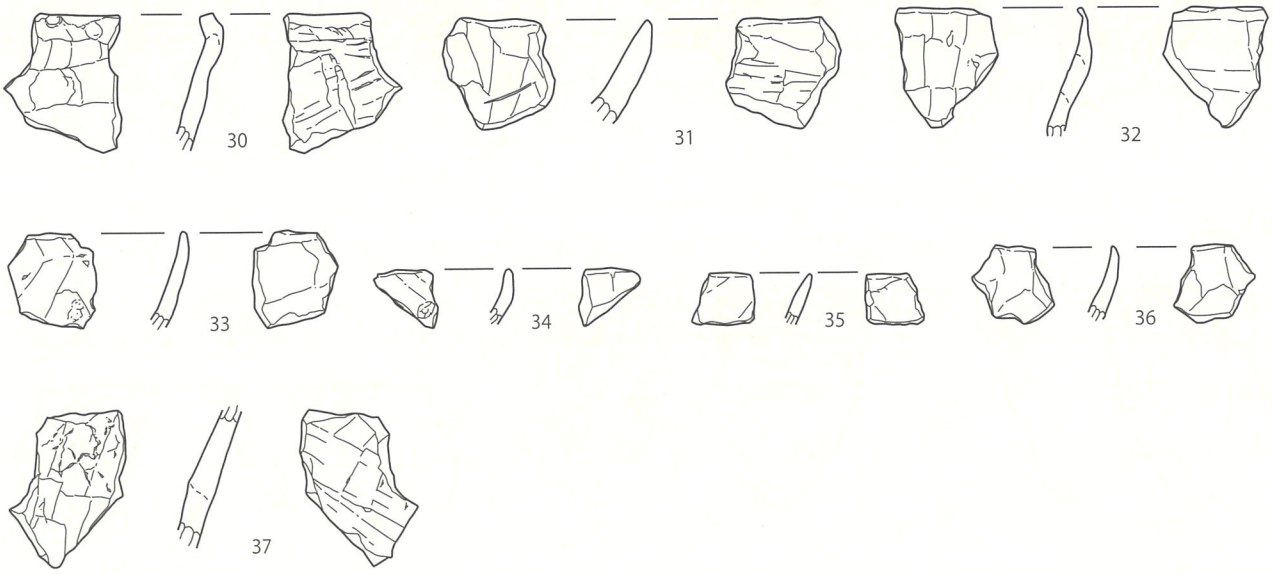


第16図　鋳物師屋遺跡製塩土器実測図（1）

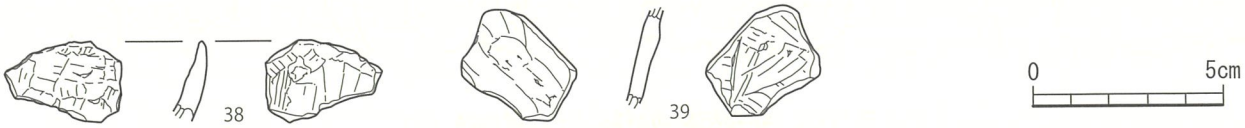
8住



9住

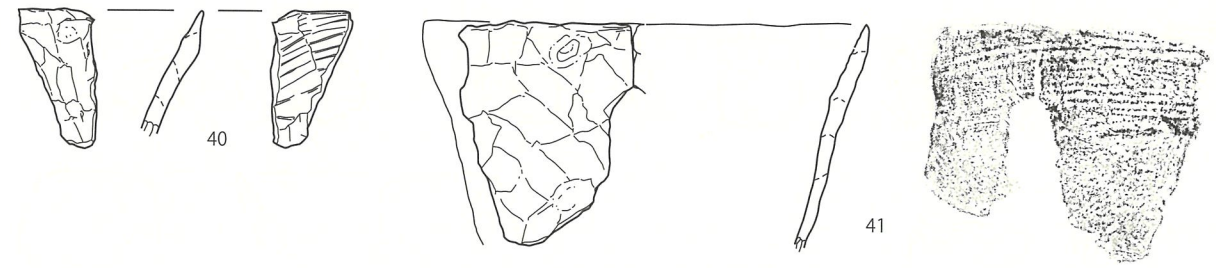


11住

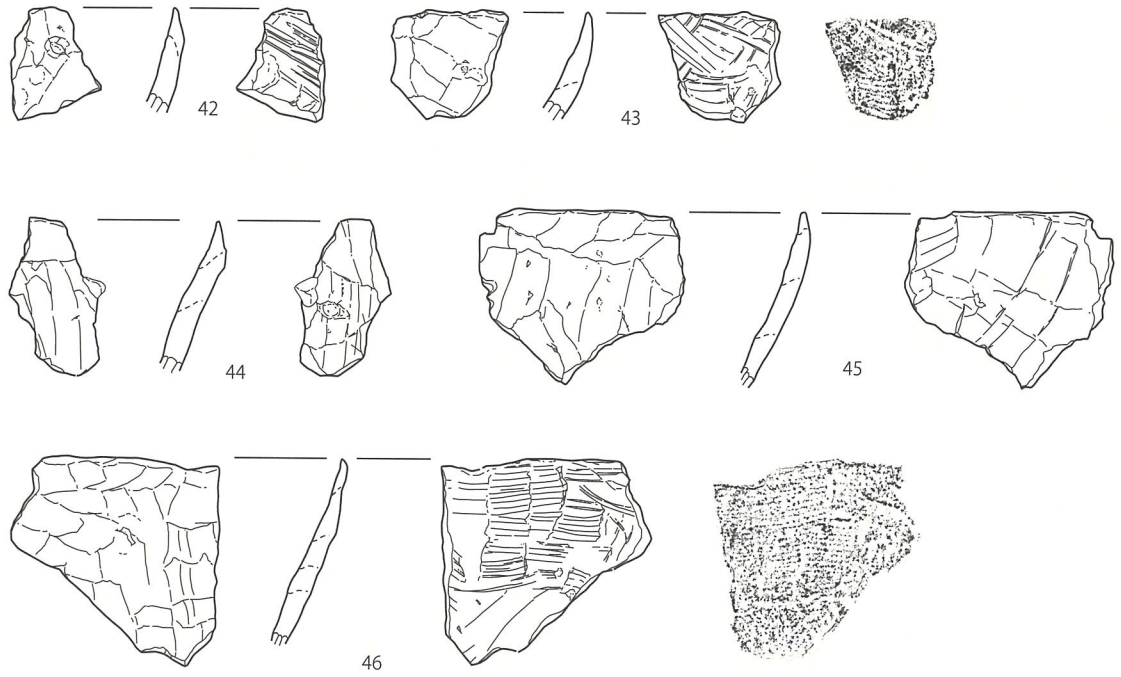


第16図　鋳物師屋遺跡製塩土器実測図（2）

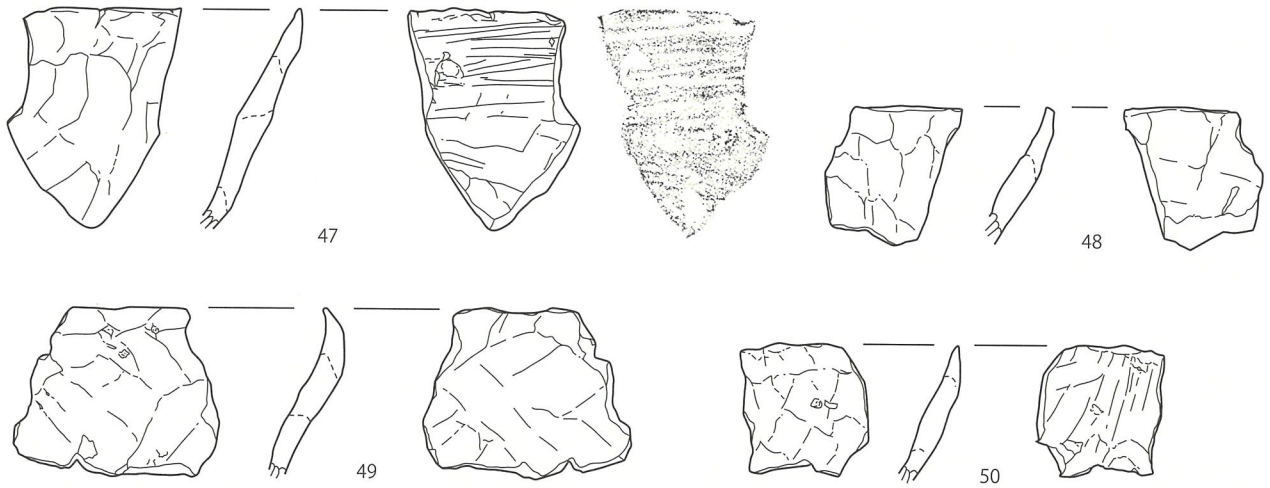
15住　　鋳物師屋遺跡



19住



21住



第16図　鋳物師屋遺跡製塩土器実測図（3）

0　5cm

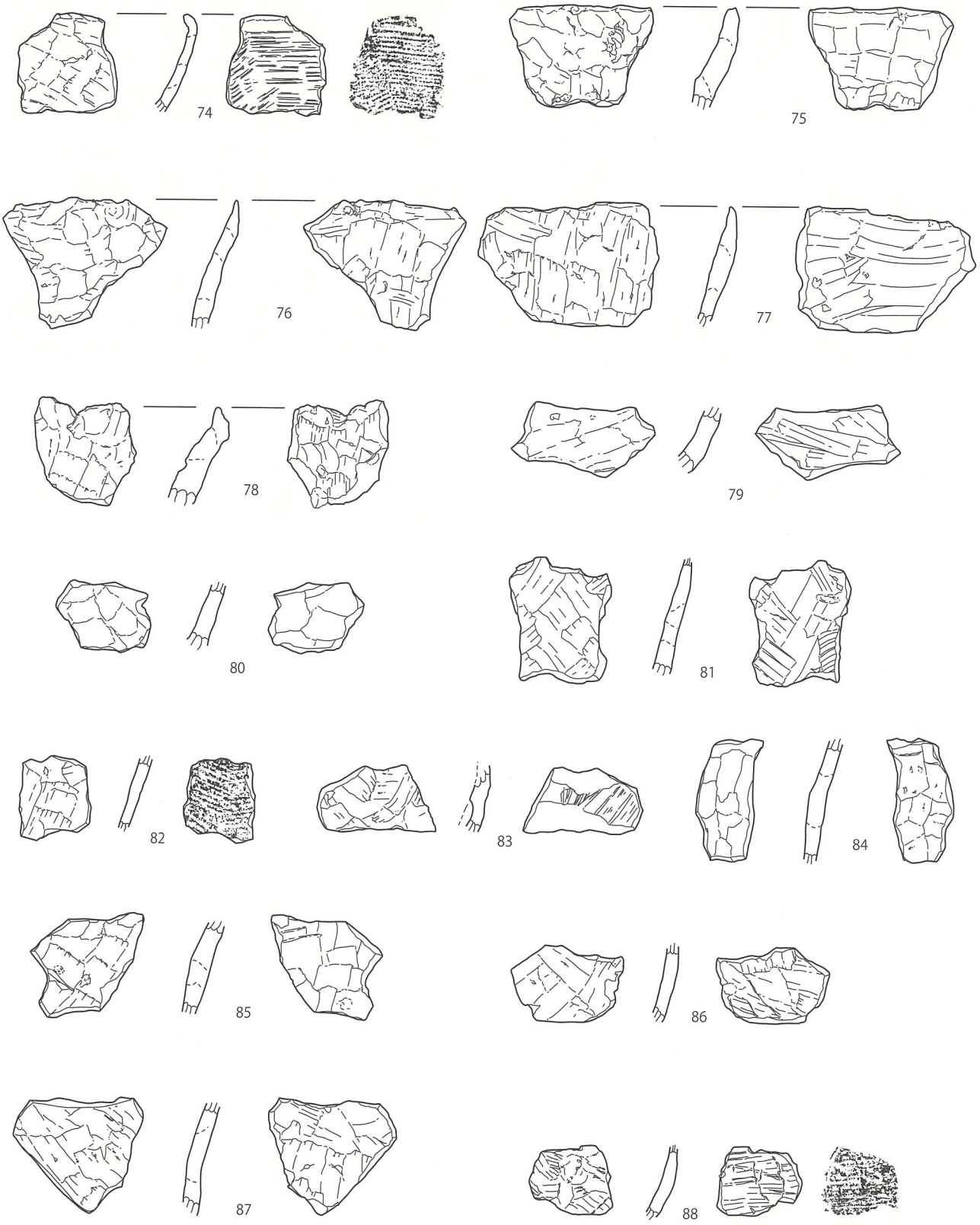
21住

第16図　鋳物師屋遺跡製塩土器実測図（4）

0　5cm

鋳物師屋遺跡

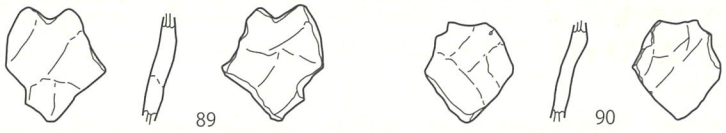
21住



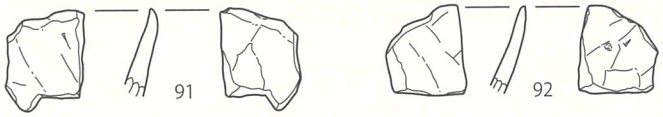
第16図　鋳物師屋遺跡製塩土器実測図（5）

0　5cm

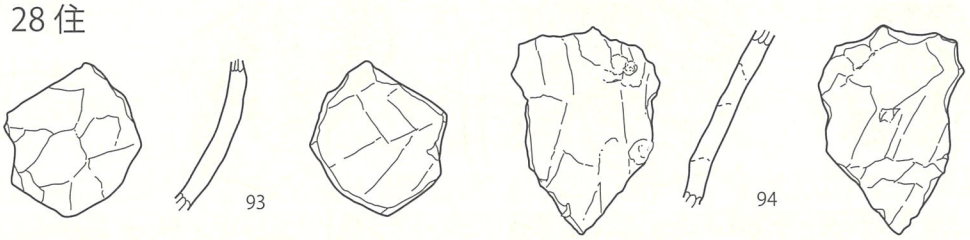
22住



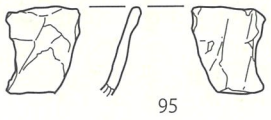
26住



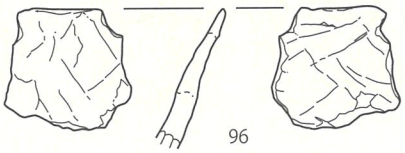
28住



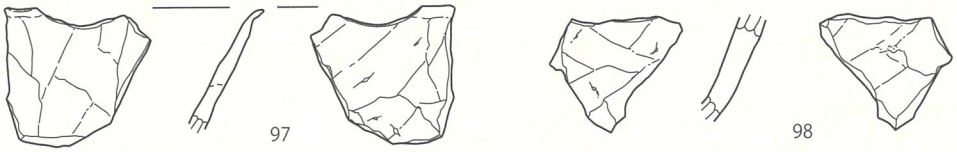
32住



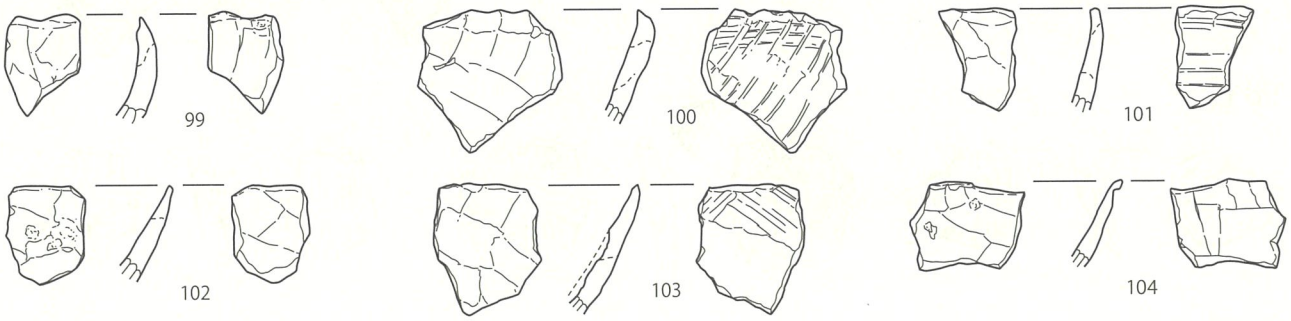
35住



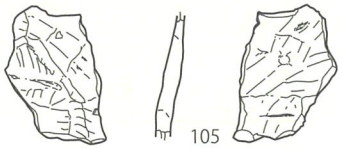
36住



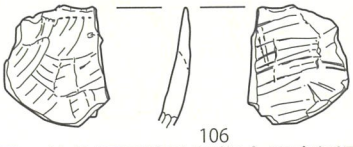
45住



51住



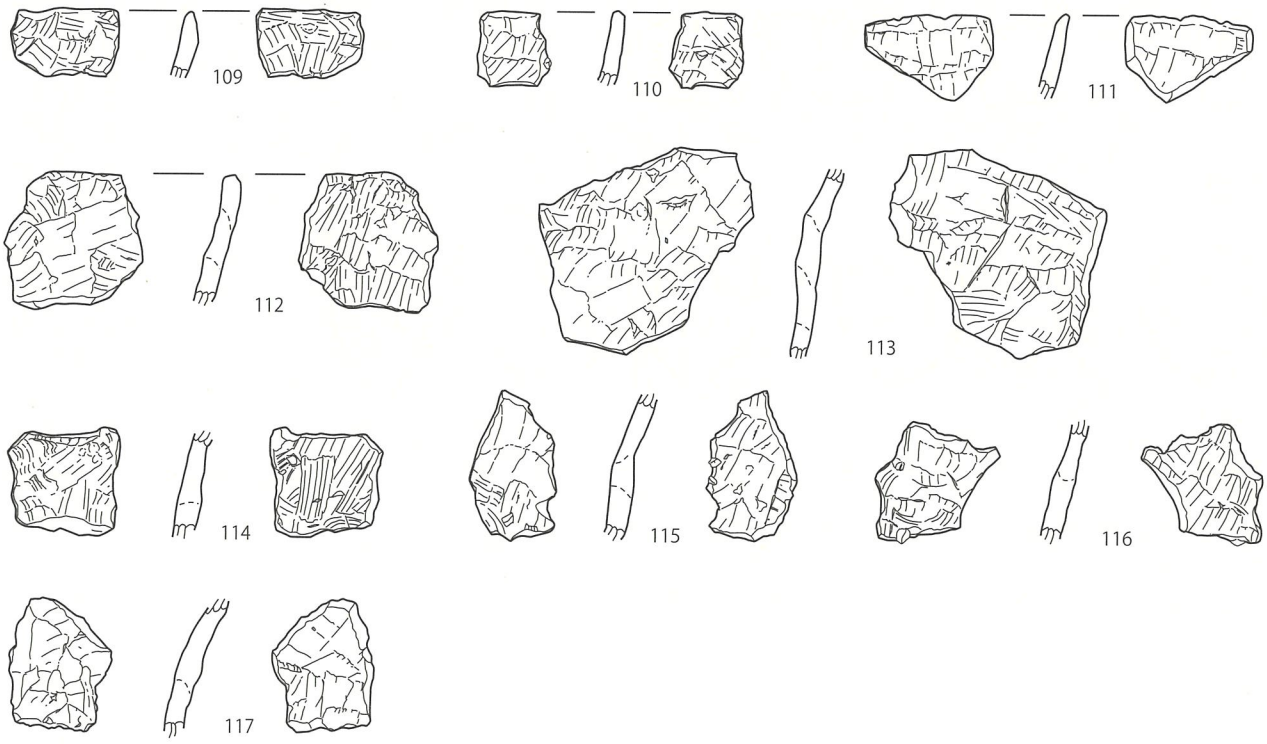
52住



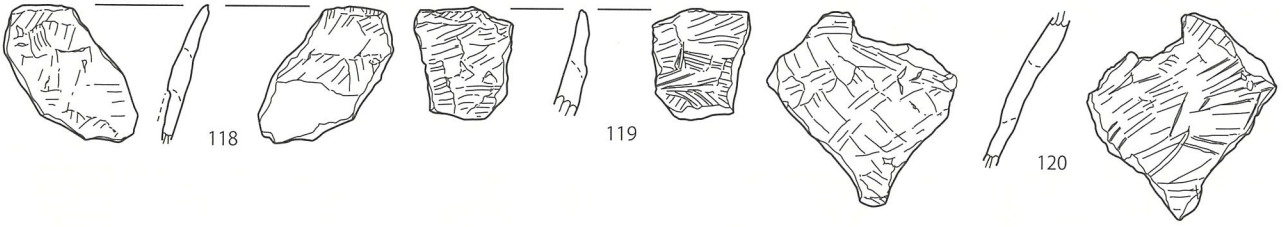
第16図　鋳物師屋遺跡製塩土器実測図（6）

62 住　　鋳物師屋遺跡

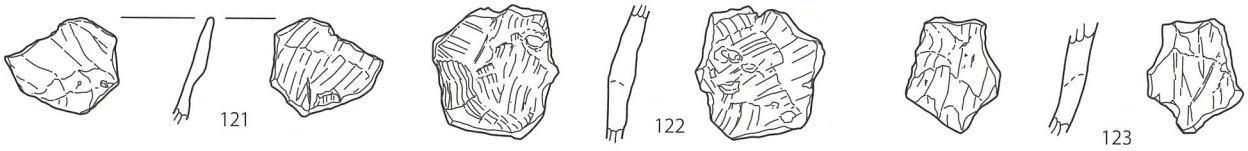
77 住



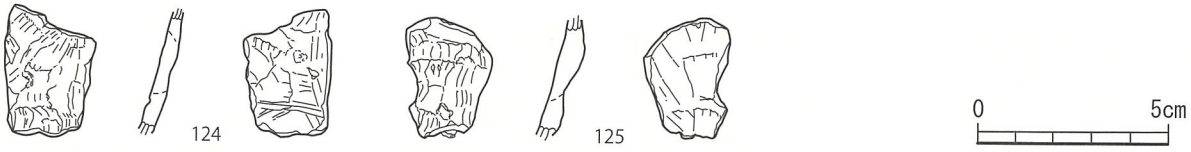
79 住　　87 住　　96 住



98 住

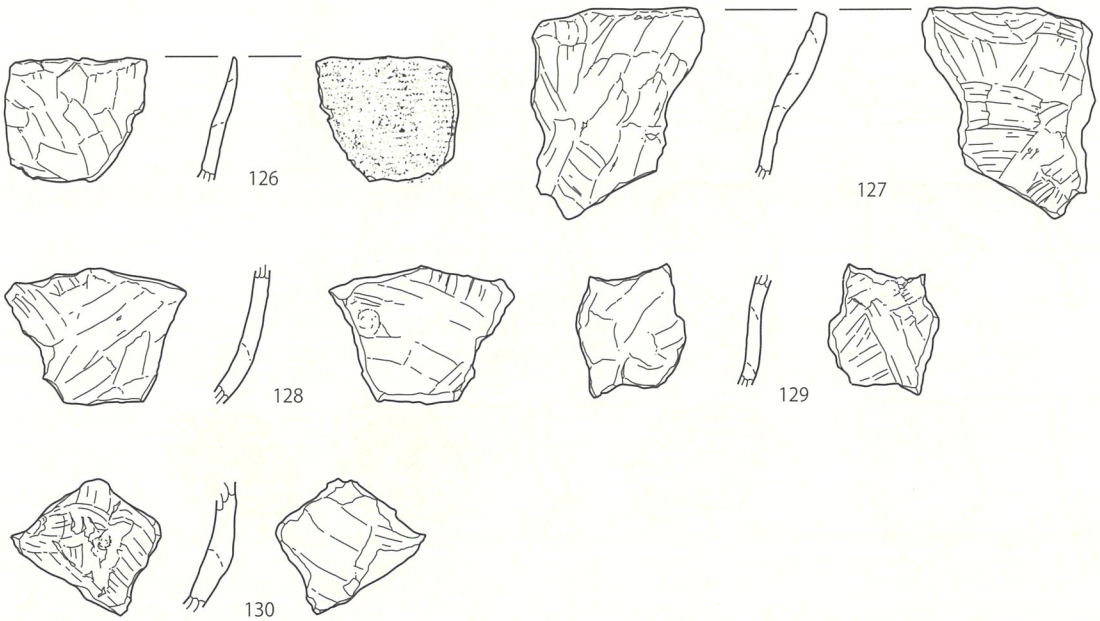


102 住

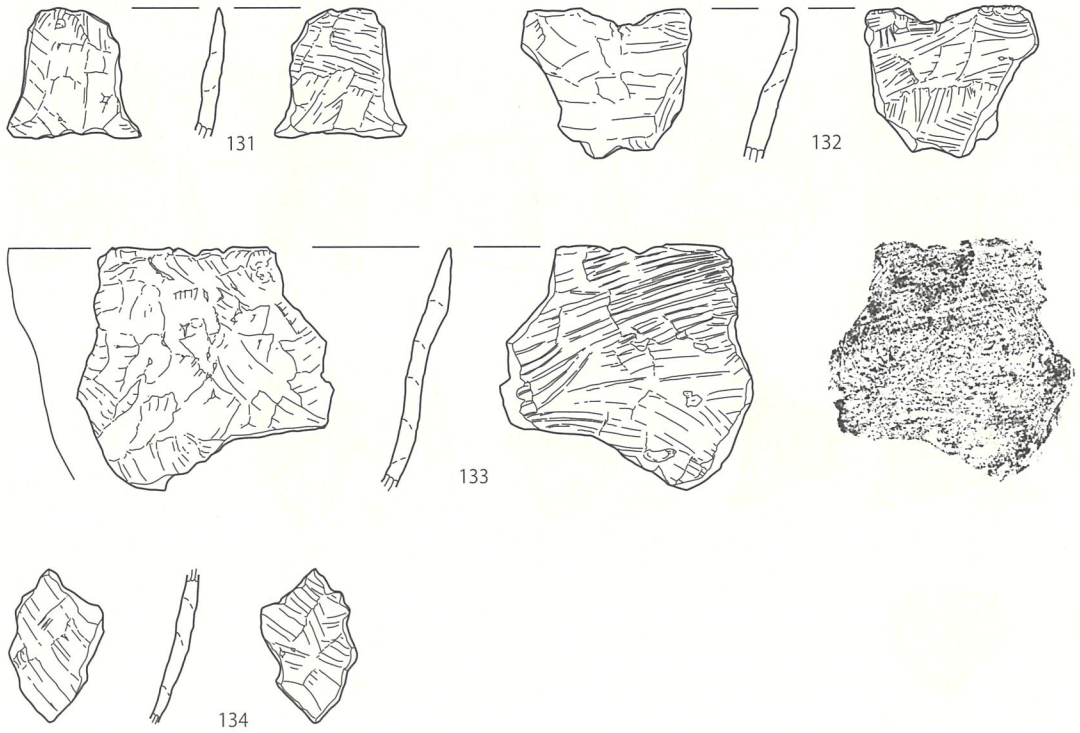


第16図　鋳物師屋遺跡製塩土器実測図（7）

103住



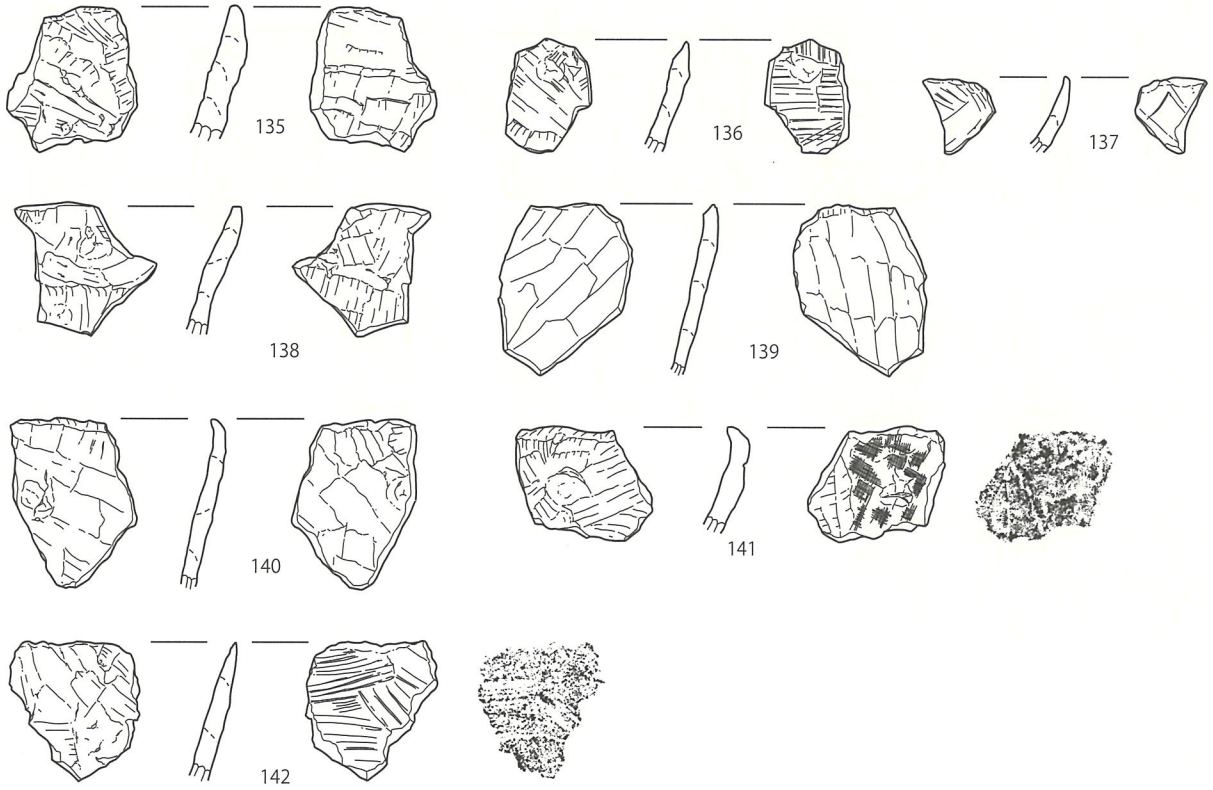
104住



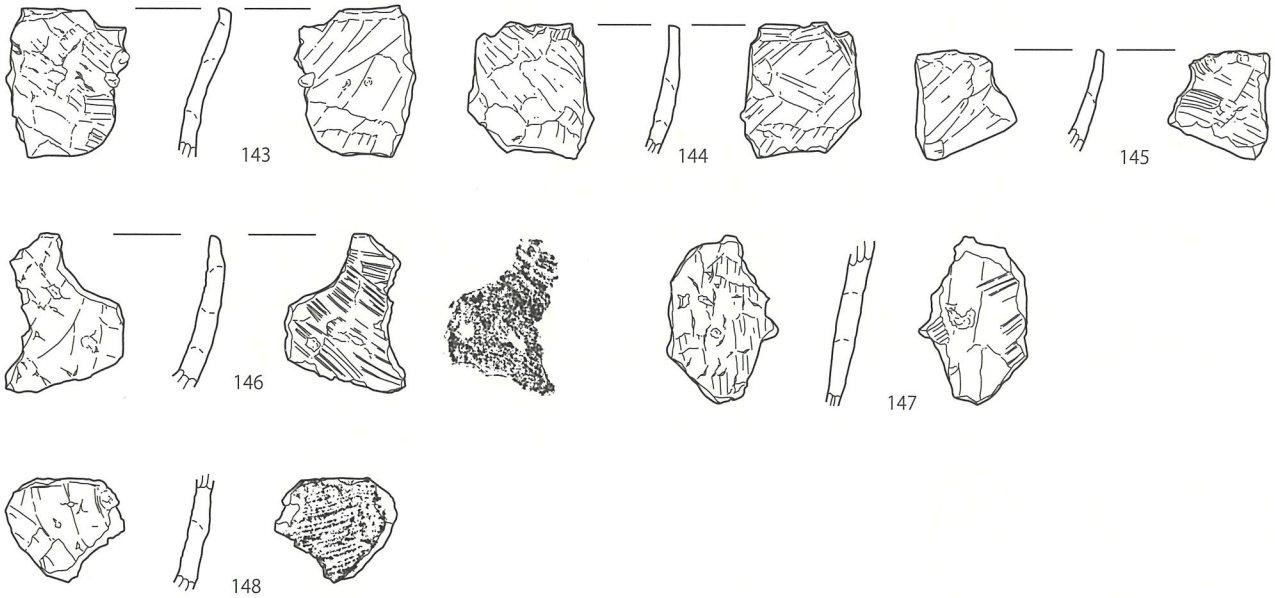
第16図　鋳物師屋遺跡製塩土器実測図（8）　0　5cm

105 住

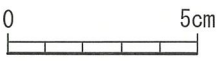
鋳物師屋遺跡



108 住



110 住



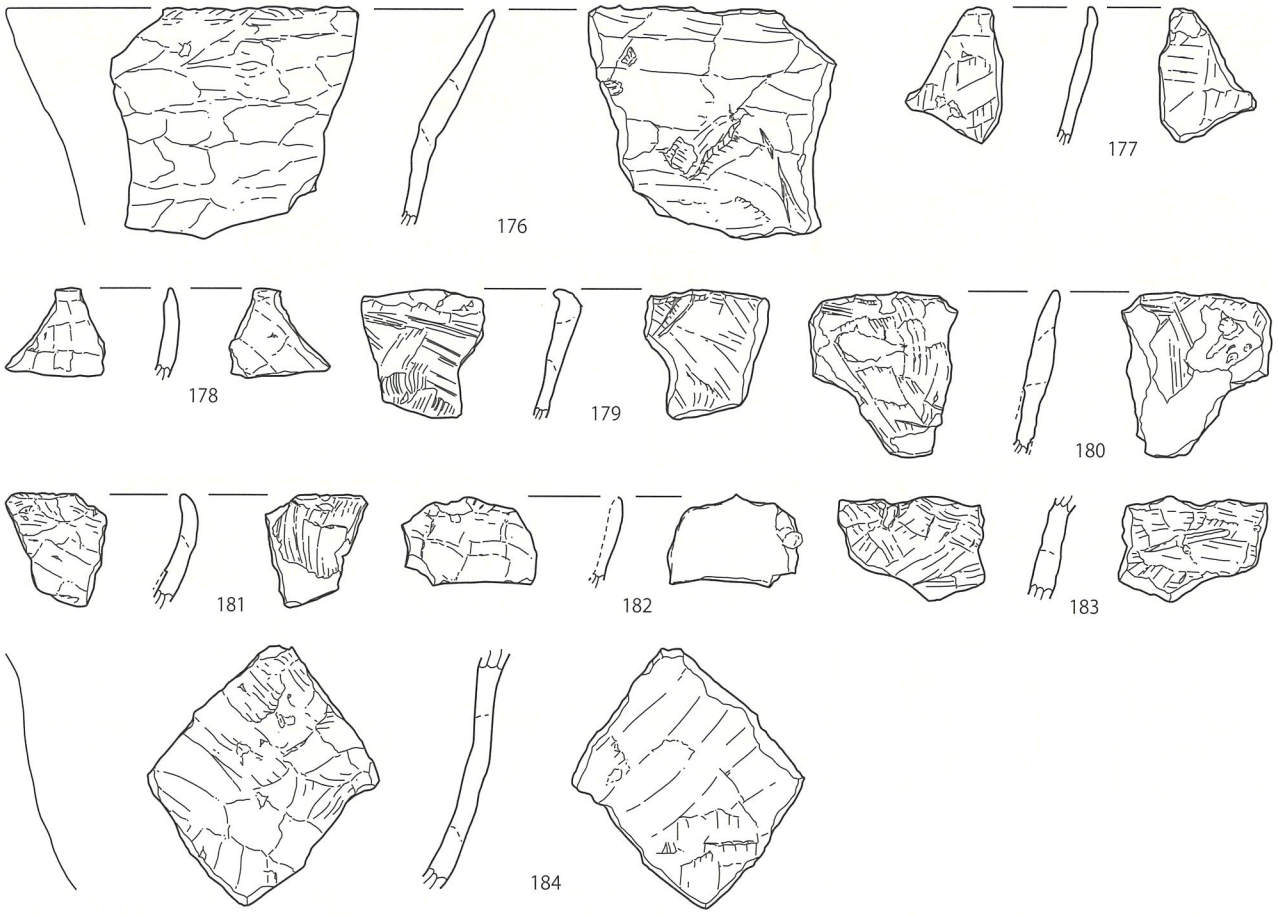
第16図　鋳物師屋遺跡製塩土器実測図（9）

第16図　鋳物師屋遺跡製塩土器実測図（10）

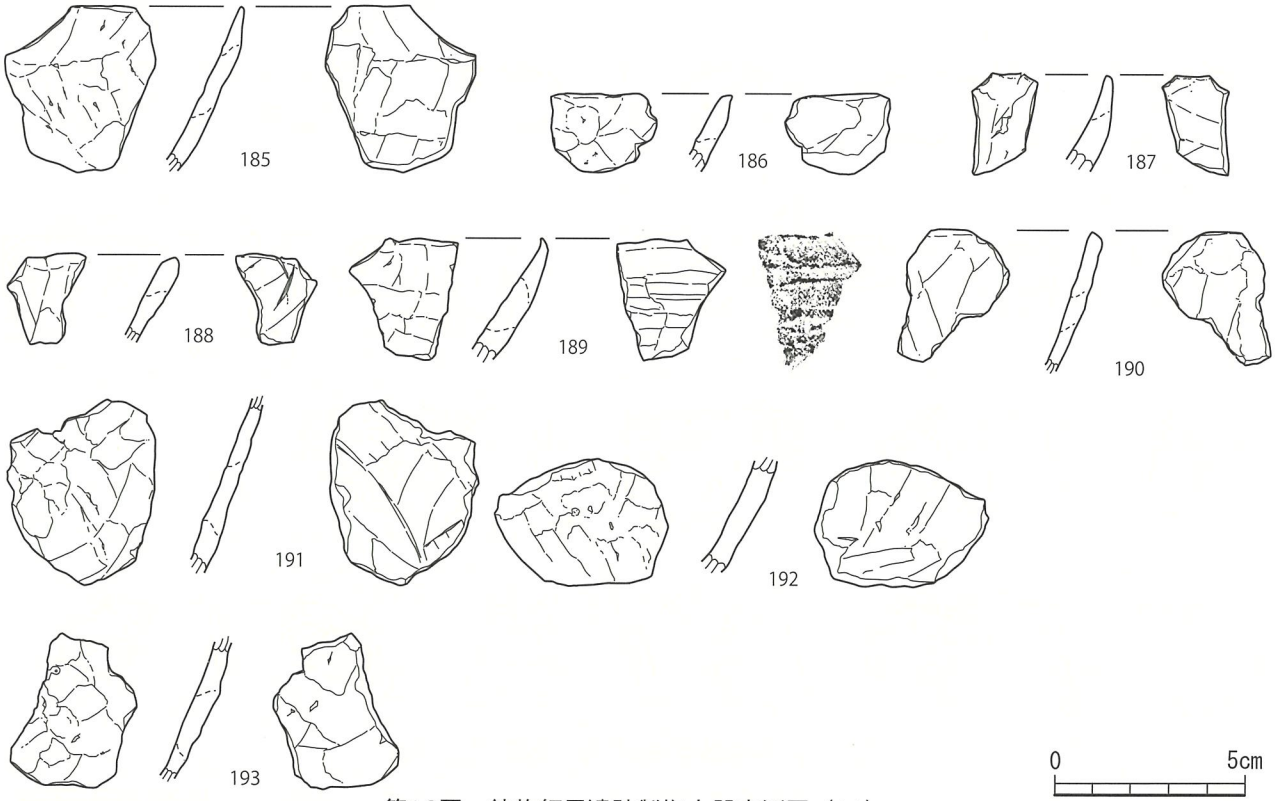
0　5cm

111 住

鋳物師屋遺跡

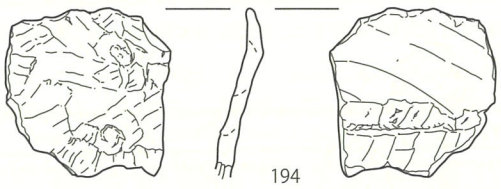


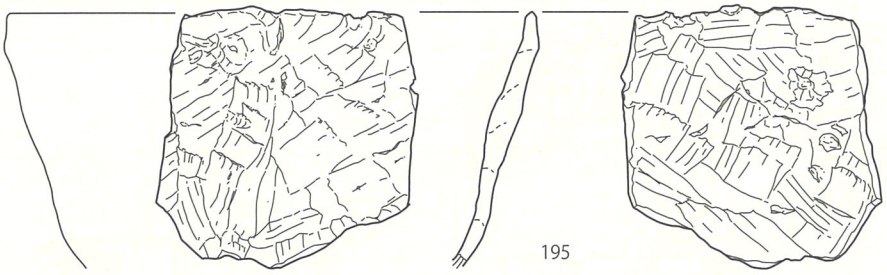
123 住

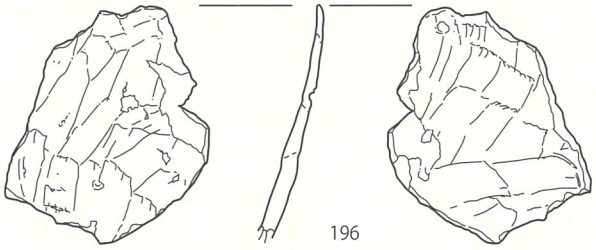


第16図　鋳物師屋遺跡製塩土器実測図（11）

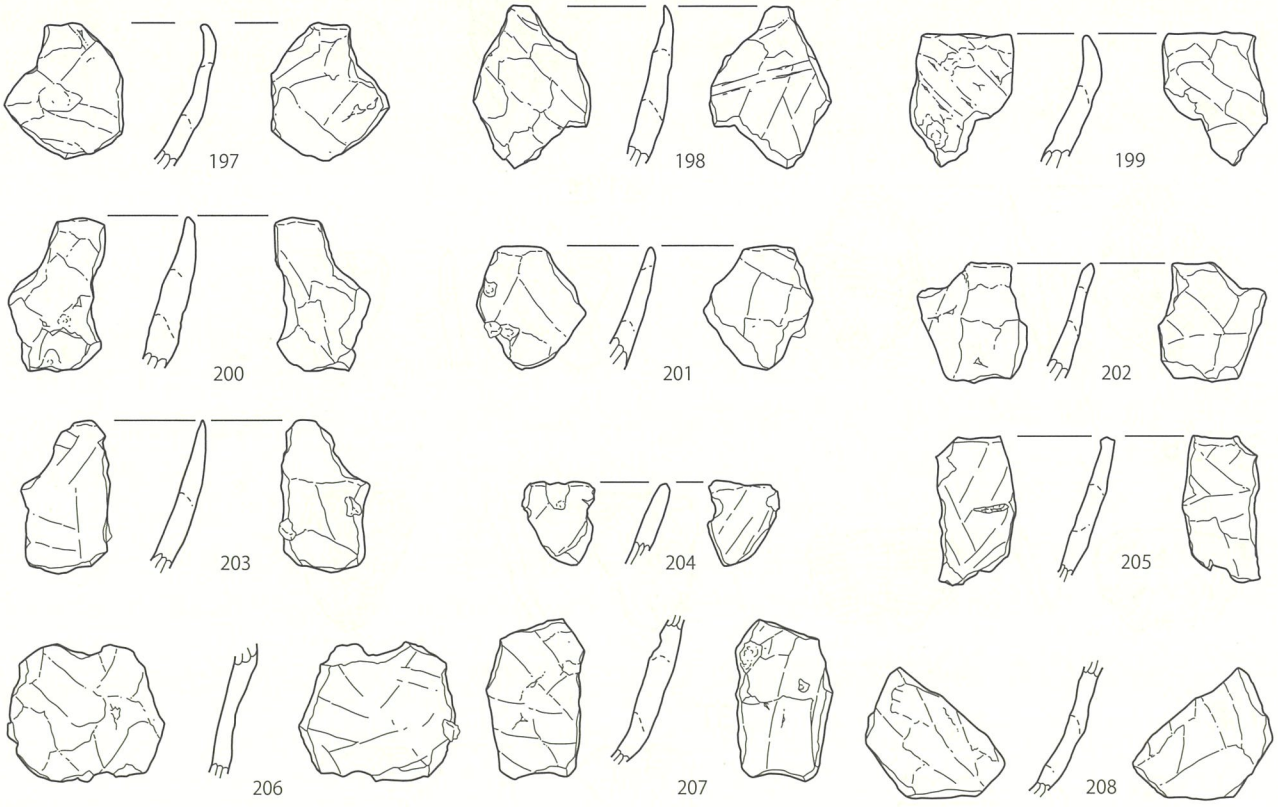
126住







132住

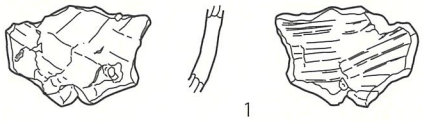


第16図　鋳物師屋遺跡製塩土器実測図（12）

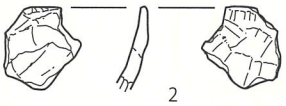
0　5cm

〆木遺跡

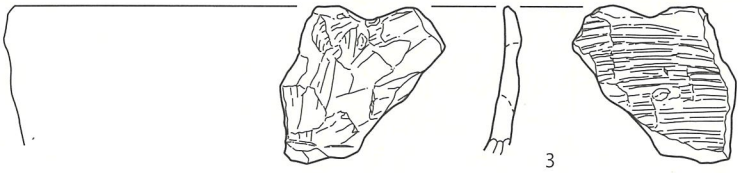
11 住

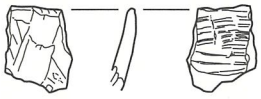


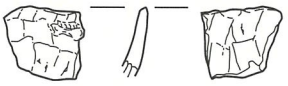
19 住 A

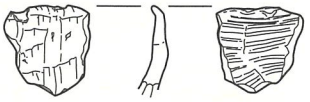


20 住

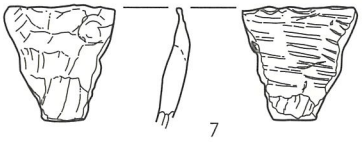




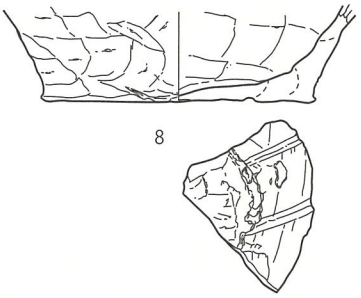




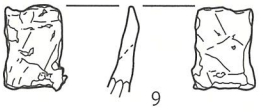
21 住 B



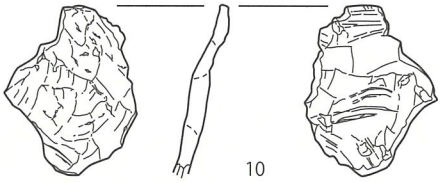
21 住



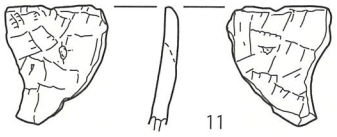
26 住



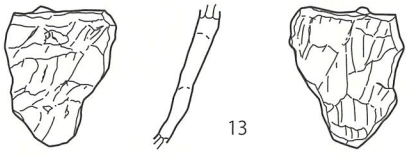
30 住



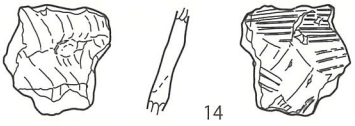
31 住



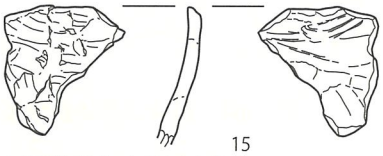
32 住 B



1 溝



3T



第17図　〆木遺跡製塩土器実測図

第１表　南アルプス製塩土器（鋳物師屋遺跡・〆木遺跡）遺物観察表

掲載番号	遺跡名	出土遺構	時期	注記内容	胎土	色調	調整	形態分類	残存部	重量グラム	備考
1	鋳物師屋遺跡	2住	9c前		白・黒色粒子、雲母、小礫	内外面共鈍い黄橙色	内面斜位ナデ、外面縦位ナデ	E類-1	口縁部破片	3	軟質、外面剥落
2	鋳物師屋遺跡	2住	9c前		白・黒色粒子、小礫	内外面共鈍い橙色	内外面斜位ナデ	B類	口縁部破片	1	軟質、摩滅やや顕著
3	鋳物師屋遺跡	5住	8c末	1328	白・黒色粒子、雲母、小礫	内外面共鈍い黄橙色	内面横位・斜位ナデ、外面縦位・斜位ナデ		胴部破片	12	やや硬質、外面の摩滅やや顕著
4	鋳物師屋遺跡	6住	10c前		赤・白・黒色粒子、雲母、小礫	内外面共鈍い黄橙色	内面縦位・横位ナデ、外面斜位ナデ	B類	口縁破片	4	やや軟質、摩滅やや顕著、口縁端部面取り
5	鋳物師屋遺跡	6住	10c前		赤・白・黒色粒子、小礫	内外面共鈍い橙色	内面斜位・横位ナデ、外面斜位ナデ	B類	口縁破片	3	やや硬質、外面白色付着物顕著、内面薄ピンク化顕著
6	鋳物師屋遺跡	6住	10c前		白・黒色粒子、雲母、小礫	内外面共鈍い黄橙色	内面横位ハケメ状ナデ、外面横位・斜位ナデ	E類-1	口縁破片	2	やや軟質、摩滅やや顕著
7	鋳物師屋遺跡	6住	10c前		赤・白・黒色粒子、雲母、小礫	内外面共鈍い橙色	内面横位・縦位ナデ、外面縦位・斜位ナデ	E類-1	口縁破片	10	やや硬質、内外面赤褐色化顕著
8	鋳物師屋遺跡	6住	10c前		白・黒色粒子、小礫、雲母	内外面共鈍い黄橙色	内面斜位ナデ、外面横位・縦位・斜位ナデ	C類-1	口縁破片	3	やや軟質
9	鋳物師屋遺跡	6住	10c前		白・黒色粒子、小礫	内外面共鈍い黄橙色	内面横位ナデ、外面斜位ナデ	C類-1	口縁破片	2	やや軟質、摩滅やや顕著
10	鋳物師屋遺跡	6住	10c前		白・赤・黒色粒子、雲母、小礫	内外面共鈍い黄橙色	内外面横位・斜位ナデ	C類-1	口縁破片	1	やや軟質、摩滅やや顕著
11	鋳物師屋遺跡	6住	10c前		白・黒色粒子、小礫、雲母	内外面共鈍い黄橙色	内面斜位ハケメ状ナデ、外面縦位・斜位ナデ	E類-1	口縁破片	4	やや軟質、摩滅顕著
12	鋳物師屋遺跡	6住	10c前		白・黒色粒子、雲母、小礫	内外面共鈍い黄橙色	内面斜位ナデ、外面縦位・斜位ナデ	B類	口縁破片	7	軟質、摩滅やや顕著、口縁薄ピンク化
13	鋳物師屋遺跡	6住	10c前		赤・白・黒色粒子、雲母	内外面共鈍い橙色	内面横位・縦位ナデ、外面斜位ナデ	B類	口縁破片	2	やや硬質、強く被熱、薄ピンク化顕著
14	鋳物師屋遺跡	6住	10c前		赤・白・黒色粒子、雲母、小礫	内外面共鈍い黄橙色	内面横位・斜位ナデ、外面縦位・横位ナデ	B類	口縁破片	1	やや軟質、摩滅やや顕著
15	鋳物師屋遺跡	6住	10c前		白・黒色粒子、雲母、小礫	内外面共鈍い黄橙色	内面斜位ナデ、外面横位・縦位ナデ	E類-1	口縁破片	3	やや軟質、摩滅やや顕著
16	鋳物師屋遺跡	6住	10c前		白・黒色粒子、雲母、小礫	内外面共鈍い黄橙色	内外面斜位ナデ	C類-2	口縁破片	3	やや軟質、口縁端部面取り
17	鋳物師屋遺跡	6住	10c前		白・赤・黒色粒子、雲母、小礫	内外面共鈍い黄橙色	内外面斜位ナデ		胴部破片	5	やや軟質、摩滅やや顕著
18	鋳物師屋遺跡	6住	10c前	2884	白・黒色粒子、雲母、小礫	内外面共鈍い黄橙色	内面縦位ナデ、外面縦位・斜位ナデ		胴部破片	9	やや硬質、摩滅やや顕著
19	鋳物師屋遺跡	7住	9c?	125	赤・白・黒色粒子、小礫	内外面共鈍い黄橙色	内面縦位・横位ナデ、外面斜位ナデ	D類-1	口縁部破片	5	硬質
20	鋳物師屋遺跡	8住	10c前		白・黒色粒子、雲母、小礫	内外面共鈍い黄橙色	内面斜位ナデ・横位ハケメ状ナデ、外面斜位ナデ	D類-1	口縁部破片	6	硬質、内面丁寧なハケメ、口縁波状顕著
21	鋳物師屋遺跡	8住	10c前		白・黒色粒子、雲母、(比較的精選されている)	内外面共鈍い黄橙色	内外面斜位・横位ナデ	B類	口縁部破片	4	やや軟質、内面滑らか
22	鋳物師屋遺跡	8住	10c前		白・黒色粒子、雲母、小礫	内外面共鈍い黄橙色	内外面横位ナデ	D類-1	口縁部破片	1	薄手、やや硬質、内面滑らか
23	鋳物師屋遺跡	8住	10c前		白・黒色粒子、雲母、小礫	内外面共鈍い橙色	内面横位ハケメ状ナデ、外面斜位ナデ	C類-2	口縁部破片	6	やや軟質、口縁端部部分的に面取り
24	鋳物師屋遺跡	8住	10c前		白・黒色粒子、金雲母、小礫	内外面共鈍い黄橙色	内面横位ハケメ状ナデ、外面斜位ナデ	C類-2	口縁部破片	2	軟質、薄手、口縁端部面取り
25	鋳物師屋遺跡	8住	10c前	1894	白・黒色粒子、雲母、小礫	内外面共鈍い黄橙色	内外面斜位ナデ	D類-1	口縁部破片	12	やや軟質、摩滅やや顕著、内面滑らか
26	鋳物師屋遺跡	8住	10c前	1395	白・黒色粒子、雲母、小礫	内面　鈍い橙色 外面　鈍い黄橙色	内外面縦位ナデ	D類-1	口縁部破片	10	やや硬質、摩滅やや顕著、内面滑らか
27	鋳物師屋遺跡	8住	10c前	473	白・赤・黒色粒子、雲母多、小礫	内外面共鈍い黄橙色	内面斜位ナデ、外面横位ナデ	C類-2	口縁部破片	12	硬質、中厚手、口縁端部面取り
28	鋳物師屋遺跡	8住	10c前	940	白・赤色粒子	内外面共鈍い橙色	内面横位ハケメ状ナデ、外面斜位ナデ	E類-1	口縁部破片	6	やや硬質、摩滅やや顕著
29	鋳物師屋遺跡	8住	10c前		白・赤・黒色粒子、小礫	内外面共鈍い黄橙色	内外面横位・斜位ナデ		胴部破片	4	やや軟質、薄手
30	鋳物師屋遺跡	9住	9c?	773	白・黒色粒子、雲母、(比較的精選されている)	内外面共鈍い黄橙色	内外面横位を中心とするナデ	C類-2	口縁部破片	6	やや硬質、口縁端部面取り
31	鋳物師屋遺跡	9住	9c?		白・赤・黒色粒子、雲母、小礫	内外面共鈍い黄橙色	内面横位ナデ、外面斜位ナデ	D類-1	口縁部破片	8	やや硬質、摩滅やや顕著、中厚手
32	鋳物師屋遺跡	9住	9c?		白・黒色粒子、雲母、小礫(比較的精選されている)	内外面共鈍い黄橙色	内面横位ナデ、外面斜位ナデ	C類-1	口縁部破片	5	やや軟質、内面滑らか
33	鋳物師屋遺跡	9住	9c?		白・黒色粒子、小礫	内外面共鈍い黄橙色	内面不明、外面斜位ナデ	D類-1	口縁部破片	3	やや硬質、外面黒ずみ、内面荒れ顕著
34	鋳物師屋遺跡	9住	9c?		白・黒色粒子、小礫	内外面共鈍い黄橙色	内面縦位ナデ、外面斜位ナデ	C類-1	口縁部破片	1	摩滅やや顕著
35	鋳物師屋遺跡	9住	9c?		白色粒子	内外面共鈍い黄橙色	内外面横位ナデ	B類	口縁部破片	1	やや硬質、摩滅やや顕著、薄手
36	鋳物師屋遺跡	9住	9c?		白・赤・黒色粒子(比較的精選されている)	内面　鈍い褐色 外面　鈍い黄橙色	内面斜位ナデ、外面横位ナデ	D類-1	口縁部破片	2	やや硬質、薄手、摩滅やや顕著
37	鋳物師屋遺跡	9住	9c?		白・黒色粒子、雲母(比較的精選されている)	内外面共鈍い黄橙色	内外面斜位ナデ		胴部破片	9	硬質、中厚手、外面ちりめん状顕著
38	鋳物師屋遺跡	11住	9c前		白・黒色粒子、小礫	内外面共鈍い黄橙色	内外面横位・斜位ナデ	B類	口縁破片	4	やや硬質、口縁端部灰色化
39	鋳物師屋遺跡	11住	9c前		赤・白・黒色粒子、雲母、小礫	内外面共鈍い黄橙色	内面縦位・斜位ナデ、外面斜位ナデ		胴部破片	5	内外面共摩滅顕著
40	鋳物師屋遺跡	15住	?	カマドP4	白・赤・黒色粒子、雲母、小礫	内外面共鈍い黄橙色	内面ハケメ状横位ナデ、外面縦位ナデ	D類-1	口縁部破片	4	やや軟質、摩滅やや顕著、外面凹凸激しい

掲載番号	遺跡名	出土遺構	時期	注記内容	胎土	色調	調整	形態分類	残存部	重量グラム	備考
41	鋳物師屋遺跡	15住	?	カマド P12、P8	白・黒色粒子、雲母、小礫	内外面共鈍い褐色	内面横位ハケメ状ナデ、外面縦位・斜位ナデ	D類-1	口縁部破片	23	推定口径11.6cm、被熱のため硬質化、変色顕著
42	鋳物師屋遺跡	19住	9c前		白・黒色粒子、雲母、小礫	内外面共鈍い黄橙色	内面斜位ハケメ状ナデ、外面斜位のナデ	D類-1	口縁部破片	4	被熱のため硬質化
43	鋳物師屋遺跡	19住	9c前		白・黒色粒子、小礫(比較的精選されている)	内外面共鈍い褐色	内面斜位ハケメ状ナデ、外面斜位ナデ	D類-1	口縁部破片	5	被熱のため硬質化
44	鋳物師屋遺跡	19住	9c前		白・黒色粒子、雲母、小礫	内外面共鈍い黄橙色	内面横位ナデ、外面縦位ナデ	D類-1	口縁部破片	6	中厚手、やや軟質、摩滅やや顕著、内外面共滑らか
45	鋳物師屋遺跡	19住	9c前	カマド P15	白・黒色粒子、雲母、小礫	内外面共鈍い褐色(灰色変色部あり)	内面横位ナデ、外面縦位ナデ	C類-1	口縁部破片	14	被熱のため硬質化
46	鋳物師屋遺跡	19住	9c前	カマド P12	白・赤・黒色粒子	内外面共鈍い黄橙色	内面横位ナデ・斜位ハケメ状ナデ、外面斜位・縦位・横位ナデ	D類-1	口縁部破片	14	被熱のためやや硬質化、摩滅やや顕著
47	鋳物師屋遺跡	21住	9c前	5154	白・黒色粒子、小礫少	内面　鈍い橙色 外面　鈍い褐色	内面横位ハケメ状ナデ、外面斜位ナデ	D類-1	口縁部破片	18	口縁端部は尖形、硬質
48	鋳物師屋遺跡	21住	9c前	4428	白・黒色粒子、小礫	内外面共鈍い黄橙色	内面横位ナデ、外面斜位ナデ	C類-2	口縁部破片	8	やや軟質、内面礫ヌケあり、口縁端部面取り
49	鋳物師屋遺跡	21住	9c前	5517	白・黒色粒子、小礫やや多	内外面共鈍い橙色	内面横位・斜位丁寧なナデ、外面斜位のナデ	C類-1	口縁部破片	17	口縁内湾、尖形
50	鋳物師屋遺跡	21住	9c前	3374	白・黒色粒子、小礫やや多	内外面共鈍い黄橙色	内外面斜位・縦位ナデ	B類	口縁部破片	10	軟質
51	鋳物師屋遺跡	21住	9c前		白・黒色粒子、小礫やや多	内外面共鈍い黄橙色	内外面横位・斜位ナデ	C類-1	口縁破片	3	やや軟質、摩滅やや顕著
52	鋳物師屋遺跡	21住	9c前		赤・白(多)・黒色粒子、小礫	内外面共鈍い黄橙色	内外面縦位・横位・斜位ナデ	D類-1	口縁破片	6	やや軟質、摩滅やや顕著
53	鋳物師屋遺跡	21住	9c前		白・黒色粒子、雲母、小礫	内外面共鈍い黄橙色	内面横位ナデ、外面斜位ナデ	E類-2	口縁破片	3	やや軟質、摩滅やや顕著、口縁端部面取り
54	鋳物師屋遺跡	21住	9c前		白色粒子	内外面共鈍い黄橙色	内外面斜位ナデ	E類-2	口縁破片	2	やや軟質、摩滅顕著、口縁端部面取り
55	鋳物師屋遺跡	21住	9c前		白・黒色粒子、雲母、小礫	内外面共鈍い黄橙色	内外面縦位・斜位ナデ	B類	口縁破片	2	やや軟質、外面一部灰色化
56	鋳物師屋遺跡	21住	9c前		白・黒色粒子、雲母(比較的精選されている)	内外面共鈍い橙色	内面斜位ナデ、外面横位ナデ	B類	口縁破片	3	硬質化するが摩滅顕著
57	鋳物師屋遺跡	21住	9c前		白・黒色粒子、雲母、小礫	内外面共鈍い黄橙色	内面横位ナデ、外面縦位ナデ	E類-2	口縁破片	3	硬質化し摩滅やや顕著、口縁端部面取り
58	鋳物師屋遺跡	21住	9c前		白・黒色粒子、雲母、小礫	内外面共鈍い黄橙色	内面斜位ナデ、外面縦位ナデ	E類-2	口縁破片	7	外面凹凸顕著、内面滑らか、口縁端部面取り
59	鋳物師屋遺跡	21住	9c前		白・黒色粒子、雲母(比較的精選されている)	内外面共鈍い黄橙色	内外面斜位ナデ、内面横位ナデ	B類	口縁破片	7	やや軟質、摩滅やや顕著
60	鋳物師屋遺跡	21住	9c前		赤・白・黒色粒子、雲母、小礫	内外面共鈍い黄橙色	内外面斜位ナデ	E類-2	口縁破片	4	やや硬質、外面ちりめん状、口縁端部面取り
61	鋳物師屋遺跡	21住	9c前		白・黒色粒子、雲母、小礫	内外面共鈍い褐色	内外面斜位ナデ	E類-2	口縁破片	3	硬質化、外面灰褐色化、口縁端部面取り
62	鋳物師屋遺跡	21住	9c前		白色粒子、雲母、小礫	内外面共鈍い黄橙色	内面横位・縦位ナデ、外面斜位ナデ	E類-2	口縁破片	5	やや硬質、内外面の摩滅やや顕著、口縁端部面取り
63	鋳物師屋遺跡	21住	9c前		白・黒色粒子、雲母、小礫(比較的精選されている)	内外面共鈍い褐色	内面横位・縦位ナデ、外面横位ナデ	E類-2	口縁破片	5	硬質、内外面の摩滅やや顕著、口縁端部面取り
64	鋳物師屋遺跡	21住	9c前		白・黒色粒子、雲母、小礫	内外面共鈍い黄橙色	内面斜位・横位ナデ、外面横位ナデ	C類-1	口縁破片	3	やや硬質、外面摩滅やや顕著
65	鋳物師屋遺跡	21住	9c前		白・黒色粒子、小礫(比較的精選されている)	内外面共鈍い黄橙色	内外面横位・斜位ナデ	E類-1	口縁破片	2	やや軟質、内外面共摩滅やや顕著
66	鋳物師屋遺跡	21住	9c前		白・黒色粒子、雲母、小礫(比較的精選されている)	内外面共浅黄色	内面縦位・斜位ナデ、外面縦位・横位・斜位ナデ	E類-1	口縁破片	8	硬質、内外面灰色化
67	鋳物師屋遺跡	21住	9c前		白・黒色粒子、雲母、小礫	内外面共鈍い黄橙色	内面斜位・横位ナデ、外面斜位・縦位ナデ	E類-1	口縁破片	12	やや硬質、内外面の摩滅やや顕著
68	鋳物師屋遺跡	21住	9c前		白・黒色粒子、雲母、小礫(比較的精選されている)	内外面共鈍い黄橙色	内外面横位・斜位ナデ	C類-1	口縁破片	6	やや軟質、やや摩滅顕著
69	鋳物師屋遺跡	21住	9c前		白・黒色粒子、雲母、小礫(比較的精選されている)	内外面共鈍い黄橙色	内外面斜位ナデ	E類-2	口縁破片	2	やや軟質、口縁端部面取り
70	鋳物師屋遺跡	21住	9c前		白・赤・黒色粒子、雲母、小礫(比較的精選されている)	内外面共鈍い黄橙色	内外面斜位ナデ	C類-1	口縁破片	3	やや軟質
71	鋳物師屋遺跡	21住	9c前		白・黒色粒子、雲母、小礫	内外面共鈍い黄橙色	内外面斜位ナデ	B類	口縁破片	4	やや軟質、摩滅やや顕著
72	鋳物師屋遺跡	21住	9c前		白・黒色粒子、小礫、粗い	内外面共鈍い黄橙色	内面斜位ナデ、外面　縦位・斜位ナデ	E類-2	口縁破片	6	やや硬質、口縁端部面取り
73	鋳物師屋遺跡	21住	9c前		白・黒色粒子、雲母、小礫	内外面共鈍い黄橙色	内外面横位・斜位ナデ	E類-2	口縁破片	3	やや硬質、摩滅顕著、口縁端部面取り
74	鋳物師屋遺跡	21住	9c前		白・赤・黒色粒子、雲母、小礫	内外面共鈍い黄橙色	内面横位・斜位ハケメ状ナデ、外面横位・斜位ナデ	C類-1	口縁破片	6	やや硬質、摩滅やや顕著
75	鋳物師屋遺跡	21住	9c前		白・黒色粒子、雲母、小礫	内外面共鈍い黄橙色	内面横位・縦位ナデ、外面縦位・斜位ナデ	D類-1	口縁破片	15	やや硬質、中厚手、内面丁寧なナデ
76	鋳物師屋遺跡	21住	9c前		白・黒色粒子、雲母、小礫	内外面共鈍い黄橙色	内面縦位・斜位・横位ナデ、外面横位・縦位ナデ	D類-1	口縁破片	12	やや硬質、内面丁寧なナデ
77	鋳物師屋遺跡	21住	9c前		赤・白・黒色粒子、小礫	内外面共鈍い黄橙色	内面横位ナデ、外面縦位・斜位ナデ	B類	口縁破片	18	やや軟質、内面のナデ雑
78	鋳物師屋遺跡	21住	9c前		赤・白・黒色粒子、雲母、小礫、粗い	内外面共鈍い黄橙色	内面斜位ナデ、外面縦位・斜位ナデ	A類	口縁破片	11	やや硬質、厚手
79	鋳物師屋遺跡	21住	9c前	5514	黒色粒子、小礫やや多、断面サンドイッチ構造	内外面共鈍い黄橙色	内外面斜位ナデ		胴部破片	9	
80	鋳物師屋遺跡	21住	9c前		白・黒色粒子、雲母(比較的精選されている)	内外面共鈍い黄橙色	内面斜位・横位ナデ、外面斜位ナデ		胴部破片	6	やや硬質化、中厚手
81	鋳物師屋遺跡	21住	9c前		白・黒色粒子、雲母、小礫	内面　灰黄色？ 外面　鈍い黄橙色	内面斜位ナデ部分的にハケメ状、外面斜位ナデ		胴部破片	10	被熱のため硬質化、内面滑らか

掲載番号	遺跡名	出土遺構	時期	注記内容	胎土	色調	調整	形態分類	残存部	重量グラム	備考
82	鋳物師屋遺跡	21住	9c前		赤・白・黒色粒子、雲母(比較的精選されている)	内外面共鈍い黄橙色	内面斜位ハケメ状ナデ、外面横位・斜位ナデ		胴部破片	5	
83	鋳物師屋遺跡	21住	9c前		白・赤・黒色粒子、雲母、小礫	内外面共鈍い褐色	内面斜位ナデ、外面横位・斜位ナデ		胴部破片	7	硬質、内面剥離
84	鋳物師屋遺跡	21住	9c前		白・黒色粒子、小礫(比較的精選されている)	内外面共鈍い黄橙色	内面縦位・斜位ナデ、外面縦位ナデ		胴部破片	7	やや硬質
85	鋳物師屋遺跡	21住	9c前		白・黒色粒子、雲母、小礫	内外面共鈍い黄橙色	内外面斜位ナデ		胴部破片	10	やや硬質、外面散在的に灰褐色化
86	鋳物師屋遺跡	21住	9c前	5855	赤・白・黒色粒子、雲母、小礫	内外面共鈍い黄橙色	内面斜位ナデ、外面　縦位・斜位ナデ		胴部破片	6	やや硬質
87	鋳物師屋遺跡	21住	9c前	3535	白・黒色粒子、雲母、小礫(比較的精選されている)	内外面共鈍い黄橙色	内外面横位・斜位ナデ		胴部破片	11	やや硬質、内面丁寧なナデ
88	鋳物師屋遺跡	21住	9c前		白・黒色粒子、雲母、小礫	内外面共鈍い黄橙色	内面横位・斜位ハケメ状ナデ、外面縦位・横位・斜位ナデ		胴部破片	4	やや硬質、摩滅やや顕著
89	鋳物師屋遺跡	22住	9後		赤・白・黒色粒子、雲母	内外面共鈍い黄橙色	内外面斜位ナデ		胴部破片	3	軟質、摩滅やや顕著
90	鋳物師屋遺跡	22住	9後		白・黒色粒子、雲母	内外面共鈍い黄橙色	内外面斜位ナデ		胴部破片	3	軟質、摩滅やや顕著
91	鋳物師屋遺跡	26住	9c前		白・黒色粒子、小礫	内外面共鈍い黄橙色	内外面斜位ナデ	B類	口縁部破片	3	軟質、摩滅顕著
92	鋳物師屋遺跡	26住	9c前		白・黒色粒子、小礫	内外面共鈍い黄橙色	内外面斜位ナデ	B類	口縁部破片	2	軟質、摩滅顕著、外面灰色化顕著
93	鋳物師屋遺跡	28住	9後		白・黒色粒子、雲母、小礫	内外面共鈍い黄橙色	内外面斜位・縦位ナデ		胴部破片	9	やや硬質
94	鋳物師屋遺跡	28住	9後		白・黒色粒子、小礫	内外面共鈍い黄橙色	内外面斜位・縦位ナデ		胴部破片	11	やや軟質、摩滅顕著
95	鋳物師屋遺跡	32住	10c前		白・黒色粒子、小礫	内外面共鈍い黄橙色	内外面斜位ナデ	E類-1	口縁部破片	2	軟質、摩滅顕著、内面灰褐色化顕著
96	鋳物師屋遺跡	35住	8c前		白・黒色粒子	内外面共鈍い黄橙色	内外面斜位ナデ、内面は丁寧	E類-1	口縁部破片	8	やや硬質感あり、外面灰褐色化顕著、部分的にピンク状を呈す
97	鋳物師屋遺跡	36住	10c前	カマド P13	白・黒色粒子、小礫(比較的精選されている)	内外面共鈍い黄橙色	内面斜位・横位ナデ、外面　縦位・斜位ナデ	F類	口縁部破片	7	やや軟質、口縁端部外反
98	鋳物師屋遺跡	36住	10c前		白・黒色粒子、小礫	内外面共鈍い黄橙色	内外面斜位ナデ		胴部破片	6	やや硬質、中厚手、内面滑らか
99	鋳物師屋遺跡	45住	9c前		白・黒色粒子、雲母、小礫	内外面共鈍い橙色	内外面斜位ナデ	C類-1	口縁部破片	3	やや軟質、摩滅やや顕著
100	鋳物師屋遺跡	45住	9c前		白・黒色粒子、雲母、小礫	内面　鈍い褐色 外面　鈍い橙色	内面横位・斜位ハケメ状ナデ、外面縦位・斜位ナデ	C類-1	口縁部破片	10	硬質、内面弱く摩滅、薄ピンク状に変色顕著
101	鋳物師屋遺跡	45住	9c前		白・黒色粒子、小礫	内外面共鈍い黄橙色	内面横位ハケメ状ナデ、外面斜位ナデ	C類-2	口縁部破片	3	やや軟質、口縁端部面取り
102	鋳物師屋遺跡	45住	9c前	C	白・赤・黒色粒子、小礫、雲母	内外面共鈍い黄橙色	内外面横位・斜位ナデ	D類-1	口縁部破片	3	やや軟質、内外面斜位のナデ、外面器面一部剥落
103	鋳物師屋遺跡	45住	9c前	C	白・黒色粒子、小礫	内外面共鈍い黄橙色	内面斜位ハケメ状ナデ、外面斜位ナデ	D類-1	口縁部破片	5	内面一部剥離
104	鋳物師屋遺跡	45住	9c前	C	白・黒色粒子、小礫	内外面共鈍い黄橙色	内面横位・縦位ナデ、外面縦位・横位ナデ	F類	口縁部破片	4	やや軟質、口縁端部外反、内面幅広の横ナデ
105	鋳物師屋遺跡	51住	9c前?		白・赤・黒色粒子、雲母、小礫	内外面共鈍い黄橙色	内外面横位・縦位・斜位ナデ		胴部破片	4	やや軟質、内外面共摩滅やや顕著
106	鋳物師屋遺跡	52住	10c前		赤・白・黒色粒子、雲母、小礫(比較的精選されている)	内外面共鈍い黄橙色	内面横位ハケメ状ナデ・斜位ナデ、外面斜位・横位・縦位ナデ	D類-1	口縁破片	5	やや硬質、摩滅やや顕著
107	鋳物師屋遺跡	62住	?		赤・白・黒色粒子、小礫(比較的精選されている)	内外面共鈍い黄橙色	内面横位・斜位ナデ、外面斜位・縦位ナデ	B類	口縁破片	2	やや軟質
108	鋳物師屋遺跡	62住	?		白・黒色粒子、雲母、小礫	内外面共鈍い黄橙色	内面横位・斜位ナデ、外面横位・縦位ナデ	B類	口縁破片	1	やや硬質、内面わずかに灰色化
109	鋳物師屋遺跡	77住	9c前		赤・白・黒色粒子、小礫	内面　鈍い橙色 外面　鈍い黄橙色	内面縦位・斜位・横位ナデ、外面斜位・横位ナデ	D類-1	口縁破片	3	やや軟質、外面灰色化
110	鋳物師屋遺跡	77住	9c前		赤・白・黒色粒子、小礫	内外面共鈍い黄橙色	内面縦位・斜位ナデ、外面斜位ナデ	B類	口縁破片	3	やや硬質、摩滅やや顕著
111	鋳物師屋遺跡	77住	9c前		白・赤・黒色粒子	内外面共鈍い黄橙色	内外面縦位・斜位ナデ	E類-1	口縁破片	3	軟質、摩滅やや顕著
112	鋳物師屋遺跡	77住	9c前		白・赤・黒色粒子、小礫	内外面共鈍い黄橙色	内外面横位・斜位ナデ	E類-2	口縁破片	9	やや硬質、内面薄く灰色化、口縁端部面取り
113	鋳物師屋遺跡	77住	9c前	16564	赤・白・黒色粒子、雲母、小礫、胎土やや粗い	内外面共鈍い黄橙色	内面横位・斜位ナデ、外面斜位ナデ		胴部破片	22	やや硬質、外面一部剥離
114	鋳物師屋遺跡	77住	9c前	16006	白・黒色粒子、雲母、小礫	内外面共鈍い黄橙色	内面横位・斜位ナデ、外面斜位ナデ		胴部破片	7	やや硬質
115	鋳物師屋遺跡	77住	9c前	16565	白・赤・黒色粒子、雲母、小礫、胎土粗い	内外面共鈍い黄橙色	内外面斜位ナデ		胴部破片	6	硬質
116	鋳物師屋遺跡	77住	9c前		赤・白・黒色粒子、雲母、小礫	内外面共鈍い黄橙色	内面斜位ナデ、外面横位・縦位・斜位ナデ		胴部破片	6	やや軟質、摩滅やや顕著
117	鋳物師屋遺跡	77住	9c前		白・赤・黒色粒子、雲母、小礫	内外面共鈍い黄橙色	内外面斜位・縦位ナデ		胴部破片	7.5	やや硬質、摩滅やや顕著
118	鋳物師屋遺跡	79住	8c後		白・黒色粒子、雲母、砂礫、小礫	内外面共鈍い黄橙色	内外面縦位・斜位ナデ	E類-1	口縁破片	6	軟質、摩滅顕著、内面薄ピンク化、内面器面剥離
119	鋳物師屋遺跡	87住	9c前		白・黒色粒子、雲母、小礫	内外面共鈍い黄橙色	内外面横位・斜位ナデ	B類	口縁破片	5	硬質
120	鋳物師屋遺跡	96住	9c前	カマド P13	赤・白・黒色粒子、雲母、小礫	内外面共鈍い黄橙色	内外面横位・斜位ナデ		胴部破片	14	硬質、内面の荒れやや顕著
121	鋳物師屋遺跡	98住	9c前		白・黒色粒子、雲母、小礫	内外面共鈍い黄橙色	内外面斜位ナデ	E類-1	口縁破片	3	やや軟質、薄手、内面薄く灰色化、摩滅やや顕著
122	鋳物師屋遺跡	98住	9c前		赤・白・黒色粒子、雲母、小礫	内外面共鈍い黄橙色	内面横位・斜位ナデ、外面縦位・斜位ナデ		胴部破片	8	やや軟質、摩滅やや顕著

掲載番号	遺跡名	出土遺構	時期	注記内容	胎土	色調	調整	形態分類	残存部	重量グラム	備考
123	鋳物師屋遺跡	98住	9c前		白・赤・黒色粒子、雲母、小礫	内外面共鈍い黄橙色	内外面斜位ナデ		胴部破片	5	やや軟質、摩滅やや顕著
124	鋳物師屋遺跡	102住	8c後		白・黒色粒子、雲母、小礫	内外面共鈍い黄橙色	内面横位・斜位ナデ、外面横位・縦位・斜位ナデ		胴部破片	5	やや軟質、内面摩滅やや顕著
125	鋳物師屋遺跡	102住	8c後		赤・白・黒色粒子、小礫	内外面共鈍い黄橙色	内外面縦位・斜位ナデ		胴部破片	4	やや軟質、内外面共摩滅やや顕著
126	鋳物師屋遺跡	103住	9c後		白・黒色粒子、小礫(比較的精選されている)	内外面共灰色	内面横位ハケメ状ナデ、外面縦位・斜位ナデ	E類-1	口縁破片	7	硬質、薄手
127	鋳物師屋遺跡	103住	9c後		赤・白・黒色粒子、雲母(多)、小礫	内外面共鈍い黄橙色	内面横位・縦位ナデ、外面斜位ナデ	D類-2	口縁破片	16	硬質、外面薄ピンク化および灰色化、口縁端部面取り
128	鋳物師屋遺跡	103住	9c後		白・黒色粒子、小礫	内外面共灰色	内面横位・斜位ナデ、外面縦位・斜位ナデ		胴部破片	9	やや硬質、内面一部薄ピンク化
129	鋳物師屋遺跡	103住	9c後		白・黒色粒子、雲母、小礫	内外面共灰色	内面縦位・斜位ナデ、外面縦位・横位・斜位ナデ		胴部破片	5	硬質
130	鋳物師屋遺跡	103住	9c後		白・黒色粒子、雲母、小礫、粗い	内面　褐灰色 外面　鈍い黄橙色	内面斜位ナデ、外面横位・斜位ナデ		胴部破片	7	硬質、中厚手、内面薄く黒色化
131	鋳物師屋遺跡	104住	8c末		赤・白・黒色粒子、雲母、小礫(比較的精選されている)	内外面共鈍い黄橙色	内面横位・斜位ナデ、外面斜位・縦位ナデ	E類-1	口縁破片	6	やや硬質、外面一部灰色化
132	鋳物師屋遺跡	104住	8c末		赤・白・黒色粒子、雲母、小礫(比較的精選されている)	内外面共鈍い黄橙色	内外面横位・縦位ナデ	C類-1	口縁破片	10	やや硬質、摩滅やや顕著
133	鋳物師屋遺跡	104住	8c末	カマド25863	白・黒色粒子、雲母、小礫	内面　鈍い褐色 外面　灰色	内面斜位ハケメ状ナデ、外面斜位ナデ	D類-1	口縁破片	23	硬質、外面灰色化、推定口径10.6cm
134	鋳物師屋遺跡	104住	8c末		白・黒色粒子、雲母、小礫	内外面共鈍い黄橙色	内面横位・斜位ナデ、外面斜位ナデ		胴部破片	5	やや硬質、摩滅やや顕著
135	鋳物師屋遺跡	105住	9c前		赤・白・黒色粒子、雲母、小礫(多)	内外面共鈍い黄橙色	内面縦位・斜位ナデ、外面斜位ナデ	B類	口縁破片	12	やや硬質、内面の荒れ顕著
136	鋳物師屋遺跡	105住	9c前		白・赤・黒色粒子、雲母、小礫	内外面共鈍い黄橙色	内面斜位・横位ナデ、外面縦位・斜位ナデ	E類-1	口縁破片	3	やや硬質、内面のナデハケメ状
137	鋳物師屋遺跡	105住	9c前		赤・白・黒色粒子、雲母、小礫	内外面共鈍い黄橙色	内外面斜位ナデ	C類-1	口縁破片	1	やや軟質
138	鋳物師屋遺跡	105住	9c前		赤・白・黒色粒子、雲母、小礫	内面　鈍い褐色 外面　鈍い黄橙色	内外面縦位・斜位ナデ	E類-2	口縁破片	6	やや軟質、摩滅やや顕著、口縁端部部分的面取り
139	鋳物師屋遺跡	105住	9c前		白・赤・黒色粒子、雲母、小礫	内外面共鈍い黄橙色	内外面縦位ナデ	E類-2	口縁破片	4	やや軟質、摩滅顕著、口縁端部面取り
140	鋳物師屋遺跡	105住	9c前		白・赤・黒色粒子、雲母、小礫	内外面共鈍い黄橙色	内面斜位ナデ、外面縦位・横位ナデ	C類-1	口縁破片	9	やや硬質、摩滅やや顕著
141	鋳物師屋遺跡	105住	9c前		赤・白・黒色粒子、雲母、小礫	内外面共鈍い橙色	内面横位ナデ、外面縦位・斜位ナデ	C類-1	口縁破片	8	やや硬質、内外面赤褐色化、内面に布目痕あり
142	鋳物師屋遺跡	105住	9c前		白色粒子、小礫	内外面共鈍い褐色	内外面横位・斜位ハケメ状ナデ	E類-1	口縁破片	6	硬質、内面灰色化
143	鋳物師屋遺跡	108住	8c末		白・赤・黒色粒子、雲母、小礫、粗	内外面共鈍い黄橙色	内面縦位・斜位ナデ、外面斜位ナデ	D類-2	口縁破片	8	硬質、摩滅顕著、口縁端部部分的面取り
144	鋳物師屋遺跡	108住	8c末		白・赤・黒色粒子、雲母、小礫(比較的精選されている)	内外面共鈍い黄橙色	内面横位・斜位ナデ、外面縦位・斜位ナデ	C類-2	口縁破片	6	やや硬質、口縁端部部分的面取り
145	鋳物師屋遺跡	108住	8c末		赤・白・黒色粒子、雲母、小礫	内外面共鈍い黄橙色	内外面斜位ナデ	C類-2	口縁破片	5	やや硬質、摩滅やや顕著、口縁端部部分的面取り
146	鋳物師屋遺跡	108住	8c末	5905	白・黒色粒子、雲母、小礫	内外面共鈍い黄橙色	内面横位・斜位ハケメ状ナデ、外面縦位・斜位ナデ	B類	口縁破片	8	硬質、内面灰色化(外面も部分的に灰色化)
147	鋳物師屋遺跡	108住	8c末	25905	白・黒色粒子、雲母、小礫	内外面共鈍い黄橙色～灰色	内面縦位・横位ハケメ状ナデ、外面縦位ナデ		胴部破片	8	硬質、摩滅やや顕著
148	鋳物師屋遺跡	108住	8c末		白・黒色粒子、雲母、小礫	内外面共鈍い黄橙色	内面斜位・横位ハケメ状ナデ、外面斜位ナデ		胴部破片	5	やや硬質、内面灰色化
149	鋳物師屋遺跡	110住	9c前		白・黒色粒子、雲母、小礫	内面　鈍い橙色 外面　鈍い黄橙色	内面横位・斜位ハケメ状ナデ、外面斜位ナデ	C類-2	口縁破片	4	やや軟質、口縁端部面取り
150	鋳物師屋遺跡	110住	9c前		白・黒色粒子、雲母、小礫	内面　鈍い橙色 外面　鈍い黄橙色	内外面横位・縦位ナデ	C類-1	口縁破片	3	やや軟質
151	鋳物師屋遺跡	111住	9c前		赤・白色粒子、雲母、小礫(比較的精選されている)	内外面共鈍い黄橙色	内外面横位・斜位ナデ	B類	口縁破片	2	やや硬質、摩滅やや顕著
152	鋳物師屋遺跡	111住	9c前		黒・白色粒子、雲母、小礫	内外面共鈍い黄褐色	内外面横位・斜位ナデ	E類-1	口縁破片	8	やや硬質、外面赤色化
153	鋳物師屋遺跡	111住	9c前		赤・白・黒色粒子、雲母、小礫	内外面共鈍い黄橙色	内面斜位ナデ、外面横位・斜位ナデ	C類-1	口縁破片	3	やや硬質、摩滅やや顕著
154	鋳物師屋遺跡	111住	9c前	21	赤・白・黒色粒子、雲母、小礫	内外面共鈍い黄橙色	内外面斜位ナデ	B類	口縁破片	7	やや硬質
155	鋳物師屋遺跡	111住	9c前		白色粒子、雲母、小礫(比較的精選されている)	内外面共鈍い黄橙色	内面横位ナデ、外面横位・縦位ナデ	B類	口縁破片	1	やや軟質
156	鋳物師屋遺跡	111住	9c前		黒・白色粒子、雲母	内外面共鈍い黄橙色	内外面斜位ナデ	B類	口縁破片	3	硬質、内外面の荒れやや顕著
157	鋳物師屋遺跡	111住	9c前	25953	赤・白・黒色粒子、雲母、小礫	内外面共鈍い黄橙色	内面縦位・斜位ナデ、外面縦位・斜位・横位ナデ	B類	口縁破片	16	やや硬質、内面の仕上げ丁寧、推定口径9.7cm
158	鋳物師屋遺跡	111住	9c前		白・黒色粒子、雲母、小礫	内外面共鈍い黄橙色	内面横位ナデ、外面縦位・斜位ナデ	B類	口縁破片	8	やや硬質、内面部分的に剥離
159	鋳物師屋遺跡	111住	9c前	26106	白・赤・黒色粒子、雲母、小礫(比較的精選されている)	内外面共鈍い黄橙色	内面斜位ナデ、外面縦位・横位・斜位ナデ	C類-2	口縁破片	13	硬質、やや強く被熱し器面やや荒れ顕著、口縁端部面取り
160	鋳物師屋遺跡	111住	9c前		赤・白・黒色粒子、雲母、小礫	内外面共鈍い黄橙色	内面斜位ナデ、外面横位・斜位ナデ	B類	口縁破片	3	やや硬質
161	鋳物師屋遺跡	111住	9c前		赤・白・黒色粒子、雲母、小礫	内外面共鈍い黄橙色	内面斜位ナデ、外面横位・斜位ナデ	C類-1	口縁破片	2	やや軟質、摩滅やや顕著
162	鋳物師屋遺跡	111住	9c前		黒・赤・白色粒子、小礫(比較的精選されている)	内外面共鈍い黄橙色	内外面斜位ナデ	B類	口縁破片	1	やや軟質
163	鋳物師屋遺跡	111住	9c前		黒・白色粒子、雲母、小礫	内外面共鈍い黄橙色	内外面斜位・横位ナデ	B類	口縁破片	5	やや硬質

掲載番号	遺跡名	出土遺構	時期	注記内容	胎土	色調	調整	形態分類	残存部	重量グラム	備考
164	鋳物師屋遺跡	111住	9c前		黒・白色粒子、雲母、小礫	内外面共鈍い黄橙色	内外面横位・縦位・斜位ナデ	C類-1	口縁破片	6	やや軟質
165	鋳物師屋遺跡	111住	9c前		白色粒子、雲母、小礫(比較的精選されている)	内外面共鈍い黄橙色	内面横位・斜位ナデ、外面斜位・縦位ナデ	B類	口縁破片	3	やや軟質、摩滅やや顕著
166	鋳物師屋遺跡	111住	9c前		白・黒色粒子、雲母、小礫	内外面共鈍い黄橙色	内面横位・斜位ナデ、外面縦位ナデ	B類	口縁破片	2	やや硬質、摩滅やや顕著
167	鋳物師屋遺跡	111住	9c前		白・黒色粒子、雲母(比較的精選されている)	内外面共鈍い黄橙色	内面斜位ナデ、外面横位ナデ	B類	口縁破片	1	やや軟質、薄手
168	鋳物師屋遺跡	111住	9c前		黒・白色粒子、雲母、小礫	内外面共鈍い黄橙色	内面斜位ナデ、外面縦位ナデ	C類-2	口縁破片	2	やや硬質、内外面部分的剥落、口縁端部面取り
169	鋳物師屋遺跡	111住	9c前		赤・白・黒色粒子、雲母、小礫	内外面共鈍い黄橙色	内外面斜位ナデ	E類-2	口縁破片	1	やや軟質、口縁端部面取り
170	鋳物師屋遺跡	111住	9c前	カマドP2	赤・白・黒色粒子、雲母、小礫、胎土粗い	内外面共鈍い黄橙色	内外面斜位ナデ	B類	口縁破片	8	やや硬質、強く被熱
171	鋳物師屋遺跡	111住	9c前		白・黒色粒子、雲母、小礫	内外面共鈍い黄橙色	内面横位・斜位ナデ、外面斜位ナデ	B類	口縁破片	6	やや硬質
172	鋳物師屋遺跡	111住	9c前	カマド	白・赤・黒色粒子、雲母、小礫	内外面共鈍い黄橙色	内外面横位・斜位ナデ	C類-1	口縁破片	9	やや軟質、内面部分的に剥離
173	鋳物師屋遺跡	111住	9c前	カマド	赤・白・黒色粒子、雲母(精選されている)	内外面共鈍い黄橙色	内面斜位細いハケメ状ナデ、外面斜位ナデ	A類	口縁破片	5	やや軟質、外面摩滅やや顕著、内面細いハケメ
174	鋳物師屋遺跡	111住	9c前		白・赤・黒色粒子、砂礫	内外面共鈍い黄橙色	内面縦位・斜位ナデ、外面斜位ナデ	E類-2	口縁破片	5	やや硬質、中厚手、外面薄く赤褐色化、口縁端部面取り
175	鋳物師屋遺跡	111住	9c前	カマド	赤・白色粒子、小礫	内外面共鈍い黄橙色	内面横位・斜位ナデ、外面斜位・縦位ナデ	B類	口縁破片	3	やや軟質、内面細かく剥離、摩滅顕著
176	鋳物師屋遺跡	111住	9c前	カマド 26115	赤・白・黒色粒子、雲母、小礫	内外面共鈍い黄橙色	内面横位ナデ、外面横位・斜位ナデ	B類	口縁破片	28	推定口径11.0cm、やや硬質、外面摩滅やや顕著
177	鋳物師屋遺跡	111住	9c前	カマド	赤・白・黒色粒子、雲母、小礫	内外面共鈍い黄橙色	内面横位・斜位ナデ、外面縦位・斜位ナデ	B類	口縁破片	3	やや硬質、内外面摩滅やや顕著
178	鋳物師屋遺跡	111住	9c前	カマド	白・黒色粒子、雲母、小礫(比較的精選されている)	内外面共鈍い黄橙色	内面斜位ナデ、外面横位・斜位ナデ	B類	口縁破片	2	やや軟質、外面摩滅やや顕著
179	鋳物師屋遺跡	111住	9c前	カマド	白・赤・黒色粒子、雲母、小礫	内外面共鈍い黄橙色	内面斜位細いハケメ、外面斜位・横位細いハケメ	B類	口縁破片	7	やや硬質、内外面の摩滅顕著、細いハケメ
180	鋳物師屋遺跡	111住	9c前	カマド	白・黒色粒子、雲母、小礫	内外面共鈍い黄褐色	内外面横位・斜位・縦位ナデ	E類-1	口縁破片	11	やや硬質、内外面共器面剥離顕著
181	鋳物師屋遺跡	111住	9c前	カマド	白・赤・黒色粒子、雲母、小礫	内外面共鈍い黄橙色	内面縦位・斜位ナデ、外面横位・斜位ナデ	C類-1	口縁破片	4	やや軟質、内面器面剥離顕著
182	鋳物師屋遺跡	111住	9c前		白・黒色粒子、雲母、小礫	内外面共鈍い黄橙色	外面斜位ナデ		口縁破片	5	やや軟質、内面全面器面剥離
183	鋳物師屋遺跡	111住	9c前		赤・白・黒色粒子、雲母、小礫、胎土粗い	内外面共鈍い黄橙色	内面横位・斜位ナデ、外面斜位ナデ		胴部破片	8	やや硬質、外面の器面やや荒れる
184	鋳物師屋遺跡	111住	9c前		白・赤・黒色粒子、雲母、小礫、胎土やや粗い	内外面共鈍い黄橙色	内外面縦位・斜位ナデ		胴部破片	20	やや軟質
185	鋳物師屋遺跡	123住	9c後		白・黒色粒子、小礫	内外面共鈍い黄橙色	内外面斜位・縦位ナデ	D類-1	口縁部破片	9	やや軟質
186	鋳物師屋遺跡	123住	9c後		白・黒色粒子、小礫	内外面共鈍い橙色	内外面斜位ナデ	E類-1	口縁部破片	3	やや硬質、摩滅顕著
187	鋳物師屋遺跡	123住	9c後		白・黒色粒子、小礫	内外面共鈍い黄橙色	内外面斜位ナデ、内面丁寧	B類	口縁部破片	3	硬質
188	鋳物師屋遺跡	123住	9c後		白・黒色粒子、小礫	内外面共鈍い橙色	内外面斜位ナデ	E類-1	口縁部破片	3	やや硬質、摩滅やや顕著、内面に線刻
189	鋳物師屋遺跡	123住	9c後		白・黒色粒子、赤色粒子少、(比較的精選されている)	内外面共鈍い黄橙色	内面横位ハケメ状ナデ、外面斜位ナデ	B類	口縁部破片	4	やや軟質
190	鋳物師屋遺跡	123住	9c後		白・黒色粒子、雲母、小礫	内外面共鈍い黄橙色	内外面斜位ナデ	B類	口縁部破片	4	やや軟質、摩滅やや顕著、内面剥落顕著
191	鋳物師屋遺跡	123住	9c後	26458	白・黒色粒子、小礫、雲母	内外面共鈍い黄橙色	内面縦位・斜位ナデ、外面横位・斜位ナデ		胴部破片	12	やや軟質
192	鋳物師屋遺跡	123住	9c後		白・黒色粒子、小礫多	内外面共鈍い黄橙色	内面横位・斜位ナデ、外面斜位ナデ		胴部破片	12	外面の荒れ顕著
193	鋳物師屋遺跡	123住	9c後		白・黒色粒子	内外面共鈍い橙色	内外面横位・斜位ナデ		胴部破片	8	やや軟質、内外面薄ピンクを呈す、外面荒れ顕著
194	鋳物師屋遺跡	126住	8c末	26952	赤・白・黒色粒子、雲母、小礫	内外面共鈍い黄橙色	内面丁寧な斜位・縦位ナデ 外面　横位・斜位・縦位ナデ	A類	口縁破片	13	やや硬質
195	鋳物師屋遺跡	126住	8c末	26590	白・黒色粒子、雲母、小礫	内外面共鈍い黄橙色	内面横位・斜位ナデ、外面斜位・縦位ナデ	A類	口縁破片	33	やや軟質、摩滅やや顕著、内面薄く灰色化
196	鋳物師屋遺跡	126住	8c末		白・黒色粒子、雲母、小礫	内外面共鈍い黄橙色	内面横位・斜位ナデ、外面斜位ナデ	B類	口縁破片	18	やや硬質、薄手、内外面の器面の剥離やや顕著
197	鋳物師屋遺跡	132住	9c前		白・赤・黒色粒子、雲母、小礫	内外面共鈍い黄橙色	内外面横位・斜位ナデ	C類-1	口縁部破片	6	やや軟質、外面弱く摩滅
198	鋳物師屋遺跡	132住	9c前		白・黒色粒子、小礫(比較的精選されている)	内外面共鈍い黄橙色	内外面斜位ナデ	B類	口縁部破片	7	やや硬質
199	鋳物師屋遺跡	132住	9c前		白・黒色粒子、小礫多	内外面共鈍い黄橙色	内外面斜位ナデ	C類-1	口縁部破片	6	軟質、礫抜け多い
200	鋳物師屋遺跡	132住	9c前		白・黒色粒子、小礫	内外面共鈍い黄橙色	内外面斜位ナデ	B類	口縁部破片	7	軟質、礫抜け多い、内外面摩滅やや顕著
201	鋳物師屋遺跡	132住	9c前		白・黒色粒子、雲母、小礫	内外面共鈍い黄橙色	内外面斜位ナデ	B類	口縁部破片	6	軟質、外面の荒れやや顕著
202	鋳物師屋遺跡	132住	9c前		白・赤・黒色粒子、小礫	内外面共鈍い橙色	内面横位・斜位ナデ、外面斜位ナデ	E類-1	口縁部破片	5	
203	鋳物師屋遺跡	132住	9c前		白・黒色粒子、砂礫多	内外面共鈍い黄橙色	内面横位・斜位ナデ、外面縦位・斜位ナデ	B類	口縁部破片	6	内外面の荒れ顕著、被熱痕跡強
204	鋳物師屋遺跡	132住	9c前		白・黒色粒子、砂礫多	内外面共鈍い黄橙色	内外面斜位ナデ	E類-1	口縁部破片	2	内外面の荒れ顕著、被熱痕跡強

掲載番号	遺跡名	出土遺構	時期	注記内容	胎土	色調	調整	形態分類	残存部	重量グラム	備考
205	鋳物師屋遺跡	132住	9c前	カマド	白色粒子、雲母、小礫	内面　鈍い褐色 外面　鈍い黄橙色	内外面斜位ナデ	E類-2	口縁部破片	4	被熱痕跡強、硬質、口縁端部面取り
206	鋳物師屋遺跡	132住	9c前		白・黒色粒子、小礫多	内外面共鈍い橙色	内外面斜位ナデ		胴部破片	9	硬質、内外面器面の荒れ顕著
207	鋳物師屋遺跡	132住	9c前		黒色粒子、小礫	内面　浅黄橙色 外面　鈍い橙色	内面縦位・斜位ナデ、外面横位・斜位ナデ		胴部破片	7	やや軟質、外面薄ピンク化、内面灰褐色化顕著
208	鋳物師屋遺跡	132住	9c前		白・黒色粒子、小礫	内面　鈍い黄橙色 外面　鈍い橙色	内外面斜位ナデ		胴部破片	7	やや軟質
1	〆木遺跡	11住	9c前		白色・黒色粒子、雲母、小礫	鈍い黄褐色	内面横位ハケメ状ナデ・斜位ナデ、外面斜位ナデ		胴部破片	6	やや硬質、摩滅顕著
2	〆木遺跡	19住A	8c末		白色・黒色粒子、雲母、小礫	鈍い黄橙色	内面縦位・斜位ナデ、外面斜位ナデ		胴部破片	2	やや軟質、摩滅やや顕著
3	〆木遺跡	20住	9c後	セクションベルト	白色・赤色・黒色粒子、雲母、小礫	鈍い黄橙色	内面横位ハケメ状ナデ、外面縦位・斜位ナデ	C類-1	口縁部破片	11	推定口径13.0cm、やや硬質、摩滅やや顕著、口縁端部部分的に面取り
4	〆木遺跡	20住	9c後		白色・赤色・黒色粒子、雲母、小礫	内外面共鈍い黄橙色	内面横位ハケメ状ナデ、外面斜位ナデ	B類	口縁部破片	2	やや軟質、摩滅やや顕著
5	〆木遺跡	20住	9c後		白色・赤色・黒色粒子、雲母、小礫	内外面共鈍い黄橙色	内外面斜位・縦位ナデ	B類	口縁部破片	2	やや軟質、摩滅やや顕著
6	〆木遺跡	20住	9c後		白色・赤色・黒色粒子、雲母、小礫	内外面共鈍い黄橙色	内面横位ナデ、外面横位・斜位ナデ	C類-1	口縁部破片	3	やや軟質、摩滅やや顕著、口縁端部部分的に面取り
7	〆木遺跡	21住B	9c後		白色・赤色・黒色粒子、雲母、小礫	鈍い黄褐色	内面横位ハケメ状ナデ、外面縦位・斜位ナデ	B類	口縁部破片	4	やや軟質、摩滅やや顕著
8	〆木遺跡	21住	9c後		白色・赤色・黒色粒子、雲母、小礫（比較的精選されている）	橙色	内外面横位・斜位ナデ、底部外面ヘラケズリ後ナデ		底部破片	20	推定底径7.2cm、やや軟質、やや強く被熱し受け内面変色、摩滅やや顕著
9	〆木遺跡	26住	9c前	セクションベルト	白色・赤色・黒色粒子、雲母、小礫	鈍い黄橙色	内面斜位ナデ、外面縦位・斜位ナデ	B類	口縁部破片	2	やや軟質
10	〆木遺跡	30住	9c後	セクションベルト	白色・赤色・黒色粒子、雲母、小礫	内外面共鈍い黄橙色	内外面横位・斜位ナデ	C類-2	口縁部破片	9	やや硬質、内外面薄く赤褐色化、摩滅やや顕著、口縁端部面取り
11	〆木遺跡	31住	9c前	フク土	白色・赤色・黒色粒子、雲母、小礫（比較的精選されている）	鈍い黄橙色	内面斜位ナデ、外面横位・縦位・斜位ナデ	B類	口縁部破片	4	やや硬質
12	〆木遺跡	32住B	8c末	床	白色・黒色粒子、雲母、小礫	内面灰白色 外面鈍い黄橙色	内面横位ハケメ状ナデ、外面縦位ナデ		胴部破片	6	やや硬質、摩滅やや顕著
13	〆木遺跡	32住B	8c末	床	白色・赤色・黒色粒子、雲母、小礫	鈍い黄橙色	内面縦位・斜位ナデ、外面　斜位ナデ		胴部部破片	6	やや硬質、外面灰褐色化
14	〆木遺跡	1溝	?		白色・赤色・黒色粒子、雲母、小礫	鈍い黄褐色	内面横位ハケメ状ナデ・斜位ナデ、外面縦位・斜位ナデ		胴部破片	4	やや硬質
15	〆木遺跡	3T	?		白色・黒色粒子、雲母、小礫	鈍い黄褐色	内面斜位ハケメ状ナデ・斜位ナデ、外面横位・斜位ナデ	C類-2	口縁部破片	5	やや軟質、摩滅顕著、口縁端部部分的面取り

鋳物師屋遺跡図版 1

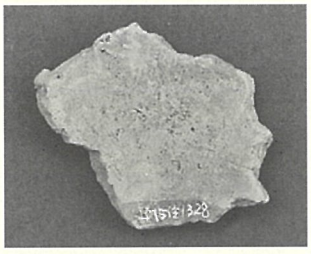
1表

1裏

2表

2裏

3表


3裏

4表

4裏

5表

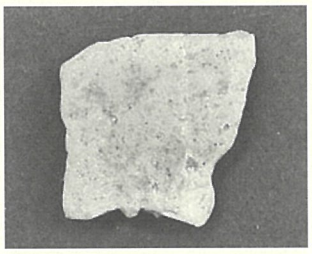
5裏

6表

6裏

7表

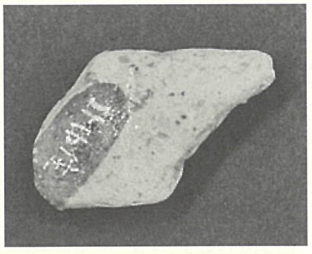
7裏


8表

8裏

9表

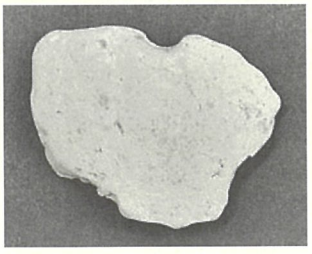
9裏


10表

10裏

11表

11裏

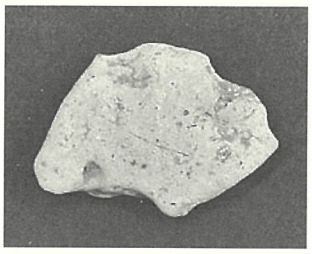

12表

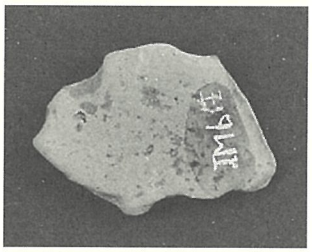
12裏

鋳物師屋遺跡図版 2

13 表

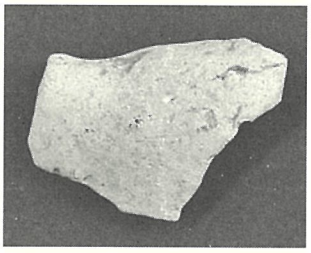
13 裏


14 表


14 裏

15 表

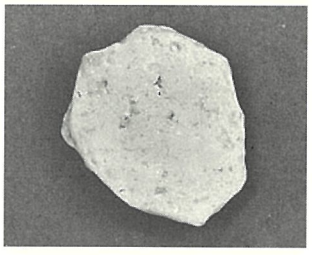
15 裏


16 表

16 裏

17 表

17 裏


18 表

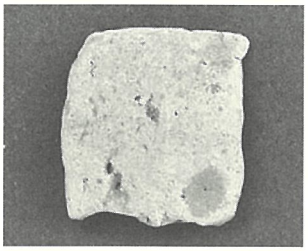
18 裏

19 表

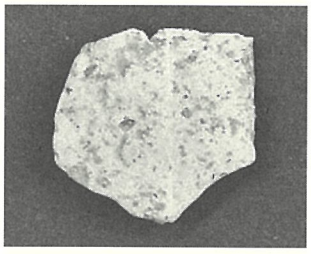
19 裏

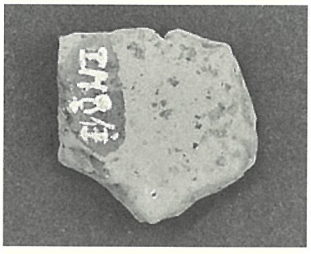
20 表

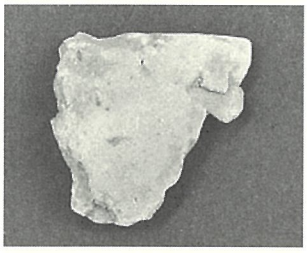
20 裏


21 表

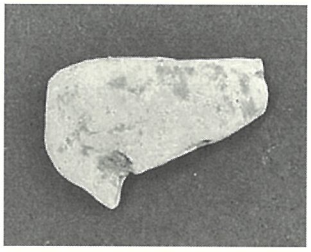
21 裏


22 表


22 裏


23 表

23 裏


24 表

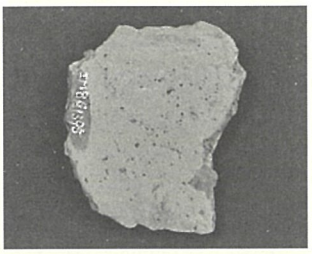
24 裏

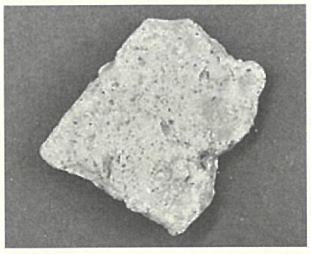
鋳物師屋遺跡図版 3

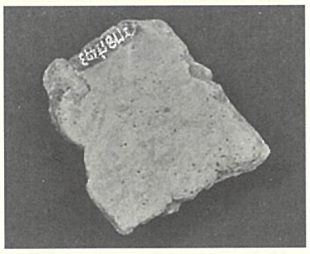
25 表

25 裏

26 表


26 裏

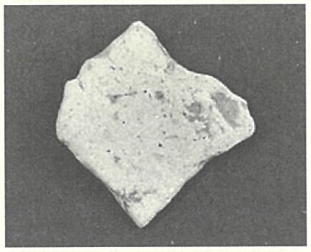

27 表

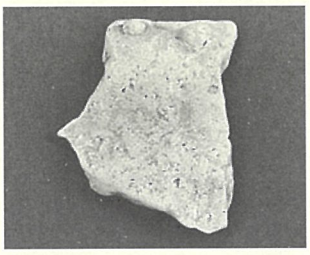

27 裏

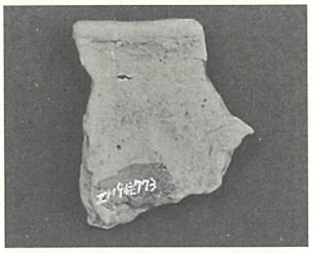
28 表

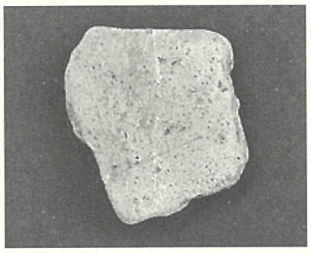
28 裏

29 表

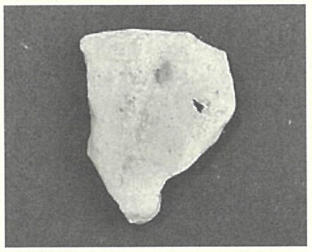

29 裏

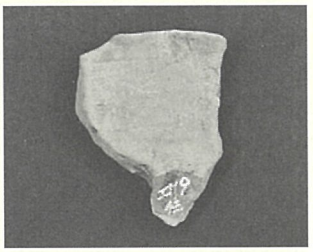

30 表


30 裏


31 表

31 裏


32 表

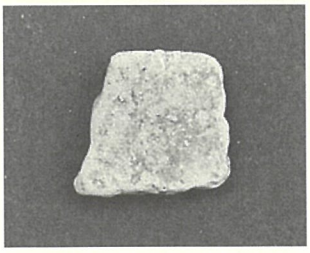

32 裏

33 表

33 裏

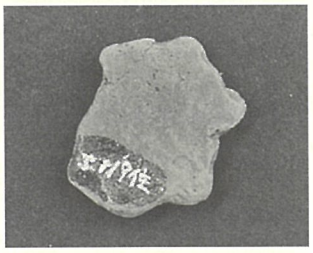
34 表

34 裏

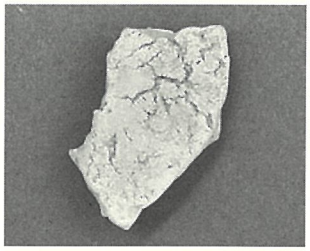

35 表

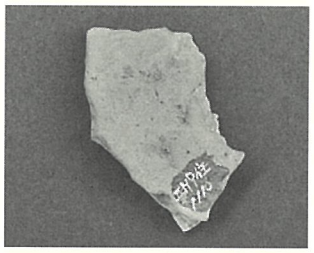
35 裏

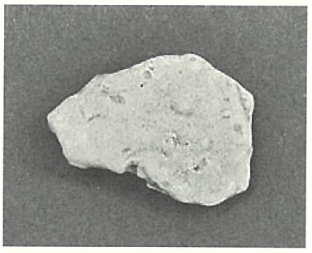
36 表


36 裏

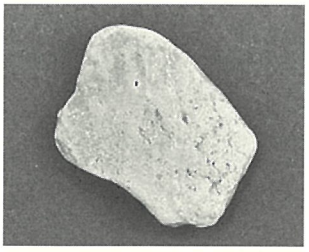
鋳物師屋遺跡図版 4


37 表


37 裏


38 表

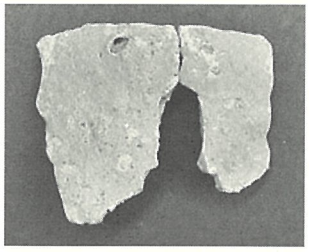
38 裏

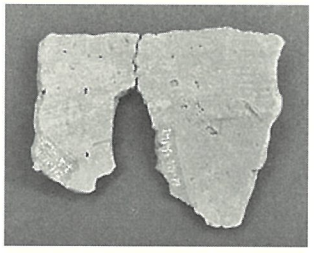

39 表

39 裏

40 表

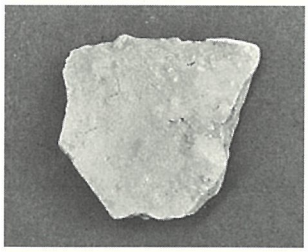
40 裏

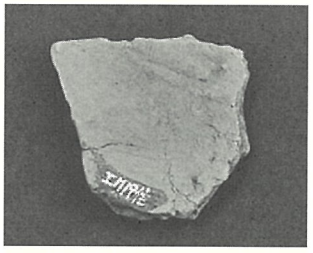

41 表


41 裏

42 表

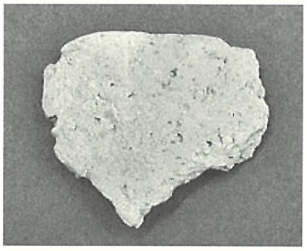
42 裏

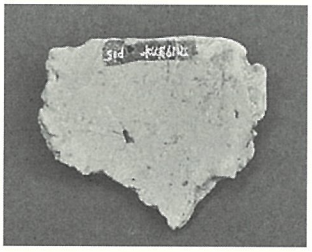

43 表


43 裏

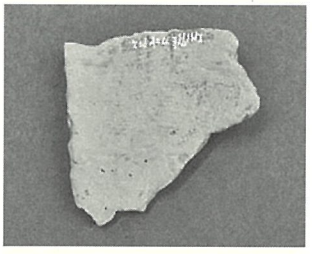
44 表

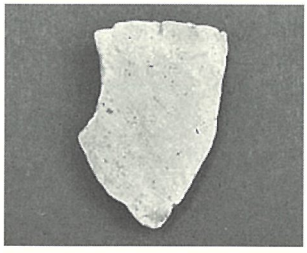
44 裏

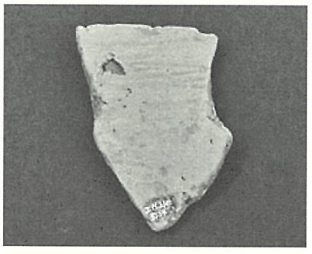

45 表

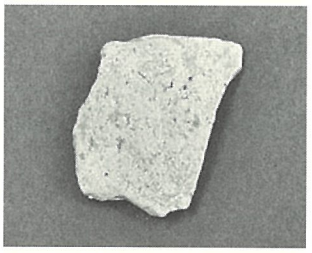

45 裏

46 表


46 裏


47 表


47 裏

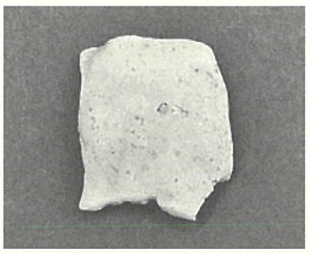

48 表

48 裏

鋳物師屋遺跡図版 5

49 表

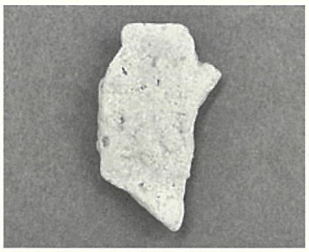
49 裏

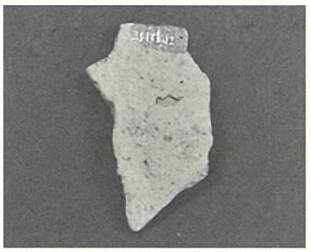

50 表

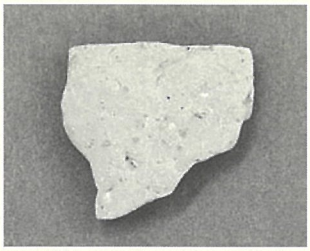
50 裏

51 表

51 裏


52 表


52 裏


53 表

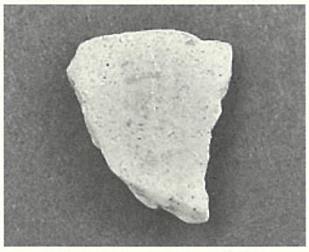
53 裏

54 表

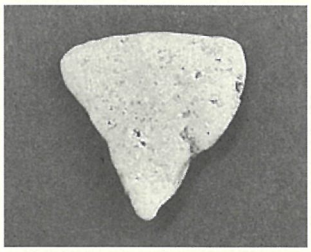
54 裏

55 表

55 裏


56 表

56 裏

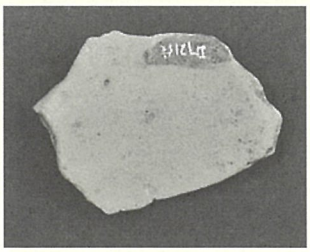

57 表

57 裏

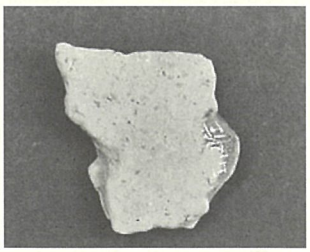
58 表

58 裏

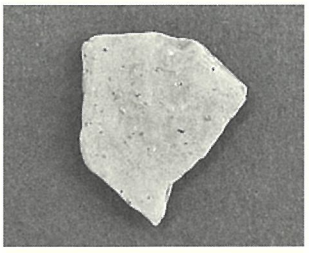
59 表


59 裏

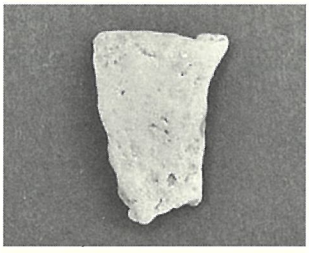
60 表

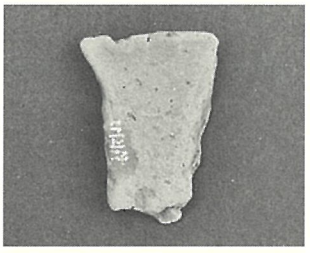

60 裏

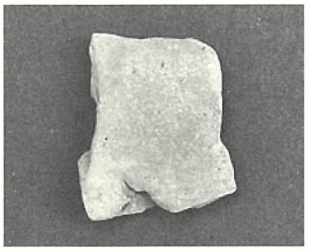
鋳物師屋遺跡図版 6


61 表

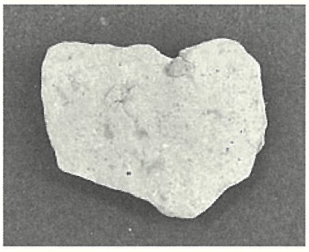
61 裏


62 表


62 裏


63 表

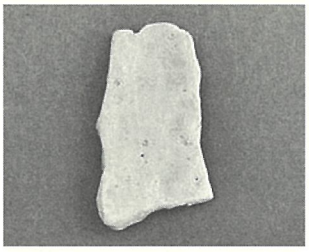
63 裏

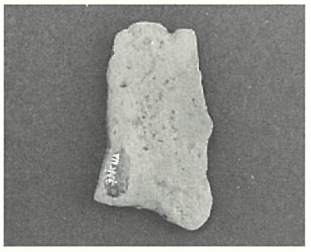

64 表

64 裏

65 表

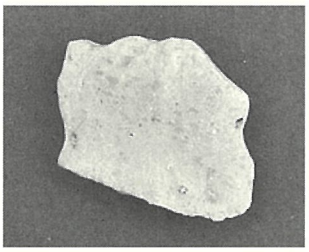
65 裏


66 表

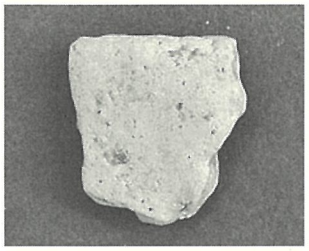

66 裏

67 表

67 裏


68 表

68 裏


69 表

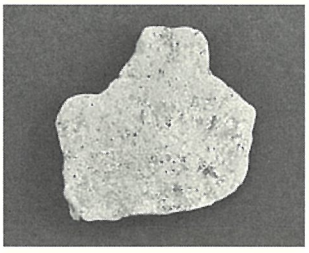
69 裏

70 表

70 裏

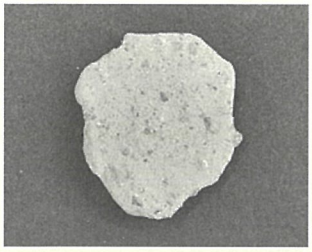
71 表

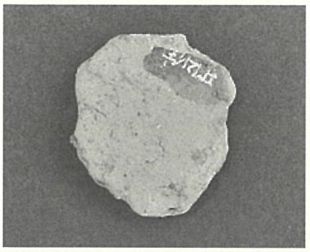
71 裏

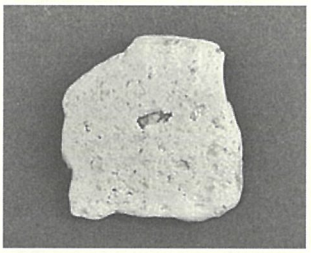

72 表

72 裏

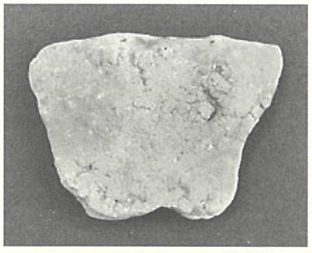
鋳物師屋遺跡図版 7


73 表


73 裏


74 表

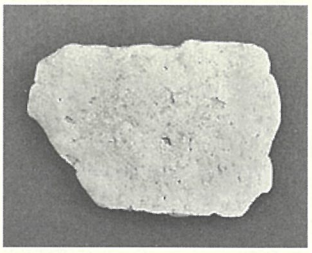
74 裏

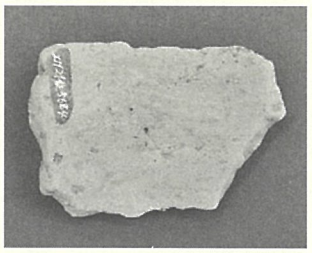

75 表

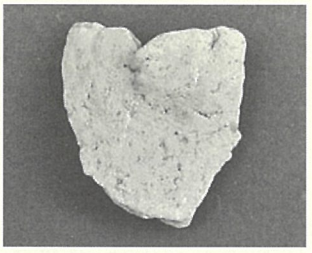
75 裏

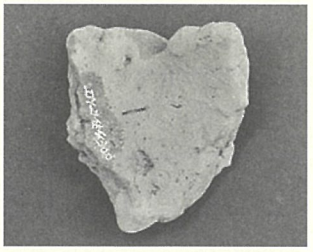
76 表

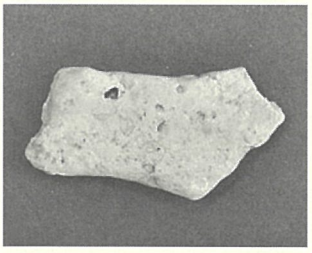
76 裏


77 表

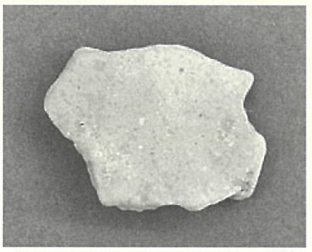

77 裏


78 表

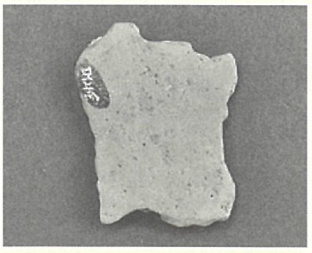

78 裏


79 表

79 裏

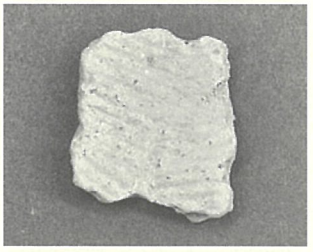

80 表

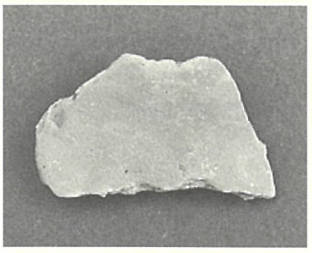
80 裏

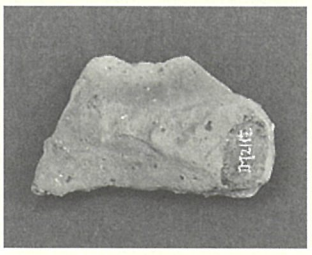

81 表

81 裏

82 表


82 裏


83 表


83 裏

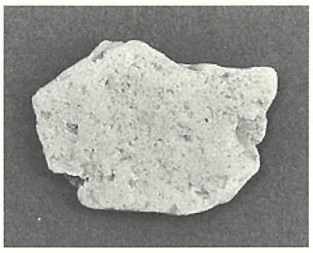
84 表

84 裏

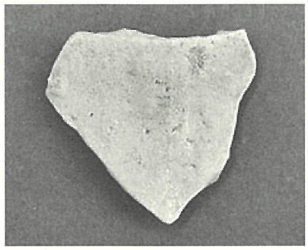
鋳物師屋遺跡図版 8

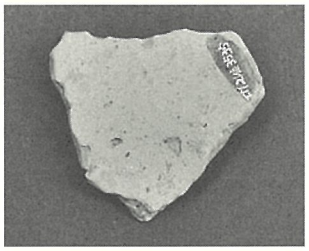
85 表

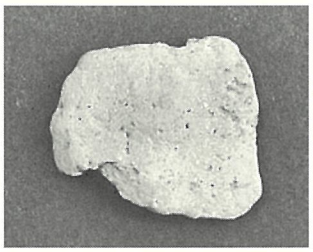
85 裏

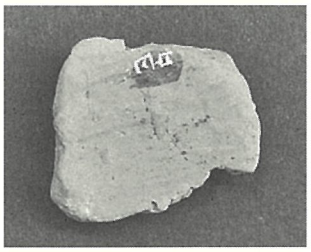

86 表

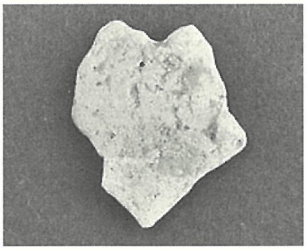
86 裏


87 表


87 裏


88 表


88 裏


89 表

89 裏

90 表

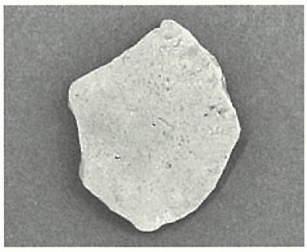
90 裏

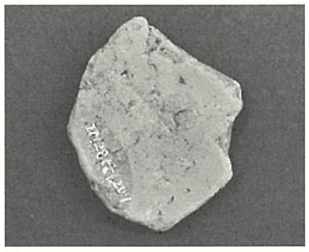
91 表

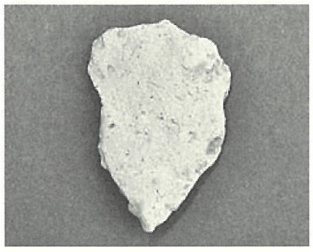
91 裏

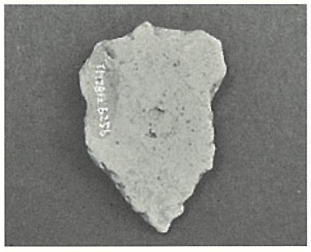
92 表

92 裏


93 表

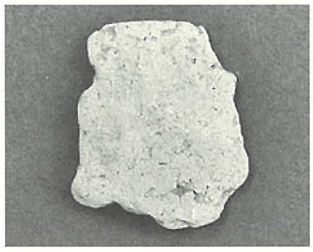

93 裏


94 表


94 裏

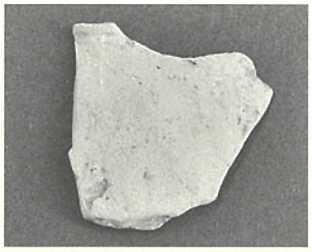
95 表

95 裏

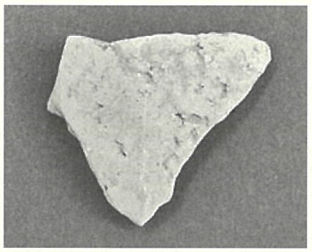

96 表

96 裏

鋳物師屋遺跡図版 9

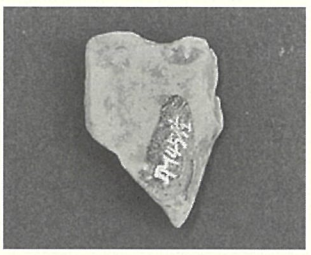

97 表

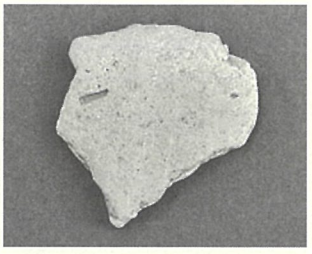
97 裏


98 表

98 裏

99 表


99 裏


100 表

100 裏

101 表

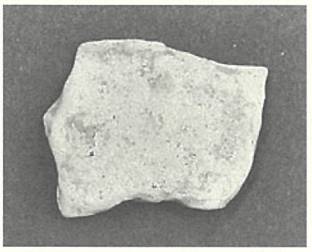
101 裏

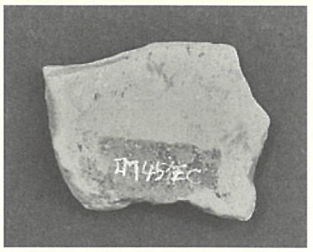
102 表

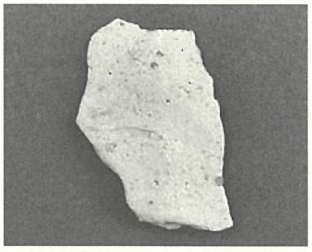
102 裏

103 表

103 裏


104 表

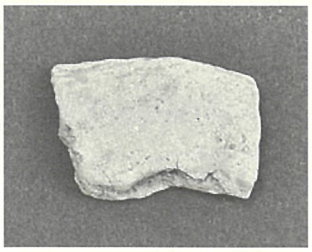

104 裏


105 表

105 裏

106 表

106 裏


107 表

107 裏

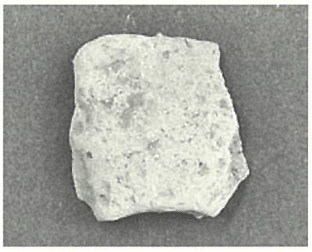
108 表

108 裏

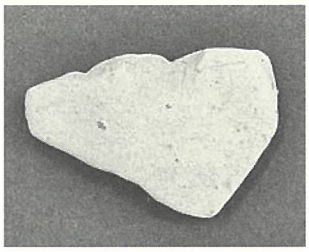
鋳物師屋遺跡図版 10

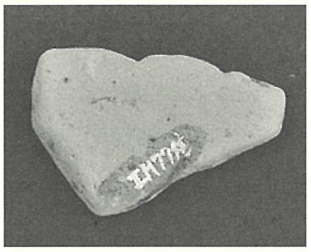
109 表

109 裏

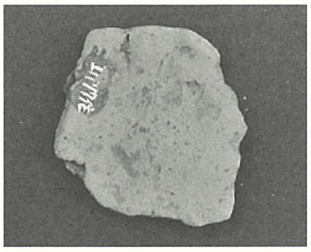

110 表

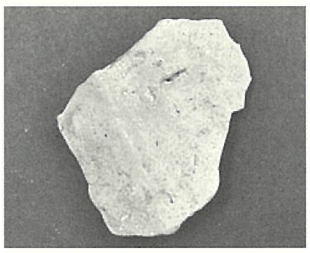
110 裏


111 表

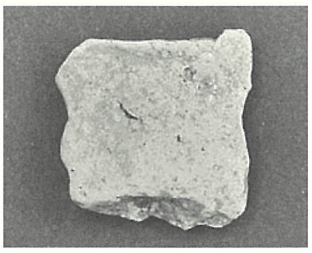

111 裏

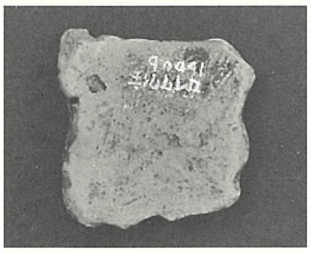
112 表


112 裏


113 表

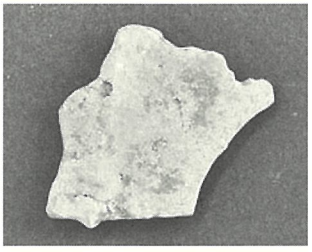
113 裏

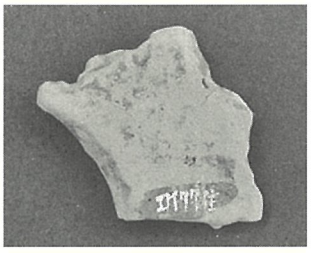

114 表


114 裏

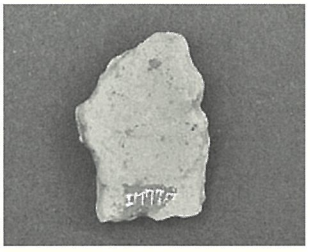
115 表

115 裏


116 表


116 裏

117 表

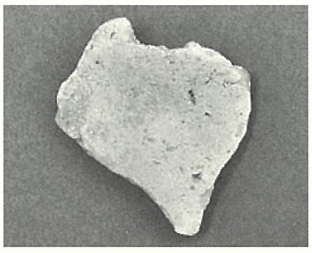

117 裏

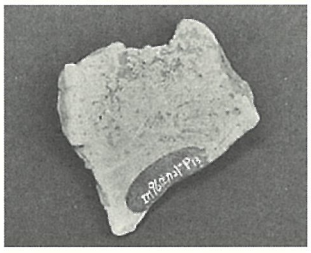
118 表

118 裏

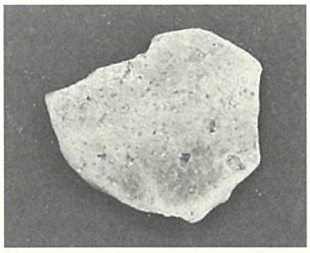
119 表

119 裏


120 表


120 裏

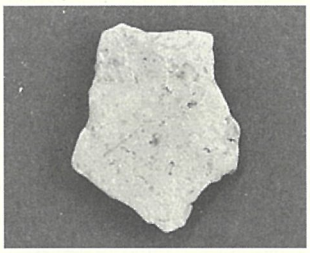
鋳物師屋遺跡図版 11


121 表

121 裏

122 表

122 裏


123 表

123 裏

124 表

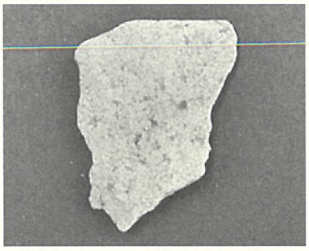
124 裏

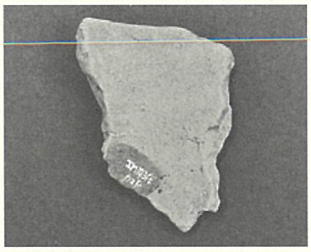
125 表

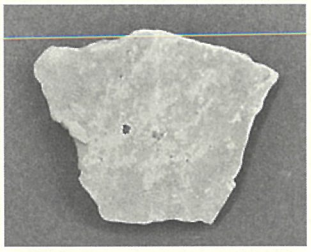
125 裏

126 表

126 裏


127 表


127 裏

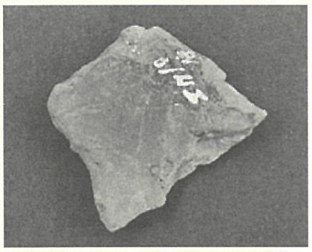

128 表

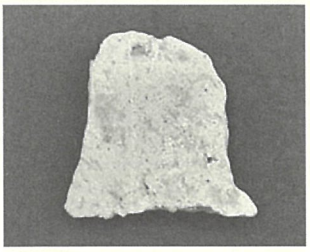
128 裏

129 表

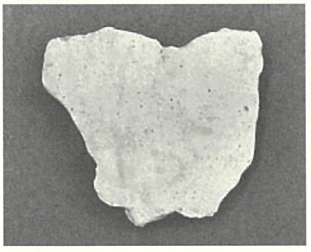
129 裏

130 表


130 裏


131 表

131 裏

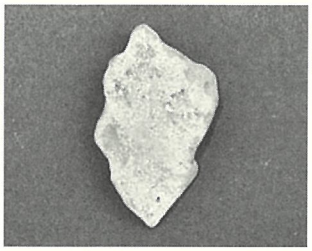

132 表

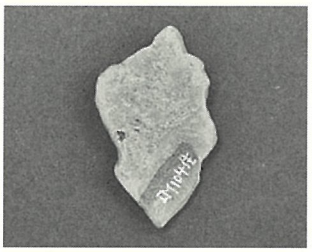
132 裏

鋳物師屋遺跡図版 12

133 表

133 裏


134 表


134 裏

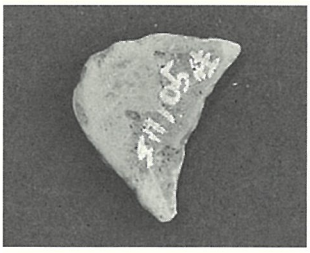
135 表

135 裏

136 表

136 裏

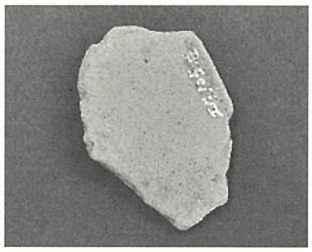
137 表


137 裏

138 表

138 裏

139 表

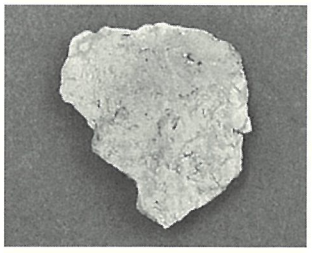

139 裏

140 表

140 裏

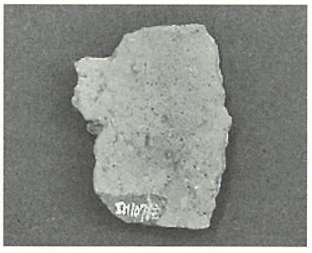
141 表

141 裏

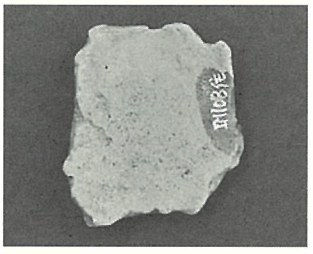

142 表

142 裏

143 表

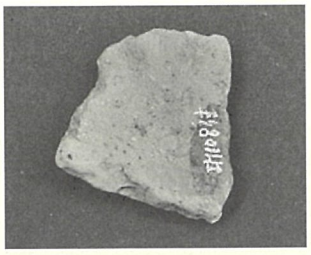

143 裏

144 表


144 裏

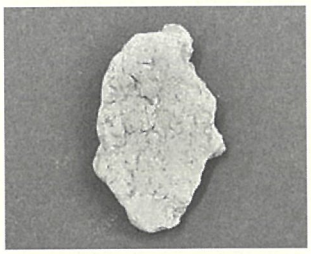
鋳物師屋遺跡図版 13

145 表

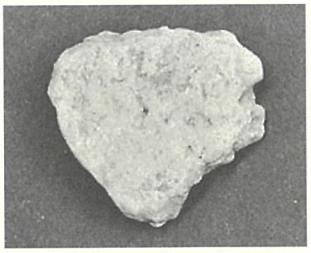

145 裏

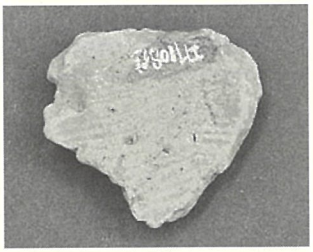
146 表

146 裏


147 表

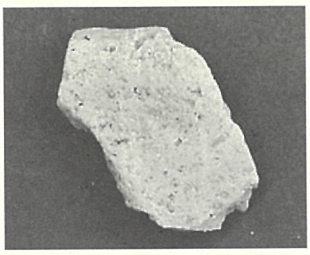
147 裏


148 表

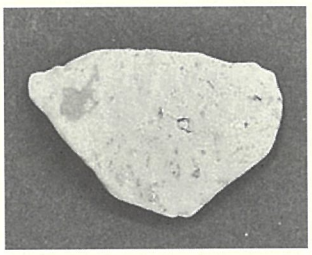

148 裏

149 表

149 裏


150 表

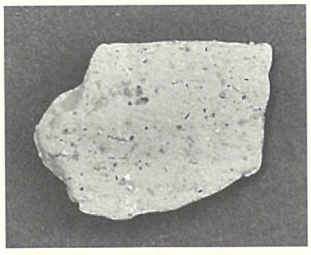
150 裏


151 表

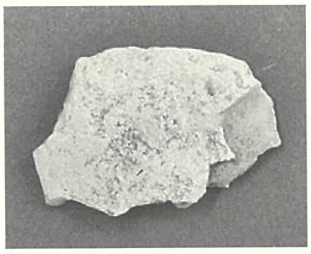
151 裏

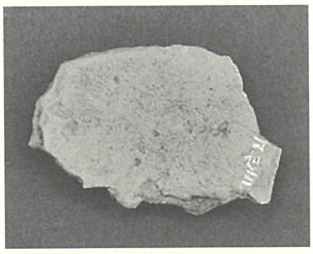
152 表

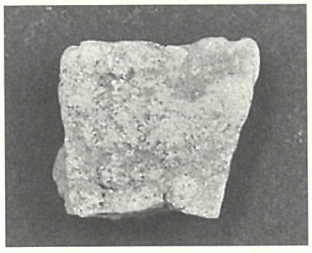
152 裏


153 表

153 裏


154 表


154 裏

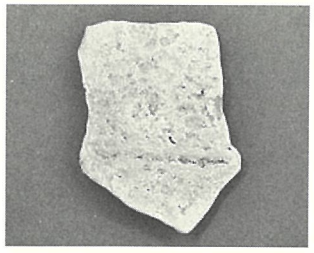

155 表

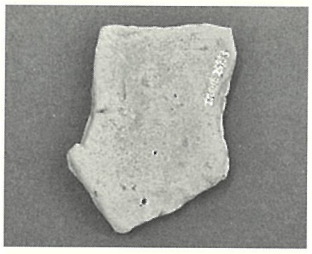
155 裏

156 表

156 裏

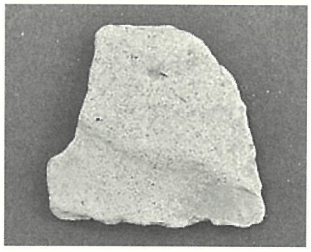
鋳物師屋遺跡図版 14


157 表

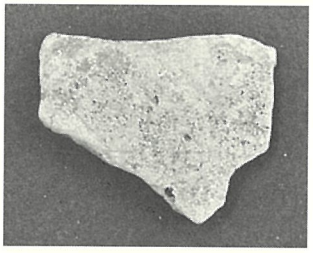

157 裏

158 表

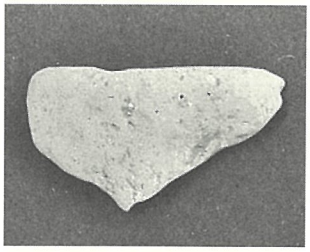
158 裏


159 表

159 裏


160 表

160 裏


161 表

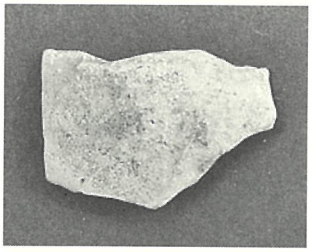
161 裏

162 表

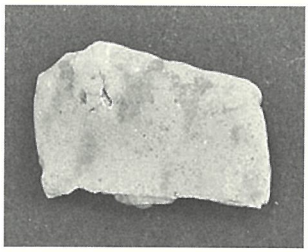
162 裏

163 表

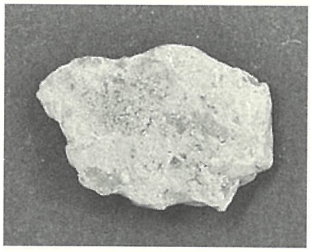
163 裏

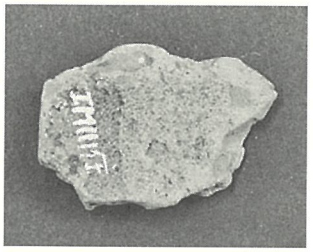

164 表

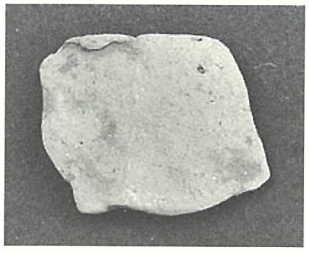
164 裏


165 表

165 裏


166 表


166 裏

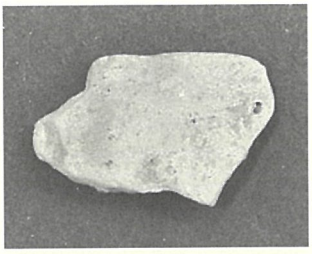

167 表

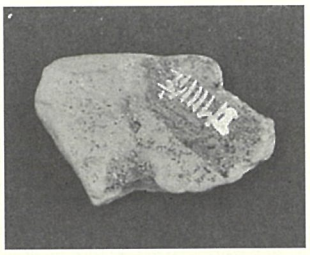
167 裏

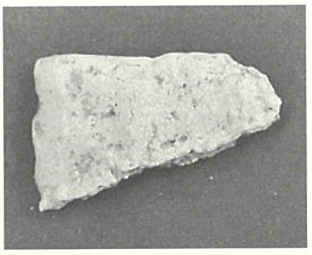
168 表

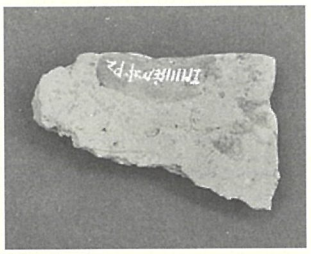
168 裏

鋳物師屋遺跡図版 15

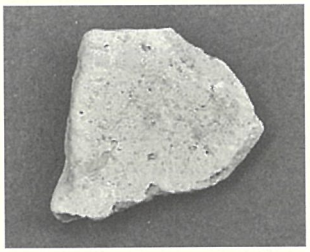

169 表

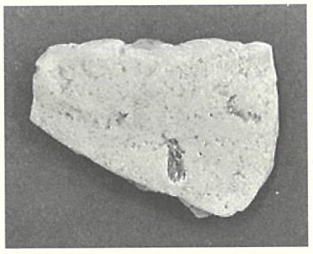

169 裏

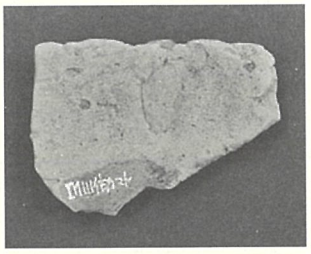

170 表

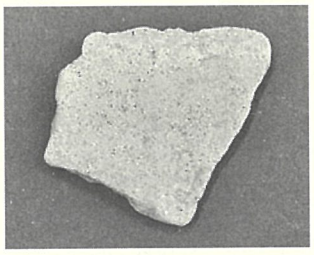

170 裏

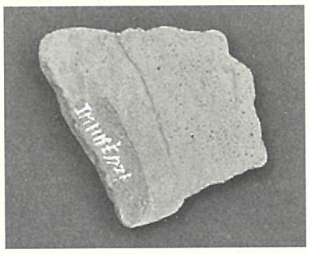
171 表


171 裏

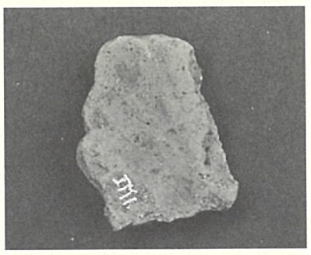

172 表


172 裏


173 表

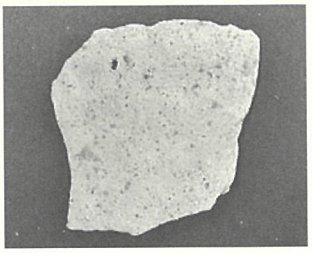

173 裏

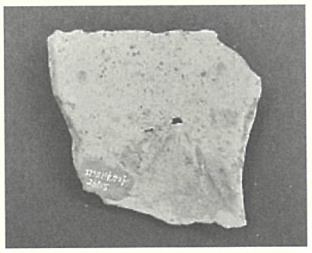
174 表


174 裏

175 表

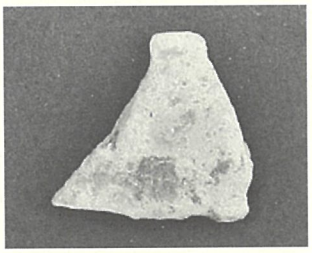
175 裏


176 表

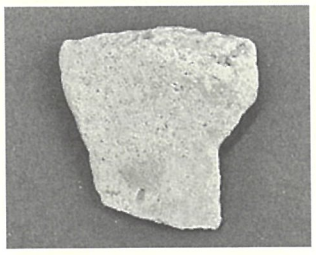

176 裏

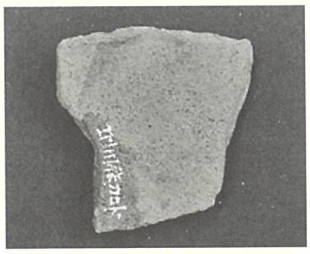
177 表

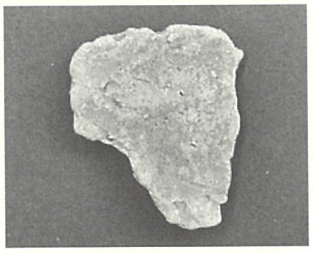
177 裏


178 表

178 裏

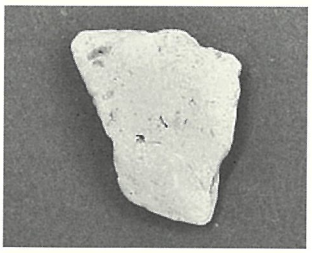

179 表


179 裏

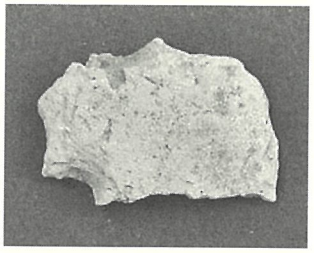

180 表

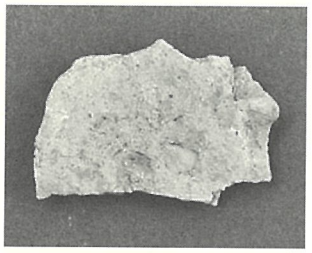
180 裏

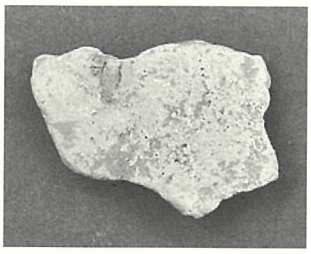
鋳物師屋遺跡図版 16


181 表

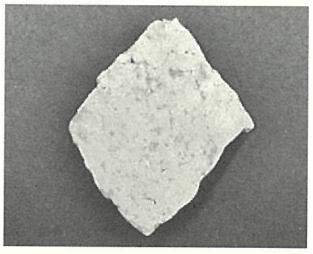
181 裏

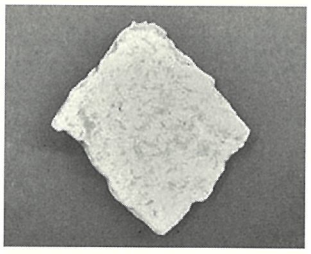

182 表


182 裏


183 表

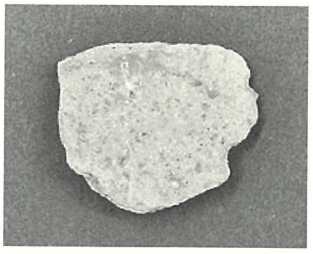
183 裏

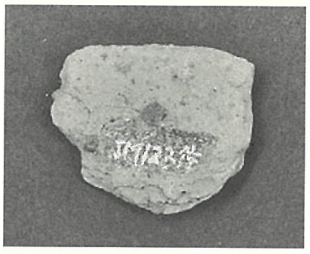

184 表


184 裏

185 表

185 裏


186 表


186 裏

187 表

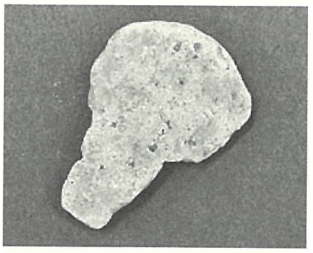
187 裏

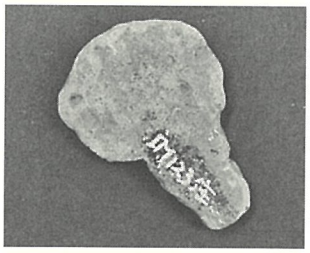
188 表

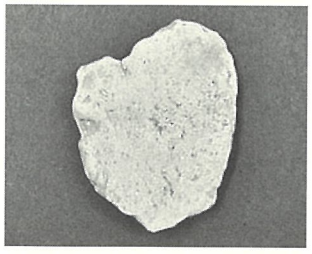
188 裏

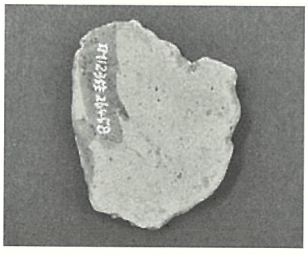
189 表

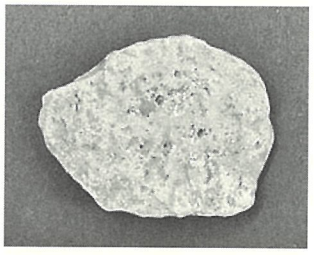
189 裏

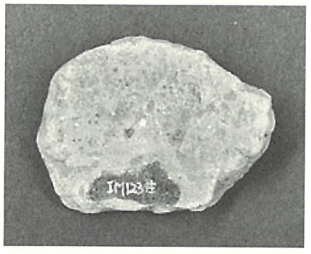

190 表


190 裏


191 表


191 裏

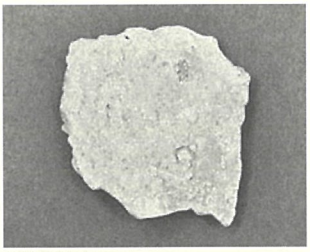

192 表

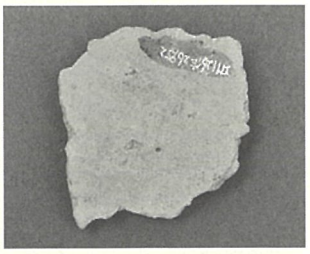

192 裏

鋳物師屋遺跡図版 17

193 表

193 裏


194 表


194 裏

195 表

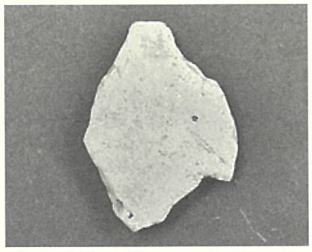
195 裏

196 表

196 裏

197 表

197 裏


198 表

198 裏

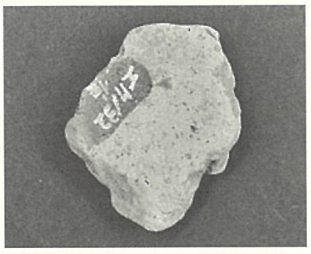
199 表

199 裏

200 表

200 裏

201 表


201 裏

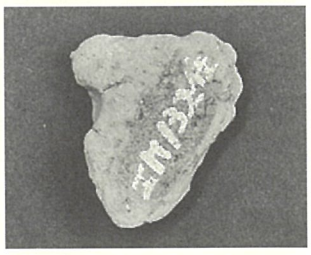
202 表

202 裏

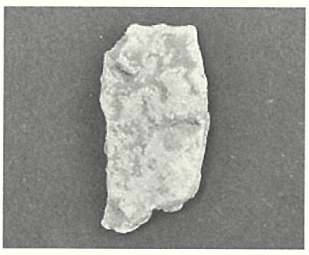
203 表

203 裏

204 表

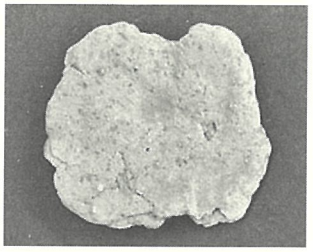

204 裏

鋳物師屋遺跡図版 18



205 表

205 裏



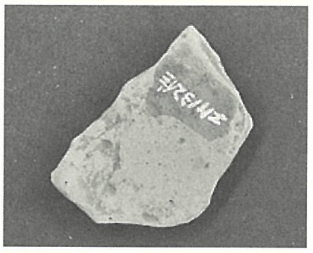
206 表

206 裏

207 表

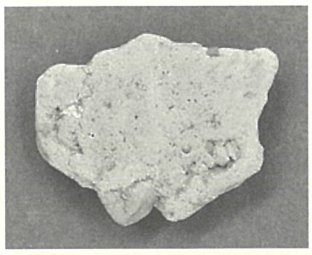
207 裏

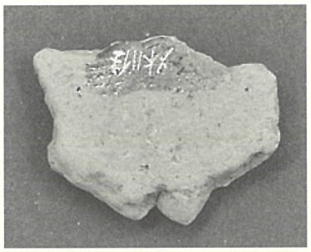
208 表

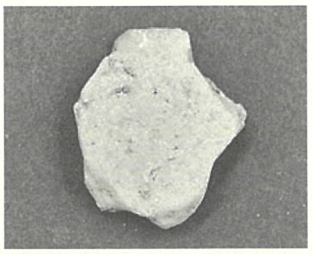


208 裏

〆木遺跡図版 1

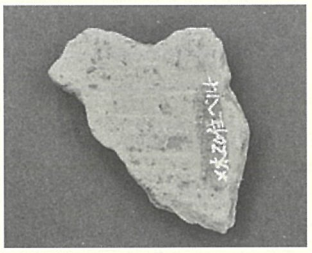

1表

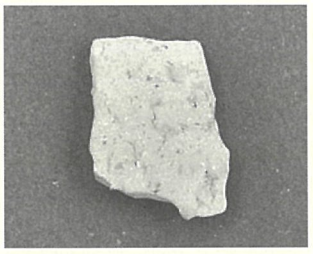

1裏


2表

2裏

3表


3裏


4表

4裏

5表

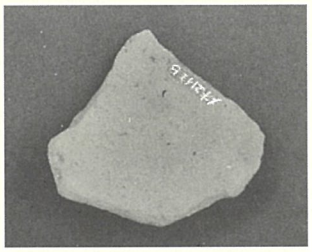
5裏

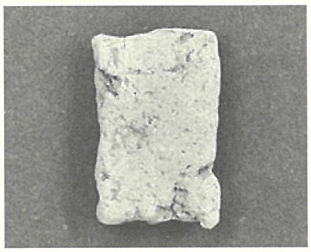
6表

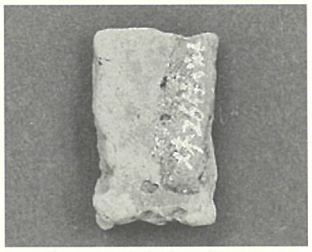
6裏

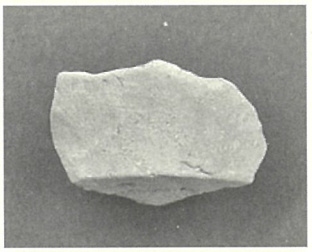
7表

7裏


8表

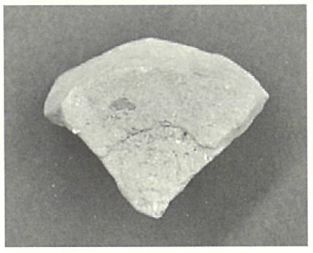

9表


9裏


8横

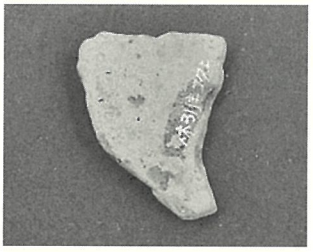
10表

10裏

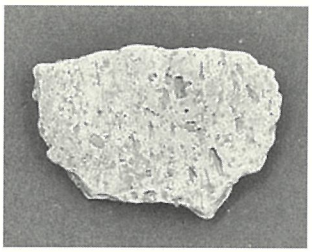

8裏

〆木遺跡図版 2

11 表



11 裏



12 表

12 裏

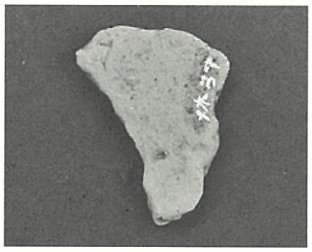
13 表

13 裏

14 表

14 裏

15 表



15 裏